深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第86集

塚東遺跡 II

2007

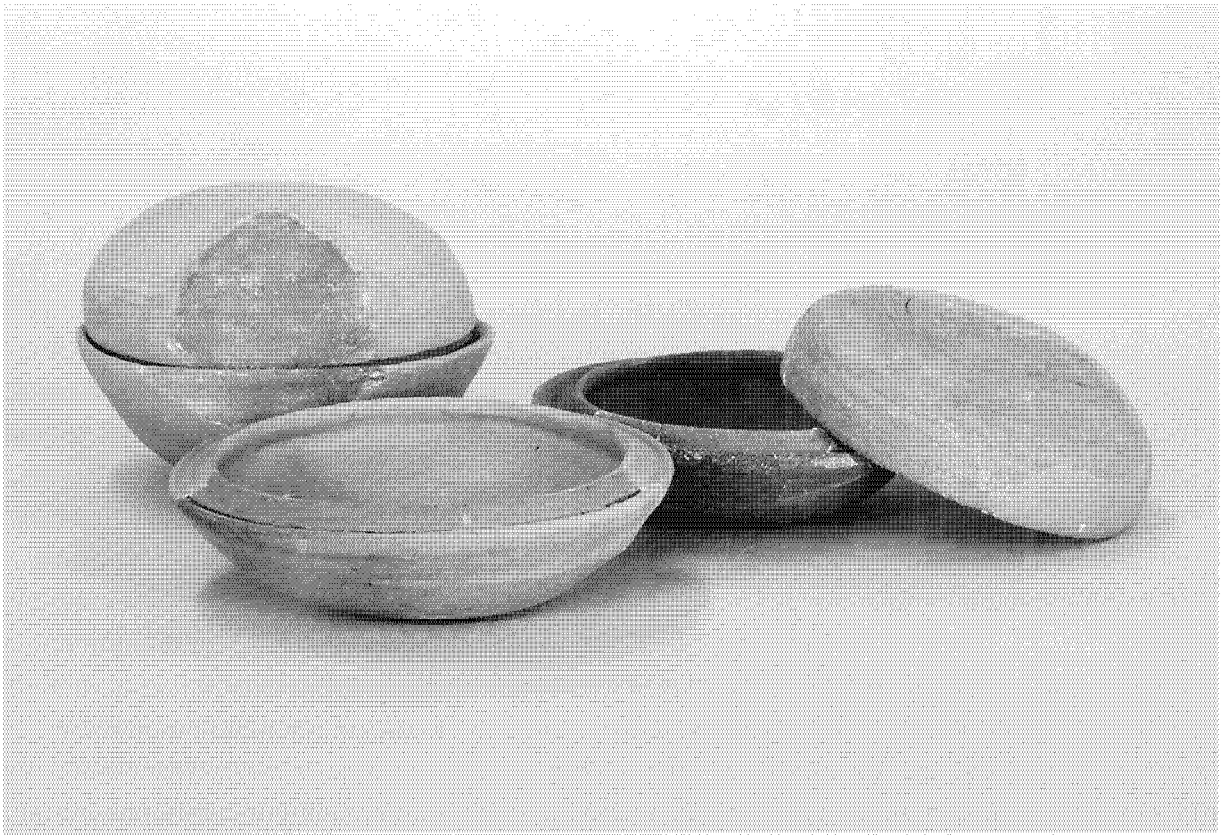
深谷市教育委員会

深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第86集

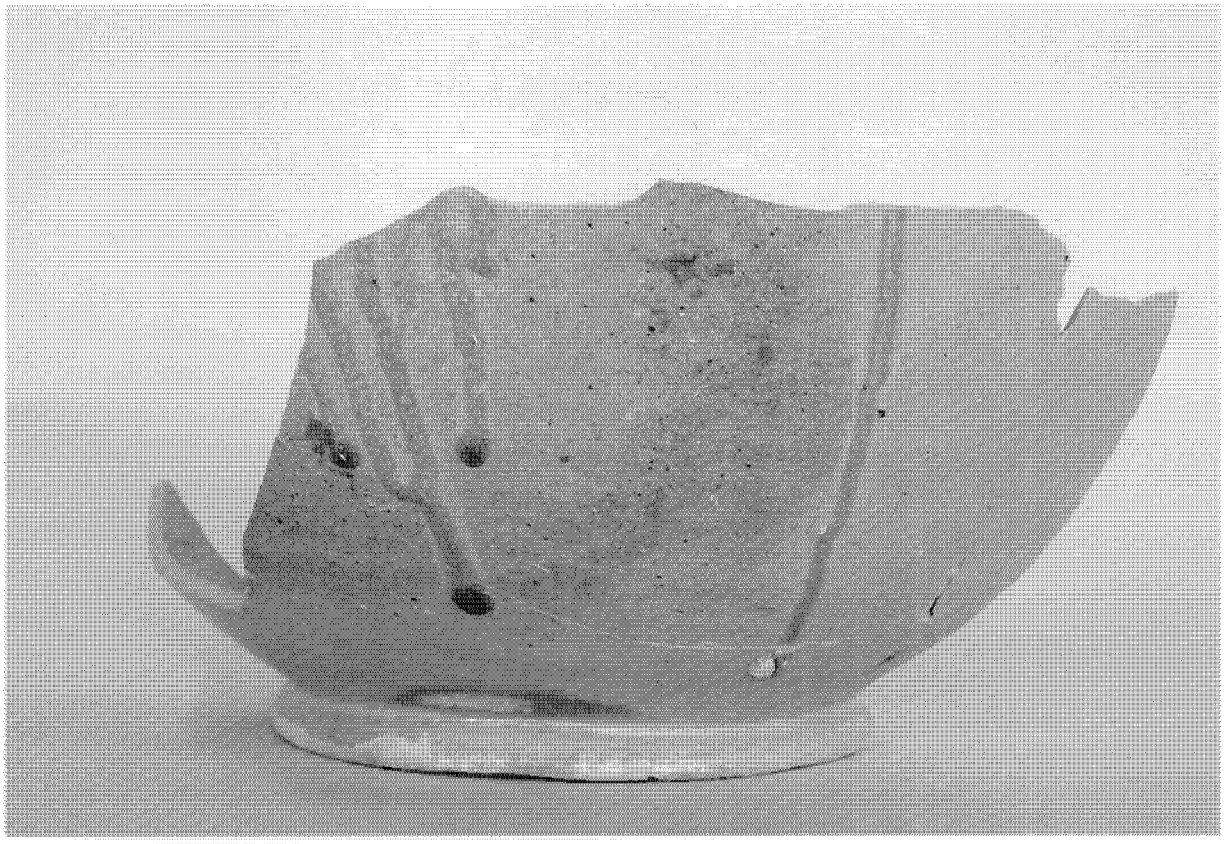
塚東遺跡 II

2007

深谷市教育委員会



15号住居跡出土須恵器



8号住居跡出土灰釉陶器

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、平成18年1月に深谷市・岡部町・川本町・花園町との合併により新たなスタートを迎えることとなりました。合併後の深谷市は、北部に利根川、南部に荒川が流れ、変化に富んだ地形や豊富な農産物があり、自然の恵み豊かな土地柄を有しています。

ここには、先人たちの残した足跡が、埋蔵文化財として今なお多く眠っております。なかでも、縄文時代晩期から弥生時代初期の土器を出土した四十坂遺跡・上敷免遺跡や、古代榛沢郡・幡羅郡の役所と推定される中宿・幡羅遺跡などは、埼玉県の原始・古代を考える上で欠かすことのできない遺跡と言えるでしょう。

深谷市では、合併以前から、こうした貴重な遺跡群を保護するために鋭意努力してまいりましたが、やむなく破壊を免れない場合は、記録保存のための発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、平成8年度に民間会社の受託事業として実施した調査の成果をまとめたものです。発掘調査では、飛鳥時代～平安時代の竪穴住居跡をはじめ、掘立柱建物跡等が検出され、豊富な遺物が出土しており地域史解明の上では、大きな成果を得られたものと確信しています。

本書が学術・教育関係はもとより、文化財に対する保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成19年3月

深谷市教育委員会
教育長　猪野幸男

例　言

1．本書は、塚東遺跡２次調査の発掘調査報告書である。なお、発掘調査箇所の地番は深谷市岡162番地１である。

2．発掘調査は、岡部町遺跡調査会が埼玉日産自動車株式会社の受託事業として実施した。発掘調査担当者は平田重之である。文化財保護法第57条の２（現行第93条）に基づく埋蔵文化財発掘の届出は平成８年４月１日付文第111－１号にて、同法第57条の１（現行第92条）に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出は、平成８年４月１日付文第112－１号にて岡部町教育委員会から埼玉県教育委員会へ進達した。

3．発掘調査は平田重之が担当し、平成８年４月10日から平成８年６月14日にかけて実施した。

4．出土品の実測図・観察表は、平田重之（平成17年度旧岡部町教育委員会当時）が作成したものを基本とし、一部追加・訂正を行った。

5．本書の執筆は、鳥羽政之が行なった。

6．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　例

1．発掘調査位置図は、岡部町都市計画図（1/2,500）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/25,000）を使用した。

2．遺構実測図は、現場では基本的に1/20、カマド実測図を1/10とし、本書掲載の段階で1/60及び1/30とした。遺物実測図については、基本的に1/3で掲載した。

3．図中の方位は、座標北を示す。

4．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

5．土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

目　次

序

例言・凡例

目次

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過 …… 1
　1．発掘調査の経緯 …… 1
　2．発掘調査・整理報告書刊行の経過 …… 1
　3．発掘調査・整理報告書刊行の組織 …… 2

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 3
　1．地理的環境 …… 3
　2．歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 5
　1．塚東遺跡の概要 …… 5
　2．発見された遺構と遺物 …… 5

Ⅳ　まとめ …… 47

挿図目次

第１図　塚東遺跡の範囲と調査地点 …… 2
第２図　周辺の遺跡分布 …… 4
第３図　塚東遺跡１～２次調査全測図 …… 6
第４図　塚東遺跡２次調査遺構配置図 …… 7
第５図　１号住居跡 …… 12
第６図　１号住居跡カマド …… 12
第７図　２号住居跡 …… 13
第８図　２号住居跡カマド …… 13
第９図　３号住居跡 …… 14
第10図　４号住居跡 …… 14
第11図　５号住居跡 …… 15
第12図　５号住居跡カマド …… 15
第13図　６号住居跡 …… 16
第14図　７号住居跡 …… 17
第15図　７号住居跡カマド …… 17
第16図　８号住居跡 …… 18
第17図　８号住居跡カマド …… 18
第18図　９号住居跡 …… 19
第19図　10号住居跡 …… 20
第20図　10号住居跡カマド …… 20
第21図　11号住居跡 …… 21
第22図　11号住居跡カマド …… 21
第23図　12号住居跡 …… 22
第24図　12号住居跡カマド …… 22
第25図　13号住居跡 …… 23
第26図　14号住居跡 …… 23
第27図　15号住居跡 …… 24
第28図　15号住居跡カマド …… 24
第29図　16・17号住居跡 …… 25
第30図　18・19号住居跡 …… 25
第31図　１号掘立柱建物跡 …… 26
第32図　１号溝跡 …… 27
第33図　１～３号土壙 …… 28
第34図　４～５号土壙 …… 28
第35図　６号土壙 …… 28
第36図　７号土壙 …… 28
第37図　８号土壙 …… 28
第38図　９号土壙 …… 28
第39図　１～４号住居跡出土遺物 …… 29
第40図　５号住居跡出土遺物 …… 30
第41図　６・７号住居跡出土遺物 …… 31
第42図　８号住居跡出土遺物 …… 32
第43図　８号住居跡出土埴 …… 33
第44図　９号住居跡出土遺物 …… 34
第45図　９号・10号・13号住居跡出土遺物 …… 35
第46図　11号住居跡出土遺物 …… 36
第47図　15号住居跡出土遺物 …… 37
第48図　15・16・17号住居跡出土遺物 …… 38
第49図　17・19号住居跡出土遺物 …… 39
第50図　１号掘立柱建物跡出土遺物 …… 40
第51図　１号溝跡出土遺物 …… 41
第52図　抉状耳飾・鉄製品・土錘 …… 42
第53図　塚東遺跡グリッド出土炭化米 …… 42

写真図版

図版1
調査区西部の遺構群
調査区東部の遺構群

図版2
1号住居跡
2号住居跡
4号住居跡
5号住居跡
5号住居跡カマド
7号住居跡
8号住居跡
9号住居跡

図版3
10号住居跡
10号住居跡カマド
11号住居跡
11号住居跡カマド
12号住居跡
12号住居跡カマド
13号住居跡
14号住居跡

図版4
15号住居跡
1号掘立柱建物跡
1号溝跡
作業風景
炭化米出土状況

図版5
1号住居跡No.1
1号住居跡No.2
2号住居跡No.1
2号住居跡No.2
3号住居跡No.1
3号住居跡No.2
4号住居跡No.1
4号住居跡No.2
4号住居跡No.3
4号住居跡No.8

図版6
5号住居跡No.1
5号住居跡No.2
5号住居跡No.5
5号住居跡No.6
5号住居跡No.7
5号住居跡No.24
6・7号住居跡No.4
6・7号住居跡No.5
8号住居跡No.6
8号住居跡No.8

図版7
8号住居跡No.9
8号住居跡No.13
8号住居跡No.21
9号住居跡No.1
9号住居跡No.4
9号住居跡No.5
9号住居跡No.17

図版8
9号住居跡No.24
9号住居跡No.27
10号住居跡No.7
11号住居跡No.1
11号住居跡No.3
11号住居跡No.6
11号住居跡No.9
11号住居跡No.14
11号住居跡No.22～24

図版9
15号住居跡No.3
15号住居跡No.6
15号住居跡No.11
15号住居跡No.16・20
15号住居跡No.17・21
15号住居跡No.22
1号掘立柱建物跡No.2
1号掘立柱建物跡No.8
1号掘立柱建物跡No.13

図版10
1号溝No.4
1号溝No.8
1号溝No.10
1号溝No.12
塚東遺跡出土抉状耳飾
塚東遺跡出土土錘
塚東遺跡出土鉄製品

Ⅰ　発掘調査の経緯及び経過

１．発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。特に、縄文時代草創期の土器が採集された西谷遺跡や、弥生文化波及期の遺跡として名高い四十坂遺跡・上敷免遺跡、国重要文化財に指定された緑釉手付瓶を出土した西浦北遺跡など、豊富な内容を有す。

塚東遺跡は、深谷市の北西に位置する。ＪＲ岡部駅北東１ｋｍにあり、国道17号線沿線に所在する。遺跡の範囲は楕円の形状をしており、規模は、長軸108ｍ、短軸63ｍを測る。岡遺跡、白山遺跡は当遺跡に隣接する。周囲には、この他にも榛沢郡家関連遺跡群が集中する。

発掘調査は、第１次調査が平成元年６～７月に実施されており、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡２棟が検出されている。この調査により、遺跡は、７世紀後半～古代末期まで継続する集落跡であることが確認されている。

今回報告する発掘調査は、１次調査に隣接した範囲であり、開発原因も同一である。以下発掘調査の経緯を記す。

平成７年12月26日、埼玉日産自動車株式会社（以下、事業者と記す）は、所有地敷地内に倉庫・事務所建設を計画し、開発予定地における文化財の所在及びその取扱について、岡部町教育委員会（以下教育委員会と記す）に照会した。教育委員会では、これを受け照会地内は、塚東遺跡（埼玉県遺跡登録番号№63－144）の範囲にあたること、遺跡の内容を詳細に把握するため、試掘調査を実施する必要があることを回答した。

その後、平成８年１月８日に教育委員会による試掘調査が実施された。試掘調査では、住居跡、埋没谷等が確認され、現状変更する場合は、発掘調査を実施する必要が生じた。

その後、事業者は、現状変更は避けられないと判断し、57条の２第１項の規定（当時）による埋蔵文化財発掘届を平成８年４月１日付けで提出した。また、発掘調査は、事業主の委託を受け、岡部町遺跡調査会が実施することとなり、同日付けで57条の１第１項の規定（当時）による発掘調査の届出が、同調査会より提出された。

発掘調査は、平成８年４月10日～６月14日までの期間実施された。

２．発掘調査・整理報告書刊行の経過

(1)　発掘調査の地番

調査地点の地番は、岡部町（当時、以下深谷市と記す）岡162番地１である。小字名の塚東を遺跡名とした。発掘調査面積は、816㎡である。先述したとおり、平成元年度に隣接地の調査が行われており、今回報告分は第２次調査にあたる。

(2)　表土除去

発掘調査は、４月10日から着手した。作業は、まずバックホーによる表土除去から始めた。調査地は、台地末端の斜面地に存在しており、東方は谷地形となっていることから、表土は厚く堆積しており、確認面である黄褐色ローム層上面までの深さは、１～２ｍを測る。

(3)　遺構確認・基準点測量

表土除去に続き、遺構確認作業を実施した。第１次調査、及び試掘調査結果から予測していたとおり、竪穴住居跡は重複が著しく、遺構確認も難行した。

遺構確認には、７日程を有し、竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡１棟、土壙、ピット等を確認した。

(4)　遺構掘り下げ及び図化作業

竪穴住居跡は、遺構の重複関係を確認しながら慎重に掘り下げを行った。土層断面を図化した後、床面を検出した段階で写真撮影及び図化を行った。

遺物については、出土状態の写真撮影を行った。掘立柱建物跡、溝跡、土壙等も同様な過程で行い、作業の全行程が終了したのは、６月14日のことであった。

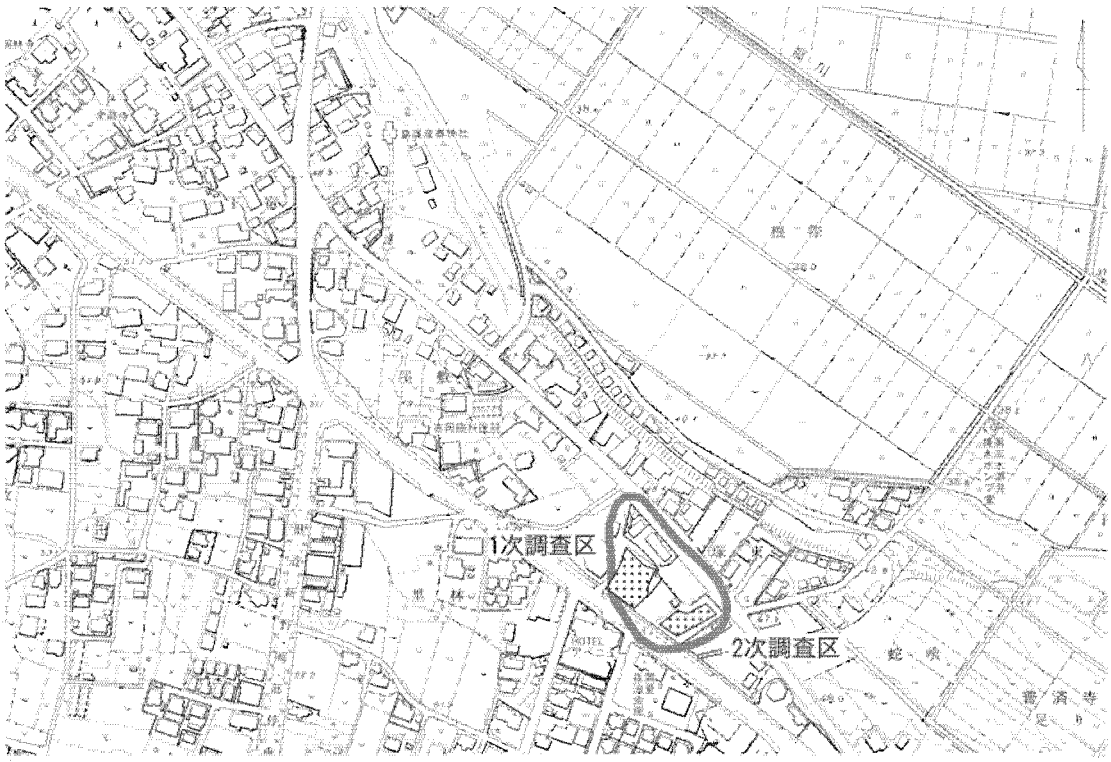
(5)　整理報告書刊行

整理作業は、水洗・注記を平成８年度中に終了した後、中断していたが平成17年４月より再開した。平成17年４月より遺物の復元、図面整理等を実施した。また、平成17年12月には、岡部町遺跡調査会が解散し、これ以降の事業については深谷市教育委員会が引き継ぐこととなり、教育委員会の直営の事業として実施した。

その後、土器実測・観察表については、平成17年度中に終了した。平成18年４月より、遺構・遺物のトレース、図版作成等にとりかかり、平成18年10月～12月にかけて原稿執筆を行った。その後、印刷・製本作業にとりかかり、報告書は平成18年３月に刊行された。

3．発掘調査・整理報告書刊行の組織

深谷市教育委員会教育長	猪野幸男	主　査	鳥羽政之
教育次長	古川国康	〃	森田富雄
次　長	中村信雄	〃	宮本直樹
同岡部教育事務所所　長	柳田一郎	臨時職員	竹野谷俊夫
所長補佐	鈴木八十子	〃	黒澤　恵
主　査	金井登美子	〃	佐藤由江
〃	根岸　宏	〃	布施みゆき



第１図　塚東遺跡の範囲と調査地点（縮尺1/5,000）

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

1．地理的環境

深谷市は、埼玉県の北部に位置し、市内をJR高崎線、関越自動車道などが通る。

塚東遺跡は、深谷市岡（小字塚東）に所在する。JR高崎線岡部駅の北東に位置し、東西108ｍ、南北63ｍの範囲に及ぶ。近年は市街化が進んでいる。

遺跡は、櫛挽台地の北部に立地する。南部には標高116ｍの山崎山とこれに連なる諏訪山が存在する。遺跡の中心から50ｍ北は崖線となり、比高差7ｍ程で妻沼低地へ移行する。また、櫛挽台地の西は藤治川により区分され、本庄台地と接している。

2．歴史的環境

塚東遺跡の立地する櫛挽台地北部は、旧岡部町の中心街をかかえ、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から押圧縄文・爪形文土器などが検出され、草創期の土器として注目されてきた。遺構では、四十坂遺跡で前期の竪穴住居跡が、水窪遺跡や菅原遺跡から中期の住居跡が、上宿遺跡で後期の敷石住居跡が検出されている。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、当該期のまとまった資料として早くから注目されてきた。その後、平成２年の発掘調査では、再葬墓や土壙坑墓群が検出された。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連綿と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横矧板鋲留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から５世紀後半の当地域の首長墓と考えられている。

その後、６世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稲荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら築造されたことが認められる。

この他に、塚東遺跡の南に接する白山古墳群では、６世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳１）が調査された。弾琴埴輪や壺を捧げ持つ巫女の埴輪など６体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

なお、櫛挽台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛挽台地以外に分布の中心が認められる。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに162次に及ぶ調査が実施され、700軒を超える竪穴住居跡、150棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組井戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。

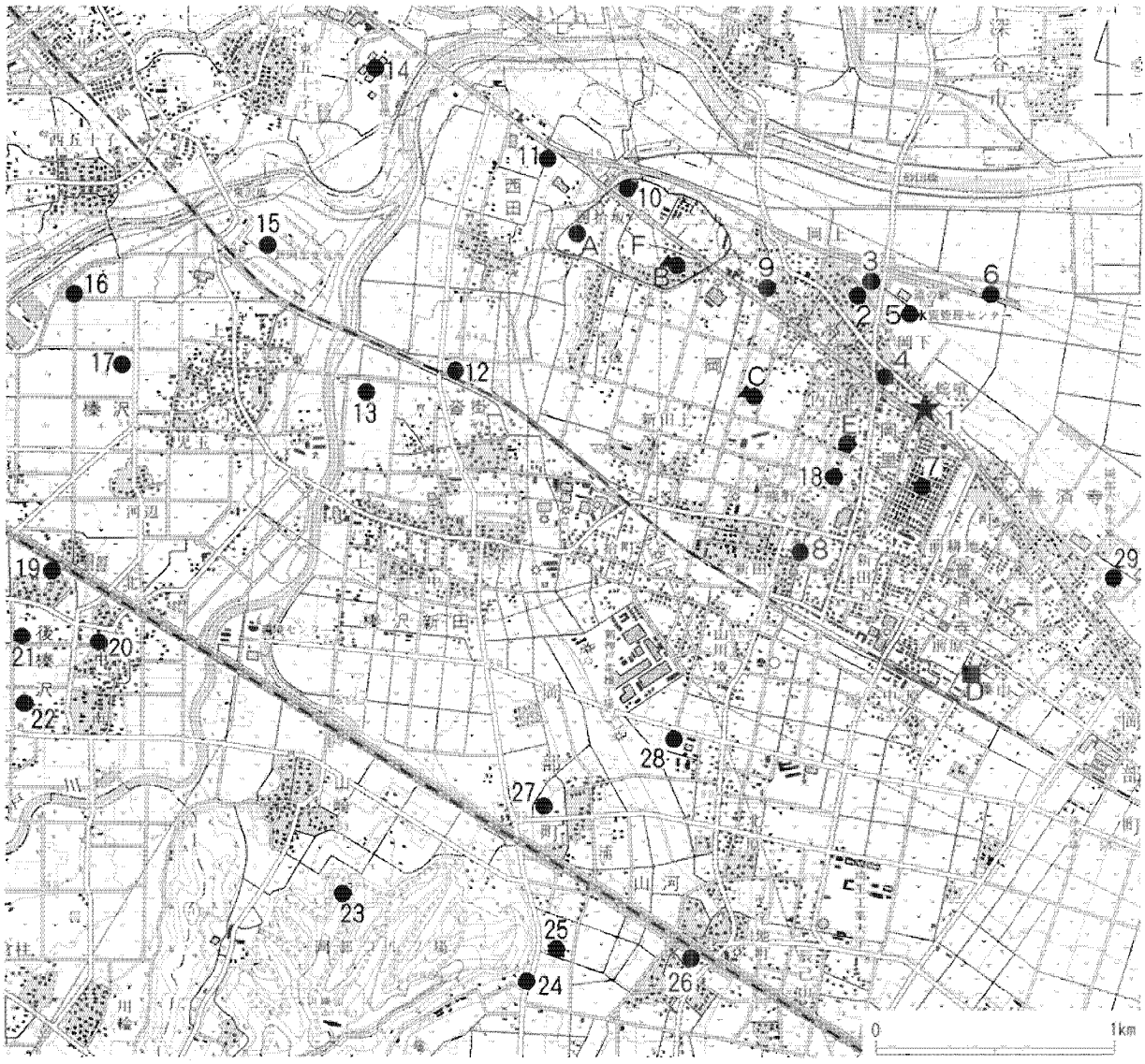
また、円面硯・帯金具・唐三彩の陶枕・刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

なお、集落の開始時期は、131次調査１・２号竪穴住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、７世紀第３四半期と考えられている。さらに、１次調査において検出された７間×３間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。塚東遺跡の集落の開始も、熊野遺跡に近いことが、今回の報告で確認されている。塚東遺跡は、竪穴住居跡41軒が検出されており、集落開始以降、古代末期まで連綿と継続する遺跡である。

また、櫛挽台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、大規模な総柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。榛沢郡家に伴う正倉跡と推定され、７世紀後半の成立であることから熊野遺跡との関連が想定される。これと前後して台地直下には「滝下大溝」が掘削された。その北側には条里遺構が検出されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていたことが考えられる。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡では、８世紀第２四半期と考えられる複弁八葉軒丸瓦などが多量に出土する範囲があり、廃寺跡と推測されてきた。平成13年度に町教委が実施した確認調査により、基壇状遺構が検出された。近接する住居跡から「榛」の刻字瓦や「寺」と墨書された土師器坏も出土し、寺院跡であることが立証された。

このように、奈良～平安時代の櫛挽台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に塚東遺跡等の集落跡や寺院が展開していた状況が窺われる。



1　塚東遺跡　（律令期集落）
2　中宿遺跡　（郡衙正倉・律令期集落）
3．滝下遺跡　（河川跡・律令期集落）
4．岡廃寺　（寺院跡・古墳～律令期集落）
5．岡部条里遺跡　（古墳集落・条里水田・律令期居宅）
6．砂田前・樋詰遺跡　（古墳～平安集落）
7．自山遺跡　（古墳群・律令期集落・中世居館）
8．新田遺跡　（律令期集落）
9．上宿遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
10．四十坂遺跡　（縄文集落・弥生再葬墓・周溝墓・古墳群）
11．原ケ谷戸遺跡　（縄文・古墳集落・古墳群）
12．水窪遺跡　（縄文・古墳集落・周溝墓・古墳群）
13．新井遺跡　（律令期集落）
14．東五十子遺跡　（古墳・中世集落）
15．六反田遺跡　（古墳・中世集落）
16．大寄遺跡　（縄文・弥生～律令期集落）
17．西浦北遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
18．熊野遺跡　（官衙・律令期集落・中世居館）
19．東光寺裏遺跡　（縄文・平安集落）
20．榛沢六郎成清館跡　（中世）
21．石蒔遺跡　（古墳～平安集落・周溝墓）
22．地神祇遺跡　（古墳～平安集落）
23．千光寺遺跡　（古墳群・平安集落）
24．西谷遺跡　（縄文）
25．茶臼山遺跡　（古墳群）
26．伝上杉館跡　（中世）
27．山河聖天社　（中世）
28．西窪ヶ谷遺跡　（律令期集落・中世居館）
29．伝岡部六弥太館跡　（中世）
A．四十坂浅間山古墳　（円墳）
B．寅稲荷塚古墳　（前方後円墳）
C．お手長山古墳　（帆立貝式古墳）
D．前原愛宕山古墳　（方墳）
E．内出八幡塚古墳　（円墳）
F．四十塚古墳群　（古墳群）

第２図　周辺の遺跡分布

Ⅲ　発見された遺構と遺物

1．塚東遺跡の概要

塚東遺跡は、櫛挽台地北端部に展開する集落跡である。遺跡の標高は47ｍ前後である。遺跡の北方は、台地の崖線となっており、眼下には、広大な沖積地（妻沼低地）を見渡すことができる。沖積地と遺跡との比高は、７ｍ程である。遺跡の範囲は楕円形を呈し、長軸108ｍ、短軸63ｍを測る。

塚東遺跡は、平成元年度に第１次調査が実施されている。本報告は、隣接地の調査であり第２次調査である。

第１次調査では、７世紀後半から古代末期にかけての遺構群が検出されている。主要な遺構として、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡２棟などがあげられる。出土遺物としては、土師器・須恵器の土器類が中心であるが、この他、瓦類等の出土がある。また、９世紀後半代に位置づけられる４号竪穴住居跡からは、古代の権が出土している。

第２次調査区の遺構群の存続年代も第１次調査区に近似する。各住居跡は、切合い関係が複雑であり、混入遺物も多く、年代比定に苦慮するが、７世紀後半代であることが確実な遺構として５住、15住等がある。また、最も新しい段階としては、11住があげられ、11世紀代を想定している。この他、８号住居跡出土の灰釉陶器短頸壺などは、当地域では希少な大型品ということができる。

2．発見された遺構と遺物

今回報告する発掘調査地点は、深谷市岡162番地１である。発掘調査面積は、816㎡である。

発見された遺構は、竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡１条、土壙９基である。出土遺物は、土師器、須恵器、ロクロ土師器、灰釉、緑釉陶器の土器類が豊富であり、この他に土錘、瓦、塼、鉄製品（刀子、鎌、釘）がある。

また、縄文時代の抉状耳飾１点が出土しており、周辺に該期の遺構が存在する可能性があるが、詳細は不明である。

１号竪穴住居跡

Ｇ－４～５グリッドに位置し、調査区西部にあたる。平面形は、一辺が2.4ｍ程の正方形に近い形状を有す。主軸方位は、Ｎ－80°－Ｗを示す。13号住居跡と切り合い関係を有し、本住居跡が上層となる。床面は比較的平坦である。確認面からの深さは、30cm前後を測る。

ピットは１基が西壁際に検出されている。

カマドは、北壁を削り出して構築されていた。焚き口部幅は、約60cmである。燃焼部は、長さは45cmである。煙道は25cm程確認されている。

出土遺物は、土師器坏、甕がある。住居跡は、これらの型式から７世紀末～８世紀前半代のものと考えられる。

２号竪穴住居跡

Ｇ－４グリッドに位置する。調査区西端にあたる。長軸2.32ｍ（現存長）、短軸1.6ｍを測る。３号、15号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が最上層となる。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－142°－Ｅを示す。確認面から床面までの深さは、約15cmを測る。床面は、ほぼ平坦である。ピット、周溝等は検出できなかった。

カマドは、南壁を削り出して構築されていた。焚き口部幅は、約38cmである。燃焼部は、長さは40cmであり、焚き口部付近から急激に掘り込まれていた。煙道は28cm程確認されており、浅く平坦である。

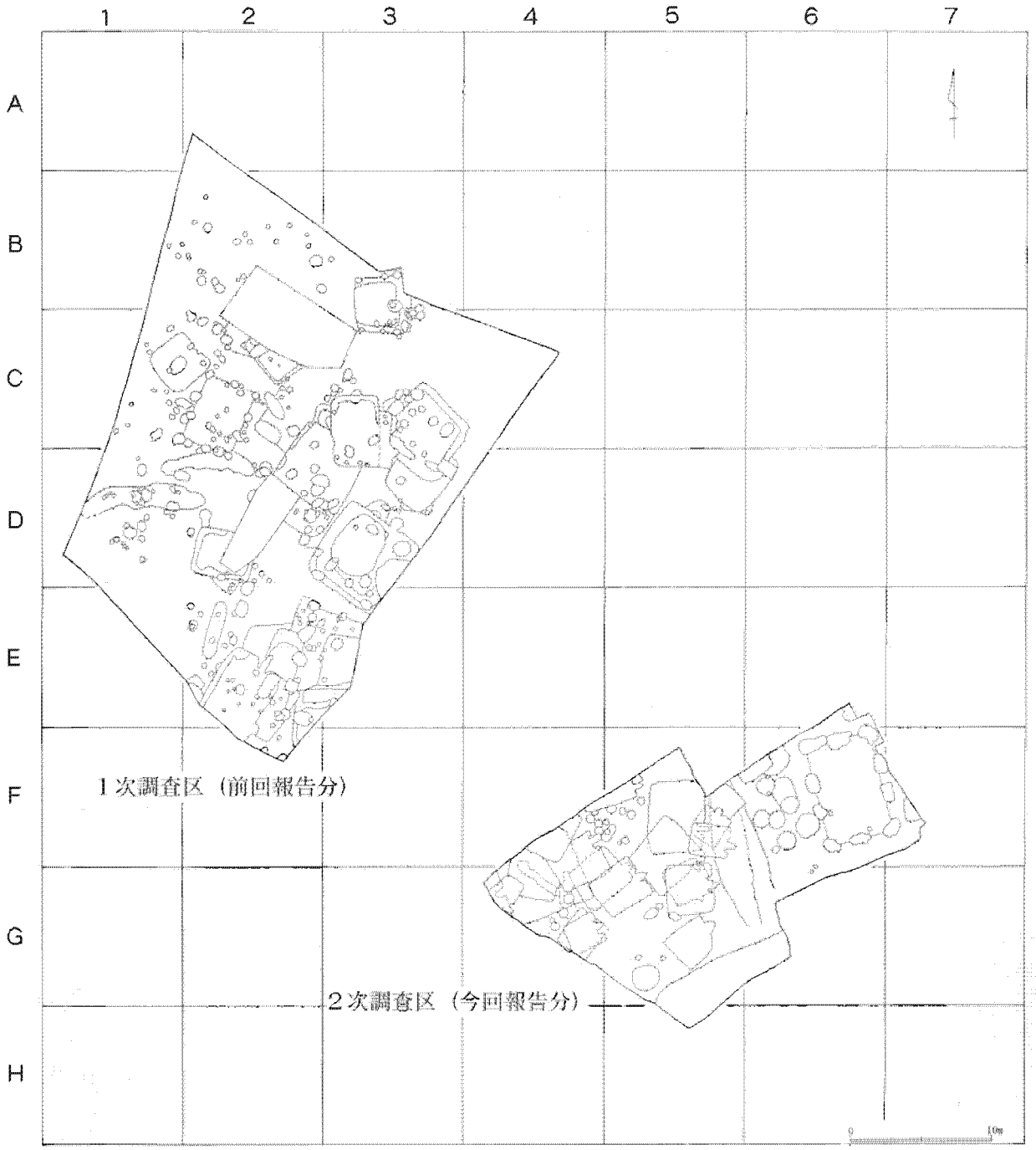
出土遺物は、ロクロ土師器２点と、明らかに時期の異なる台付甕脚部が検出されている。住居跡の年代は、前者２者の年代観をとれば10世紀中頃以降のものと考えられる。

３号竪穴住居跡

Ｆ～Ｇ－４グリッドに位置する。調査区西端にあたる。長軸2.32ｍ（現存長）、短軸1.6ｍを測る。２号、４号、５号、15号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構は、２号、４号住居跡より下層にあり、５号、15号住居跡より上層にあることが確認されている。

住居跡の規模は切り合い関係が著しく不明であるが、東西方向の軸では、3.44ｍを測る。南北方向を主軸と仮定すると主軸方位は、Ｎ－10°－Ｅである。確認面から床面までの深さは、32cm程である。

出土遺物は、土師器坏、甕等が比較的まとまって出土した。これらの遺物から住居跡の時期は８世紀前半と考えられる。



第３図　塚東遺跡１～２次調査全測図

第４図　塚東遺跡２次調査遺構配置図

４号竪穴住居跡

Ｆ－４グリッドに位置する。長軸3.80ｍ、短軸2.68ｍ（現存長）を測る。３号、５号、15号住居跡と切り合い関係を有し、３号、５号、15号住居跡より新しいことが確認されている。主軸方位は、Ｎ－25°－Ｅを示す。確認面から床面までの深さは、約44cmを測る。床面は、ほぼ平坦である。ピット、周溝、カマド等は検出できなかった。

出土遺物は、土師器坏、甑、須恵器坏、盤が検出されている。遺物の大多数は、７世紀後半段階ものであるが、周辺の住居跡群に比較し、本住居跡が最も新しい段階であることから、矛盾が生ずる。ここでは、第39図№７のロクロ土師器坏を住居跡の年代を示す遺物と考えたい。他の遺物群は、５号、15号住居跡の遺物であろうか。

５号住居跡

Ｆ－４～Ｇ－５グリッドに位置する。長軸3.80ｍ、短軸3.32ｍを測る。西壁がやや短い台形の形状を呈す。３、４、６、15号住居跡と切り合い関係を有し、３、４、６号住居跡より古く、15号住居跡より新しいことが確認されている。

主軸方位は、Ｎ－25°－Ｅを示す。確認面から床面までの深さは36cmであり、床面は平坦である。ピット、周溝等は確認できなかった。

カマドは、焚き口部幅34cmであり、燃焼部は、長さ50cmを測る。焚き口から燃焼部にかけては、平坦であり、煙道部は緩やかに立ちあがる。煙道部の長さは50cm程である。

出土遺物は、土師器坏がまとまって出土している。その構成は、古墳時代からの伝統を有す鬼高系の坏、７世紀後半以降急増する北武蔵型坏、在地暗文土器である。この他にも須恵器蓋、土師器甕、甑等が出土している。

６号住居跡

Ｆ－４～Ｇ－５グリッドに位置する。長軸4.20ｍ、短軸3.20ｍを測る。北壁がやや短い台形の形状を呈す。５、７、15号住居跡と切り合い関係を有し、５、７号住居跡より古く、15号住居跡より新しいことが確認されている。

主軸方位は、Ｎ－40°－Ｅを示す。確認面から床面までの深さは36cmであり、床面は平坦である。ピットは、５箇所で確認されている。

７号住居跡

Ｆ～Ｇ－４･５グリッドに位置する。長軸3.52ｍ、短軸3.20ｍを測る。平面形は、やや歪んでいるが、正方形に近い形状を呈する。５号、６号、９号住居跡と切り合い関係を有する。６号、９号住居跡より新しく、５号住居跡より古いことが確認されている。ピット、土壙等は検出できなかった。

カマドは、焚き口部幅が50cm、燃焼部は、皿状に掘られている。カマドの全長は、76cmである。

出土遺物は、６号、７号で一括して取り上げたため、それぞれがどの遺構に帰属するものなのか定かではない。出土遺物の年代も、幅があるものが含まれている。

８号住居跡

Ｆ－５グリッドに位置する。長軸4.64ｍ、短軸4.24ｍを測る。平面形は長方形を呈する。主軸方位はＮ－90°－Ｅを測る。９号、10号、16号、17号と切り合い関係を有す。16、17号より新しく、９号、10号住居跡より古いことが確認されている。壁際に周溝が全周する（カマド付近を除く）。

カマドは、焚き口部幅30cmであり、燃焼部は長さ84cmを測り、底面は平坦である。

遺物は、比較的豊富に出土している。土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土している。

また、灰釉陶器短頸壺の大型品は深谷周辺では出土例に乏しく注目に値する。ロクロ土師器、須恵器長頸瓶等については、混入の可能性が高いが、これらを除くと、概ね９世紀後半～末の段階の所産と考えられる。

９号住居跡

Ｆ～Ｇ－５クリッドに位置する。長軸4.92ｍ、短軸4.60ｍを測る。南壁がやや短い台形の形状を有す。７、８、10、11、14号住居跡と切り合い関係を有す。８号、14号住居跡より新しく、７号、10号、11号住居跡より古いことが確認できた。

主軸方位は、Ｎ－136°－Ｅであり、確認面から床面までの深さは52cm程である。

出土遺物は、土師器坏、甕、台付甕、須恵器坏、蓋、皿、高台付皿、高台付椀、ロクロ土師器、羽釜、灰釉陶器等がある。

混入したと思われる遺物もあるが、土師器・須恵器坏・高台付椀等の様相からみて９世紀後半代と考えられる。

10号住居跡

F－5グリッドに位置する。長軸2.80 m、短軸2.12 mを測る。平面形態は、長方形を呈する。8号、9号、16号住居跡と切り合い関係を有する。いずれの住居跡よりも新しいことが確認されている。

主軸方位は、N－95°－Eである。確認面からの深さは、20cm程である。

カマドは、東壁に構築されている。焚き口部幅は54cm程である。燃焼部は皿上に掘り窪められており、長さ80cmである。煙道は、長さ20 cm程が検出された。

出土遺物は須恵器高台付椀・皿、ロクロ土師器、土師器甕、羽釜があり、時期の異なる遺物が混在しており、周辺の住居跡の遺物が混入した可能性がある。住居跡の切り合い関係、羽釜の形態等を考慮すると11世紀代と考えられる。

11号住居跡

F～G－5グリッドに位置する。長軸3.60 m、短軸3.28 mを測る。平面形は、正方形に近い。9号、14号住居跡と切り合い関係を有する。9号、14号住居跡より新しいことが確認されている。

主軸方位は、N－92°－Eである。確認面からの深さは、32cm程である。

カマドは、東壁に構築されている。焚き口部幅は74cm程である。燃焼部は皿状に掘り窪められており、長さ90cmである。煙道は、長さ20cm程が検出された。

出土遺物は、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。遺構の切り合いが顕著であるため、混入遺物もあると考えられる。須恵器は、末野系のものであるが、焼きが甘いものが大多数を占めることから、10世紀前半以降の所産と考えられる。

ロクロ土師器坏等は、これらに続くものであることから、住居跡の時期については、10世紀前半から中頃の年代を想定したい。

12号住居跡

F－4～5グリッドに位置する。長軸4.30 m、短軸（現存長）1.32 mを測る。平面形は長方形と推定する。他の住居跡との切り合い関係はない。

主軸方位は、N－92°－Eである。確認面からの深さは20cmである。

カマドは、東壁に構築されている。焚き口部幅は92cm、燃焼部は長さ96cmであり、やや傾斜を有し煙道部へ移行する。煙道部は64cmにわたり確認されている。

出土遺物は検出されなかった。

13号住居跡

G－4グリッドに位置する。長軸3.00 m、短軸（現存長）2.17 mを測る。1号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が古いことが確認されている。

主軸方位は、N－32°－Eである。確認面からの深さは30cmを測る。1号住居跡カマド下層に長軸68cm、短軸60cmの楕円形ピットが確認されているが、本住居跡に伴うものと考えられる。

出土遺物は土師器坏・須恵器坏蓋があり、7世紀後半代と考えられる。

14号住居跡

F～G－5グリッドに位置する。長軸3.04 m、短軸2.72 mを測る。平面形は正方形に近い。9号、11号住居跡と切り合い関係を有し、9・11号より古いことが確認されている。

主軸方位は、N－22°－Wである。床面からの深さは、45cmを測る。

出土遺物は検出されなかった。

15号住居跡

F～G－4グリッドに位置する。長軸6.08 m、短軸5.72 mを測る。平面形は正方形に近い。

2～7号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が最も古いことが確認されている。

主軸方位は、N－110°－Wである。周溝は、カマド部分を除き全周するものと推定される。主柱穴は4基が確認されている。この他にもピットが1基、主柱穴脇に検出されている。また、カマド南コーナー付近に土壙が検出されている。

カマドは、西壁に構築されている。焚き口部幅は、50cm程であり、燃焼部は比較的平坦で、長さ70cm程が検出されている。煙道部の長さは24cmである。袖の一部（暗灰褐色土）が、カマド両脇に検出されている。

出土遺物は、土師器・須恵器が豊富に検出されている。特に湖西産と推定される須恵器坏H蓋・坏身の出土は注目できる。住居跡の年代は、在地産土師器・須恵器の編年観から7世紀後半と考えられ、遺構との切り合い関係からも当調査区最古のものと推定する。

16号住居跡

F－5グリッドに位置する。カマド及び住居跡北東コーナー部が検出されている。カマドは、焚き口部幅48cm（推定）を測る。燃焼部の長さは64cm（推定）である。

出土遺物は、土師器坏、須恵器高台椀、土師器台付甕である。これらの様相から、住居跡の年代は9世紀後半段階と推定される。17号住居跡とは近接した時間幅の中での切り合いであろう。

17号住居跡

F－5グリッドに位置する。長軸（現存長）2.16m、短軸（現存長）2mを測る。16号住居跡、1号溝と切合い関係を有し、16号住居跡より古く、1号溝より新しいことが確認されている。長軸（現存長）2.16m、短軸（現存長）2.00mを測る。主軸方位は、N－45°－Eである。カマド、ピット等は検出されなかった。

出土遺物は、須恵器皿・坏・椀・高台椀・甕、土師器坏、台付甕がある。これらの遺物から住居跡の年代は9世紀後半代と考えられる。

18号住居跡

F－5～6グリッドに位置する。19号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が新しいことが確認されている。長軸2.52m、短軸（現存長）92cmを測る。主軸方位はN－55°－Eである。

出土遺物は、土師器坏、台付甕破片であるが、時期の異なるものが混入しており、住居跡の年代は不明である。

19号住居跡

F－6グリッドに位置する。北東コーナー付近が検出されている。18号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が古いことが確認されている。

コーナー付近は、やや丸みがあり、ピットが確認されている。規模、主軸等は不明である。出土遺物は検出できなかった。

1号掘立柱建物跡

F－6グリッドに位置する。桁行3間×梁行2間の規模を有す。柱間は、桁行・梁行ともに2.4m等間である。想定される床面積は34.56㎡である。柱は、抜き取られている痕跡が確認されている。主軸方位はN－55°－Eを示す。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏、灰釉陶器等が出土しており、時期差のある遺物が混在している。このうち完形に近い土師器坏・須恵器等から、9世紀後半の年代を考えたい。

1号溝

F－5～G－6グリッドにかけて検出された。10号、16号、17号住居跡と切り合い関係を有し、本遺構が古いことが確認されている。溝は、2時期にわたり掘削されており、古い溝を1a号溝、新しい溝を1b号溝と呼称する。

1a号溝は、長さ（現存長）7.2m、最大幅3.48mの規模を有す。走行方位は、N－28°－Eである。南方へ向かい幅広となり、徐々に浅くなり末端は検出できなかった。底面は、南半部において段差が認められる。

1b号溝は、1a号溝の上層にのる。最大幅2.04m、長さ10.6mの規模を有す。走行方位は、N－16°－Eである。南方へ向かい幅狭となり、徐々に浅くなり、末端は検出できなかった。

出土遺物は、土師器坏、甕、須恵器坏、高台椀等が検出されている。これらの遺物の様相から溝跡の年代は9世紀前半～後半と考えられる。重複する溝跡の様相から想定すると、やや古い形態を有す土師器甕を9世紀前半に置き1a号溝に伴うものと見ることができよう。

1号土壙

F－6グリッドに位置する。2号土壙と切り合い関係を有し、2号土壙より新しいことが確認されている。規模は、長軸70cm、短軸64cmと円形に近い。

確認面からの深さは20cmである。小ピット2基が付随している。

2号土壙

F－6グリッドに位置する。1号、3号土壙と切り合い関係を有し、1号、3号土壙より古いことが確認されている。規模は、長軸（現存長）1.00m、短軸76cmを測る。形状は楕円形を呈する。主軸方位はN－22°－Wである。確認面からの深さは10cmであり、底面は皿状を呈する。

3号土壙

F－6グリッドに位置する。2号土壙と切り合い関係を有し、2号土壙より新しいことが確認されて

いる。規模は、長軸64cm、短軸60cmであり、平面形は、円形に近い。確認面からの深さは10㎝であり、底面は皿状を呈す。

４号土壙

Ｆ－６グリッドに位置する。５号土壙と切合い関係を有し、５号土壙より古いことが確認されている。規模は、長軸68cm、短軸（現存長）60cmであり、平面形は円形に近い。確認面から底面までの深さは、10cmである。

５号土壙

Ｆ－６グリッドに位置する。４号土壙と切合い関係を有し、４号土壙より新しいことが確認されている。規模は、長軸64cm、短軸60cmであり、平面形は円形に近い。確認面から床面までの深さは、10cmである。

６号土壙

Ｆ－６グリッドに位置する。規模は、長軸66cm、短軸60cmであり、形状は、ほぼ円形である。確認面からの深さは22cmを測る。

７号土壙

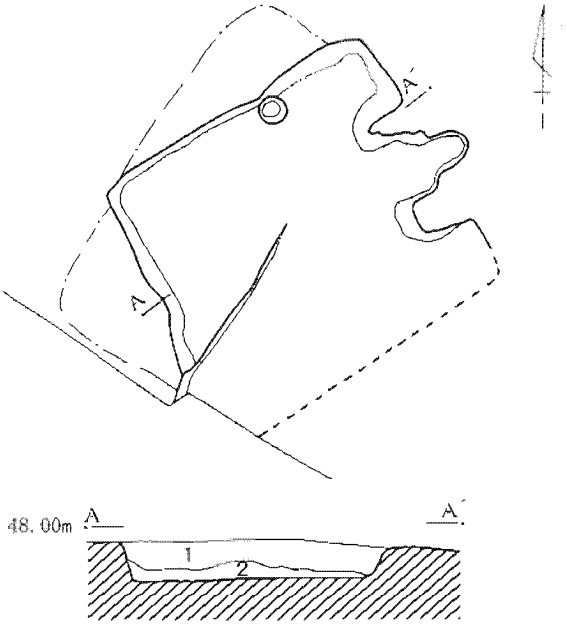
Ｆ－６グリッドに位置する。規模は、長軸90cm、短軸80cmであり、形状は、ほぼ円形である。底面は、ほぼ平坦であり、確認面からの深さは20cmである。

８号土壙

Ｅ－６グリッドに位置する。一部調査区域外に延びているため全容は不明である。規模は、長軸（現存長）64cm、短軸（現存長）50cmを測る。平面形は、不整形となる。底面は段差を有している。確認面からの深さは10cmである。

９号土壙

Ｆ－７グリッドに位置する。一部調査区域外に延びているため全容は不明である。規模は、長軸（現存長）90cm、短軸（現存長）58cmを測る。
平面形は、長方形または、台形を呈する。

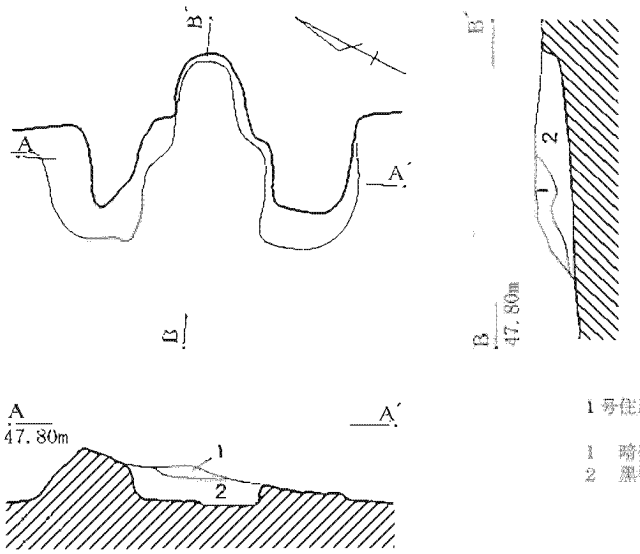


1号住居跡土層説明

1　暗褐色土　黒色土をベースに褐色土を多く含む。茶褐色土粒、焼土粒子を多く含む。しまり、粘性少ない。
2　黒褐色土　若干量の暗褐色土を含有。炭化物粒子、焼土粒子を多く含む。しまり、粘性少ない。

0　2m

第５図　１号住居跡

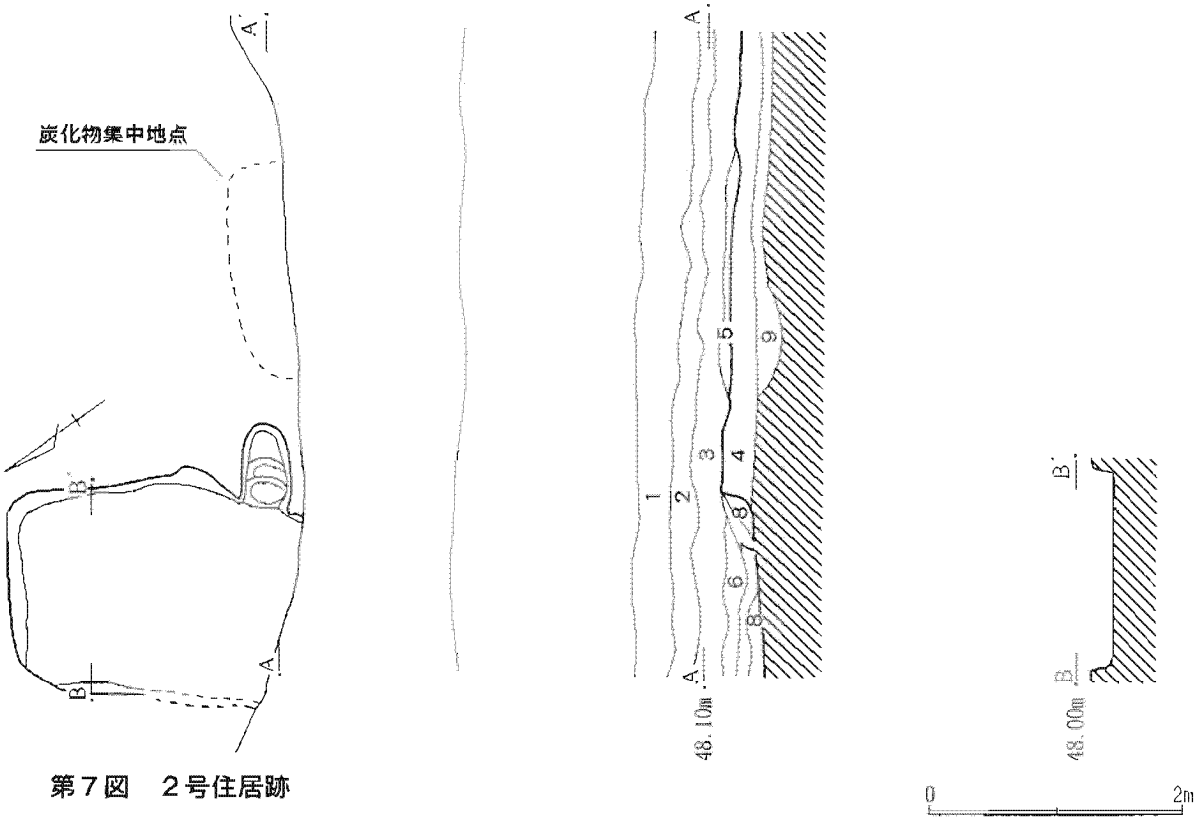


1号住居跡カマド土層説明

1　暗褐色土　ローム粒少量。焼土粒微量含む。しまりやや強い。粘性有り。
2　黒褐色土　ローム粒少量。焼土粒、焼土ブロック多量含む。粘性有り。

0　1m

第６図　１号住居跡カマド

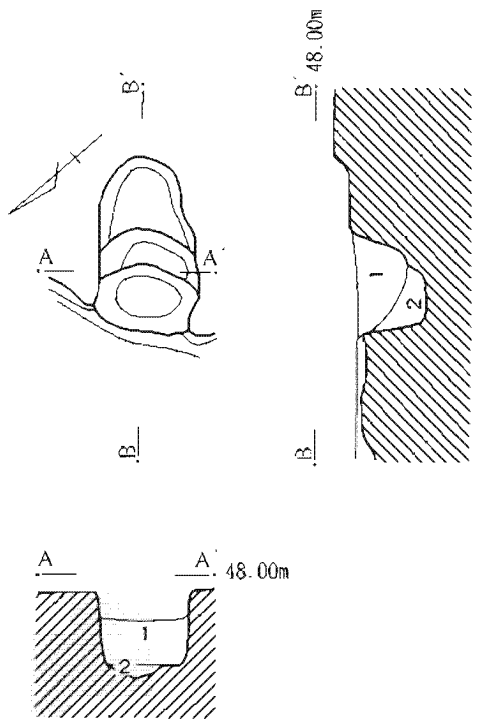


第７図　２号住居跡

２号住居跡周辺の土層説明

1	表土層	黄褐色土層。
2	黒褐色土	灰褐色土と暗褐色土を混合。パミス多く含む。炭化物、焼土粒、ローム粒子少量含む。しまり有り。粘性少ない。
3	暗褐色土	黒褐色土をベースに暗褐色土と茶褐色土を多く含有。ローム粒子、炭化物、焼土粒子を多く含有。しまり、粘性やや有り。
4	茶褐色土	３層より明るい。含有物は３層にほぼ同じ。パミス含む。しまり、粘性有り。
5	暗茶褐色土	暗褐色土をベースに黒褐色土と茶褐色土を多く含む。焼土ブロック（小），焼土粒子、炭化物、炭化材を多く含む。しまり、粘性やや有り。
6	暗褐色土	ローム粒少量、炭化物、焼土粒多量含む。しまり、粘性有り。
7	黒褐色土	暗褐色土を多く含む。茶褐色土小ブロック、焼土粒を少量含む。ローム粒子、パミス若干含む。しまり少、粘性有り。
8	暗褐色土	６層とほぼ同じ。色調やや明るい。しまり少、粘性有り。
9	黒褐色土	褐色土粒子、ローム粒子を多く含む。若干量の焼土粒子有り。しまり少、粘性有り。

※６～８層は２号竪穴住居跡覆土。

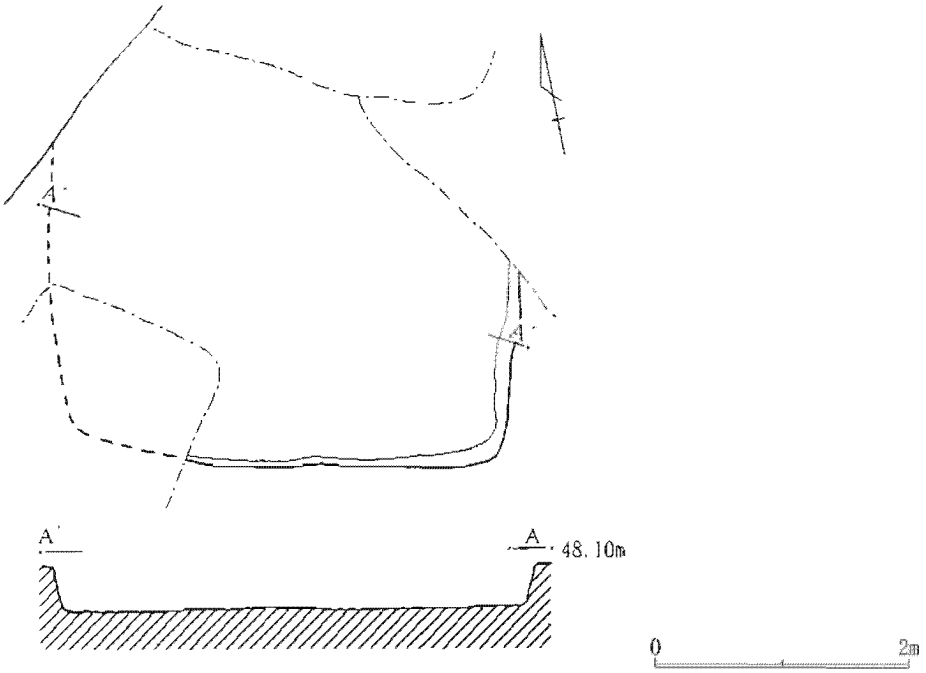


第８図　２号住居跡カマド

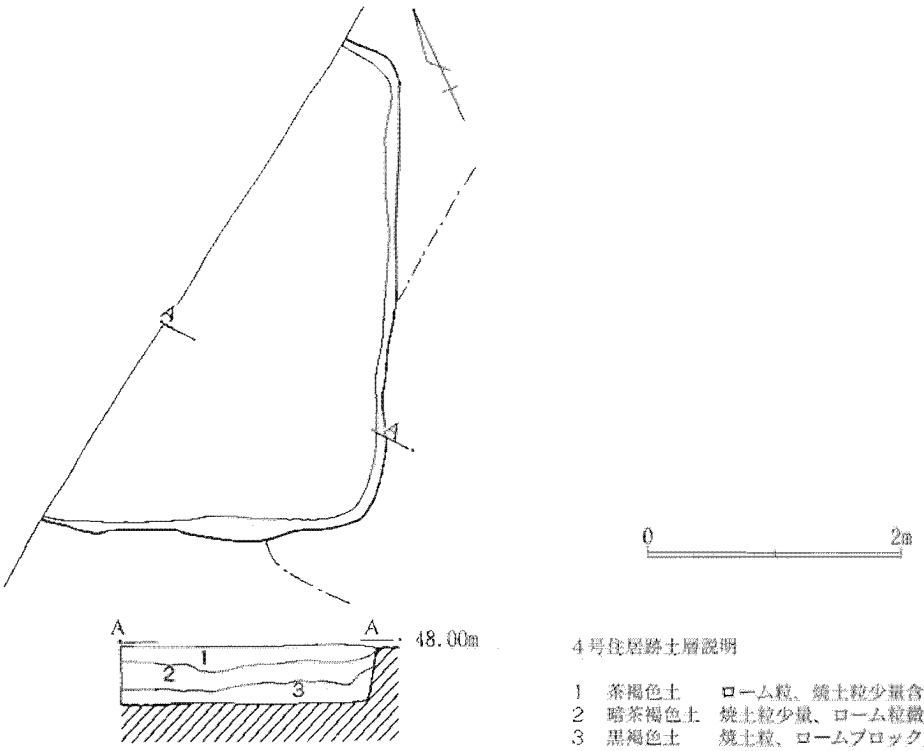
２号住居跡カマド土層説明

1	暗褐色土	ローム粒少量。焼土粒微量含む。しまりやや強い。粘性有り。
2	黒褐色土	ローム粒少量。焼土粒、焼土ブロック多量含む。粘性有り。

0　1m



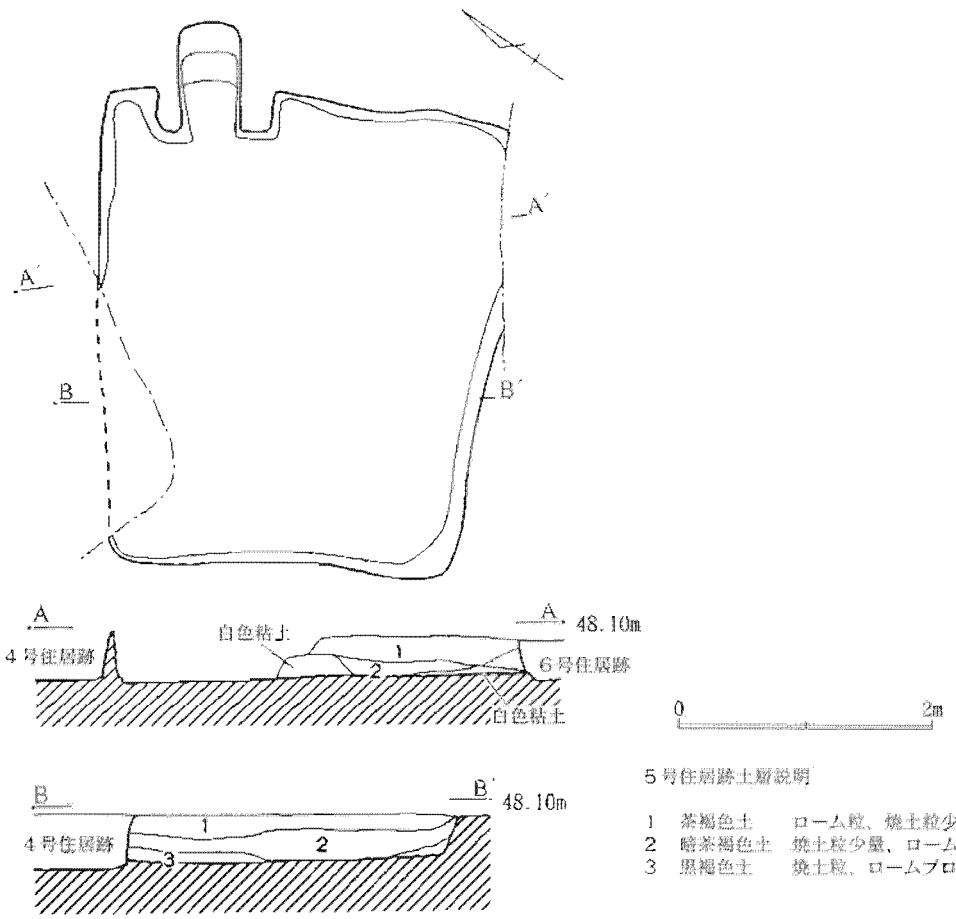
第９図　３号住居跡



４号住居跡土層説明

1　茶褐色土　　ローム粒、焼土粒少量含む。パミス微量含む。
2　暗茶褐色土　焼土粒少量、ローム粒微量含む。
3　黒褐色土　　焼土粒、ロームブロック少量含む。

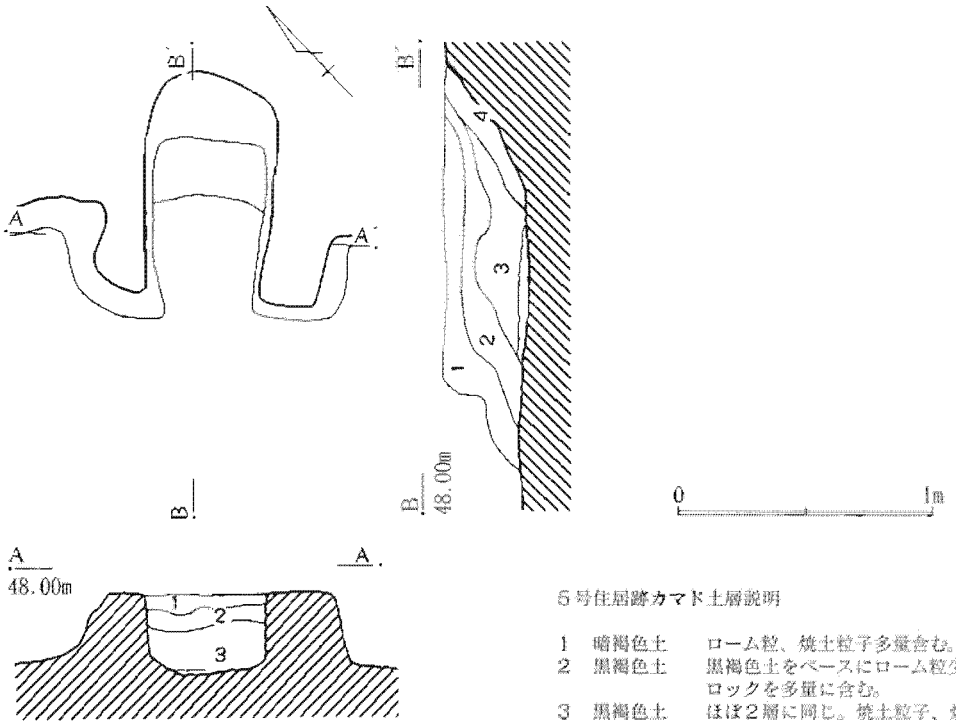
第10図　４号住居跡



5号住居跡土層説明

1　茶褐色土　　ローム粒、焼土粒少量含む。パミス微量含む。
2　暗茶褐色土　焼土粒少量、ローム粒微量含む。
3　黒褐色土　　焼土粒、ロームブロック少量含む。

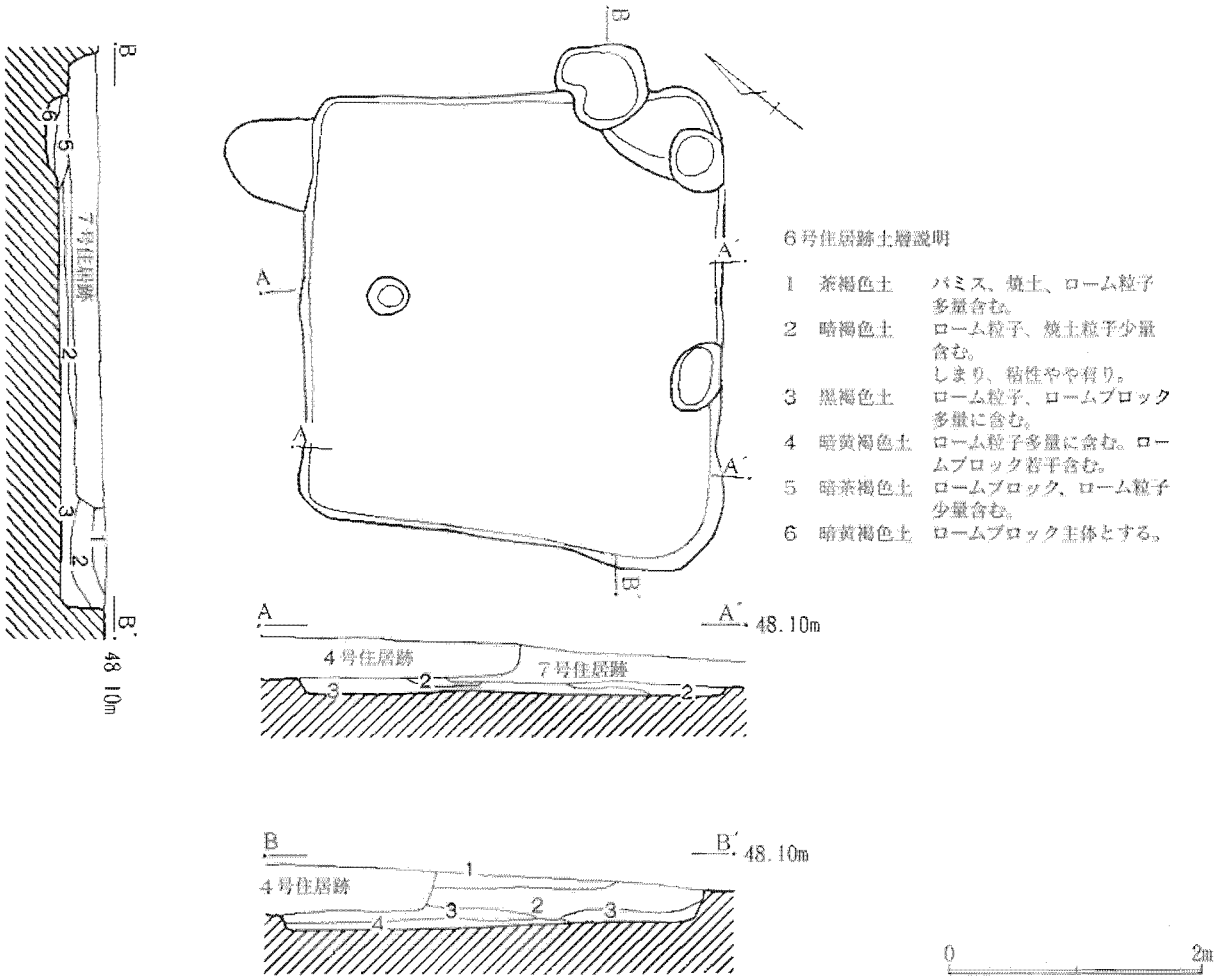
第11図　5号住居跡



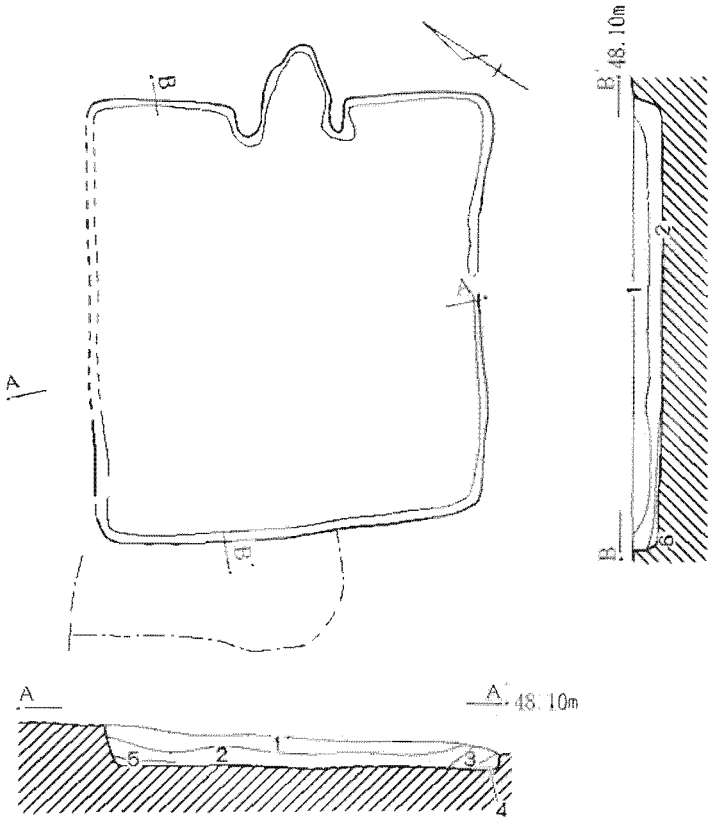
5号住居跡カマド土層説明

1　暗褐色土　　ローム粒、焼土粒子多量含む。しまり、粘性やや有り。
2　黒褐色土　　黒褐色土をベースにローム粒少量含む。焼土粒子、焼土ブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　　ほぼ2層に同じ。焼土粒子、焼土ブロックが2層より少量。
4　暗黄褐色土　焼土粒子を多量含む。ベースは黄灰色粘土と黒色土。

第12図　5号住居跡カマド


6号住居跡土層説明
1 茶褐色土 パミス、焼土、ローム粒子多量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子少量含む。しまり、粘性やや有り。
3 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量に含む。
4 暗黄褐色土 ローム粒子多量に含む。ロームブロック若干含む。
5 暗茶褐色土 ロームブロック、ローム粒子少量含む。
6 暗黄褐色土 ロームブロック主体とする。
7号住居跡
4号住居跡
48.10m
0
2m

第13図　6号住居跡

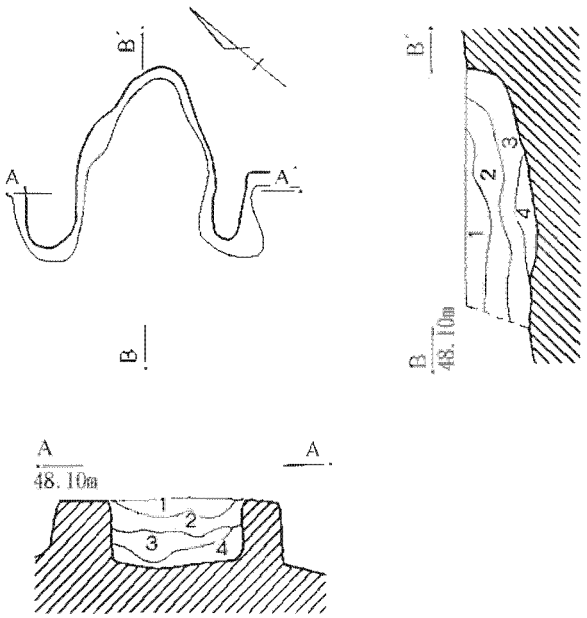


7号住居跡土層説明

1　暗茶褐色土　パミス、焼土、ローム粒子多量含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒子、焼土粒子、少量含む。しまり、粘性やや有り。
3　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量に含む。
4　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。しまり有り。
5　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。
6　暗黄褐色土　ロームブロック少量含む。

0　2m

第14図　７号住居跡

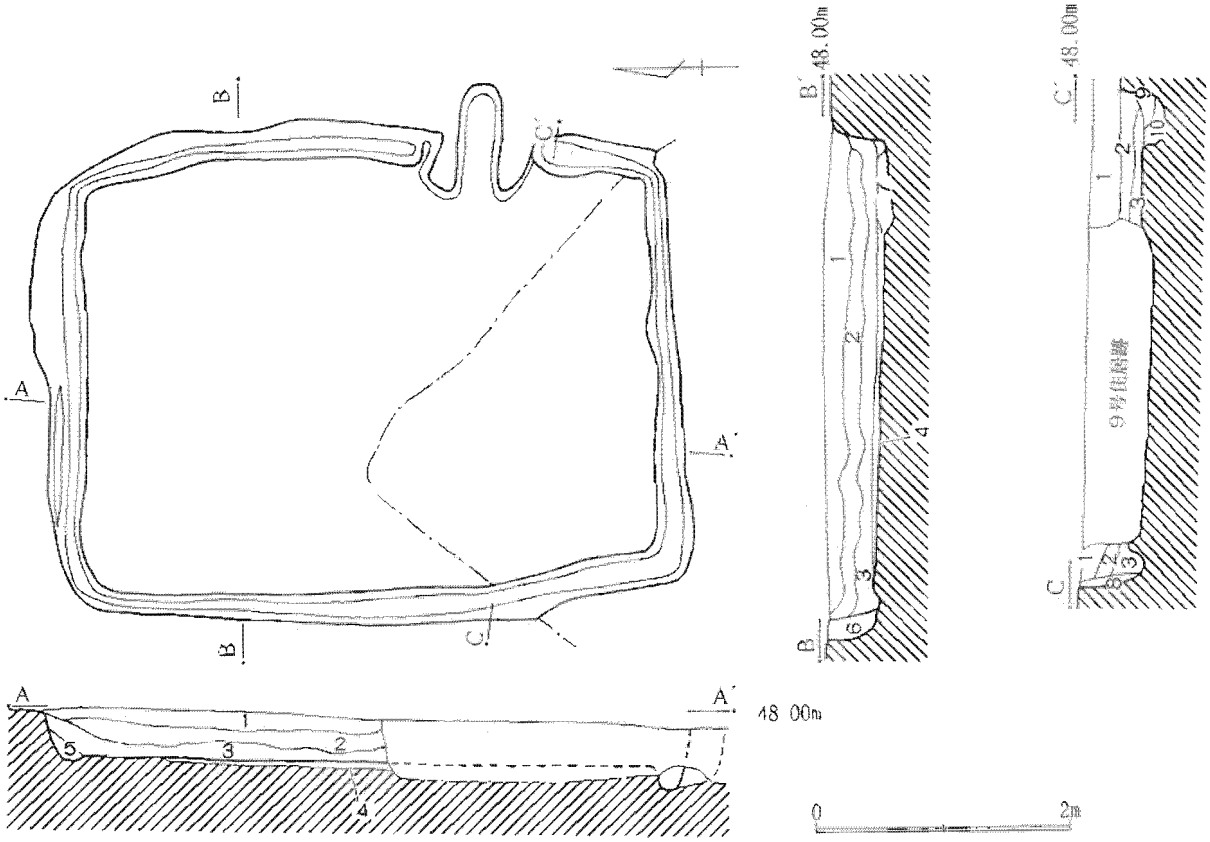


7号住居跡カマド土層説明

1　暗茶褐色土　パミス、焼土、ローム粒子多量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量含む。焼土ブロック多量含む。
3　黒褐色土　ロームブロック、焼土ブロック、灰褐色粘土ブロック多量に含む。
4　暗赤褐色土　焼土ブロック、炭化物ブロック多量に含む。

0　1m

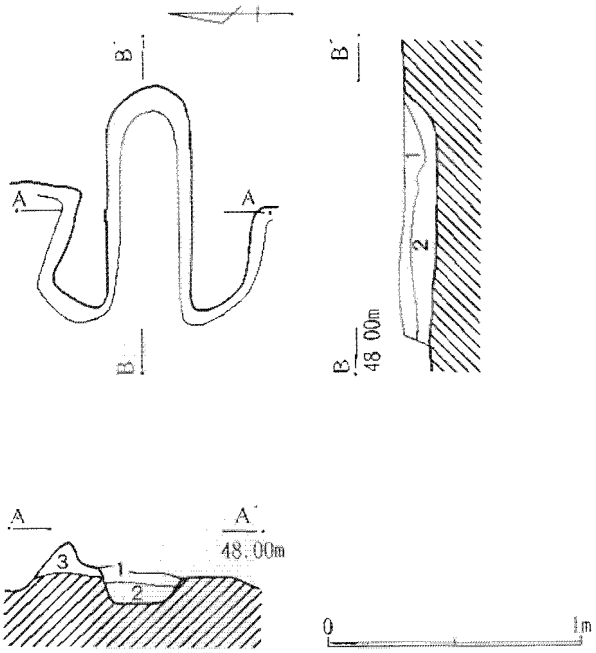
第15図　７号住居跡カマド



第16図　８号住居跡

８号住居跡土層説明

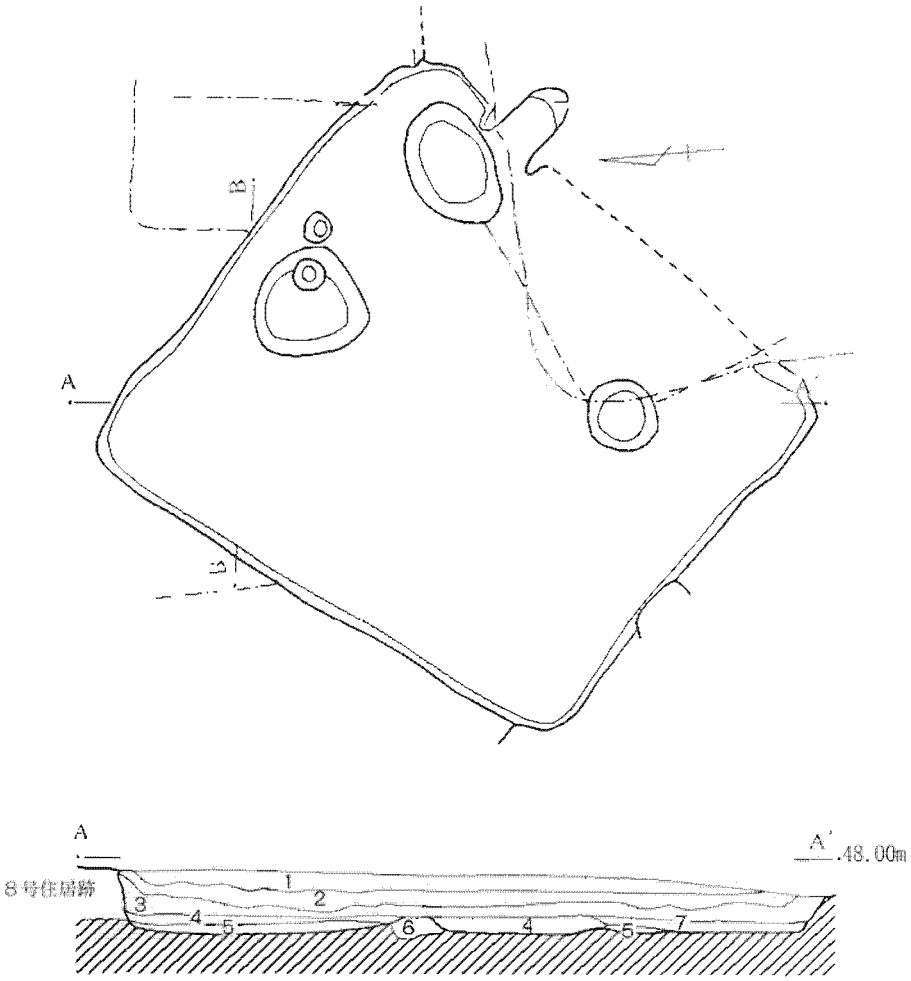
1	明褐色土	ローム粒子、パミス多く含む。少量の炭化物有り。しまり少、粘性有り。
2	暗黄褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。焼土粒子やや大きめ。しまり、粘性やや有り。
3	黒褐色土	茶褐色土多く含む。含有物は２層と同じだが量は、さらに少ない。しまり、粘性やや有り。
4	明灰色土	黄灰色粘土と暗褐色土の混合層。炭化物、焼土粒少量含む。
5	暗黄褐色土	ロームブロック、ローム粒子多量含む。
6	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
7	暗茶褐色土	ローム粒、焼土粒少量含む。
8	黒褐色土	６層に近似。
9	暗茶褐色土	ロームブロック若干含む。
10	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。

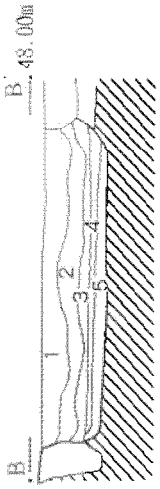


第17図　８号住居跡カマド

８号住居跡カマド土層説明

1	暗褐色土	明褐色粘土、炭化物粒子少量含む。
2	黒褐色土	炭化物、ローム粒、焼土粒多い。しまり、粘性有り。
3	明褐色土	明褐色粘土ブロック主体。

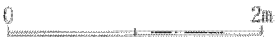


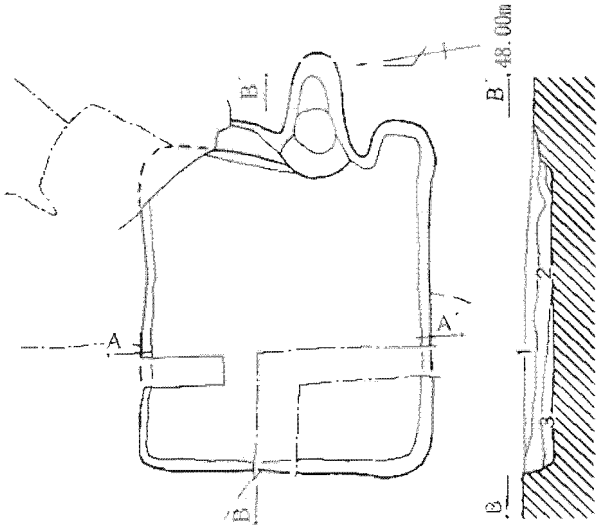


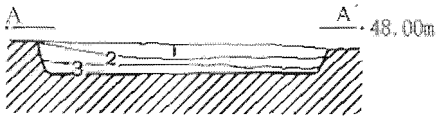
9号住居跡土層説明

1	明褐色土	ローム粒子、パミス、焼土若干含む。炭化物少量含む。しまり、粘性有り。
2	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。焼土ブロック若干含む。
3	黒褐色土	茶褐色土やや多く含む。含有物は2層と同じだが、量がさらに少ない。
4	明灰色土	黄灰色粘土と暗褐色の混合層。しまり、粘性有り。炭化物焼土粒子少量含む。
5	黄褐色土	ロームブロックを主体とする。
6	暗茶褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。しまり有り。（8号住居跡周溝）
7	暗茶褐色土	黒褐色土少量含む。焼土粒子、ロームブロック少量含む。

第18図　9号住居跡





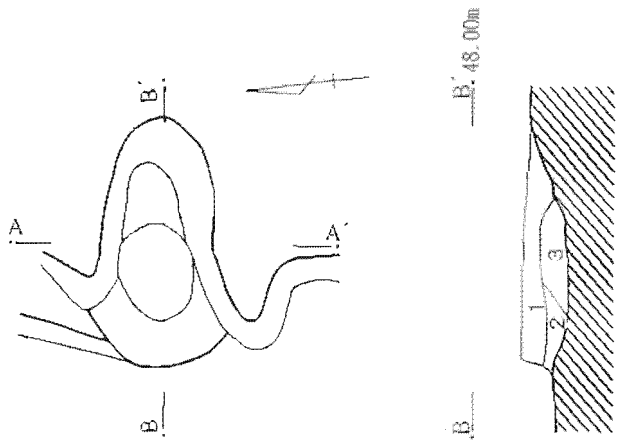


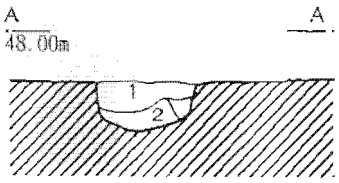
10号住居跡土層説明

1　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒子多量含む。焼土粒子、炭化物粒子若干含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量に含む。しまり、粘性有り。

0　2m

第19図　10号住居跡



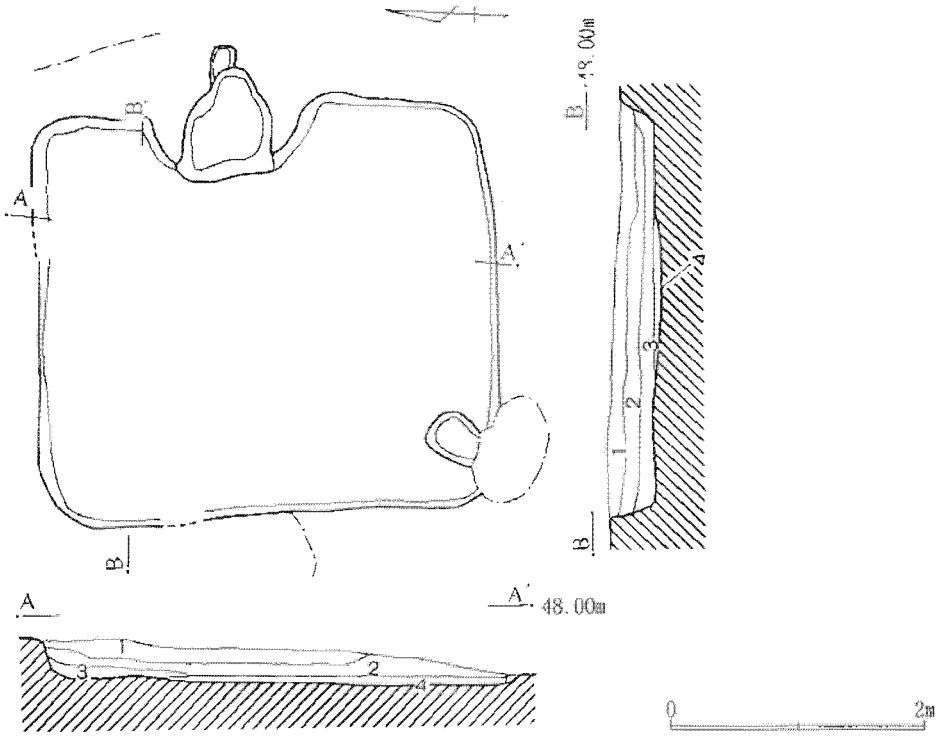


10号住居跡カマド土層説明

1　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。焼土粒、パミス微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒子、焼土粒子微量含む。しまり、粘性有り。
3　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量に含む。

0　1m

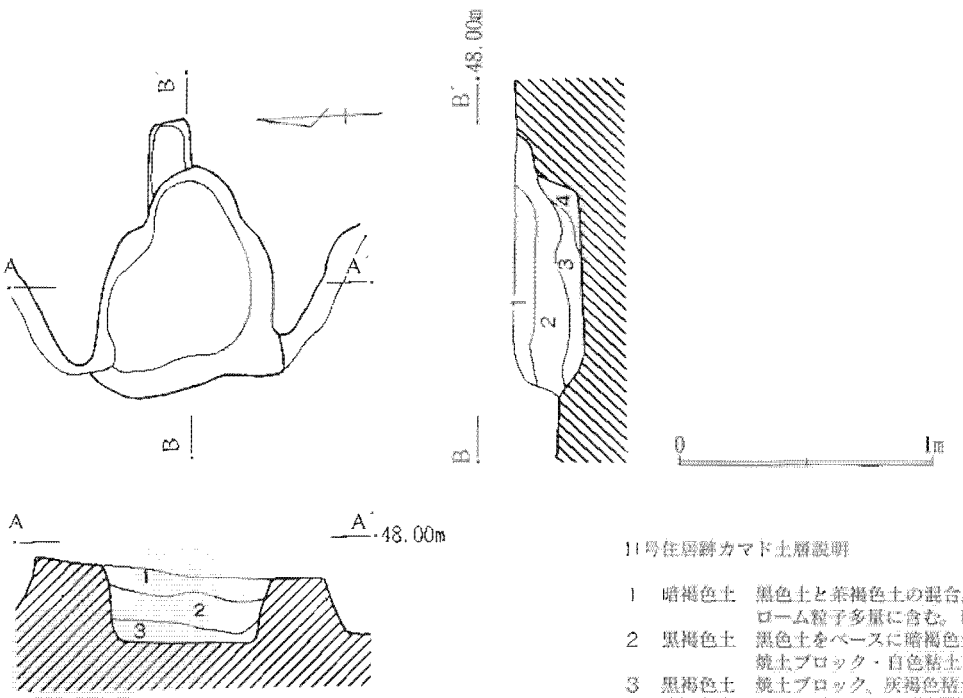
第20図　10号住居跡カマド



第21図　11号住居跡

11号住居跡土層説明

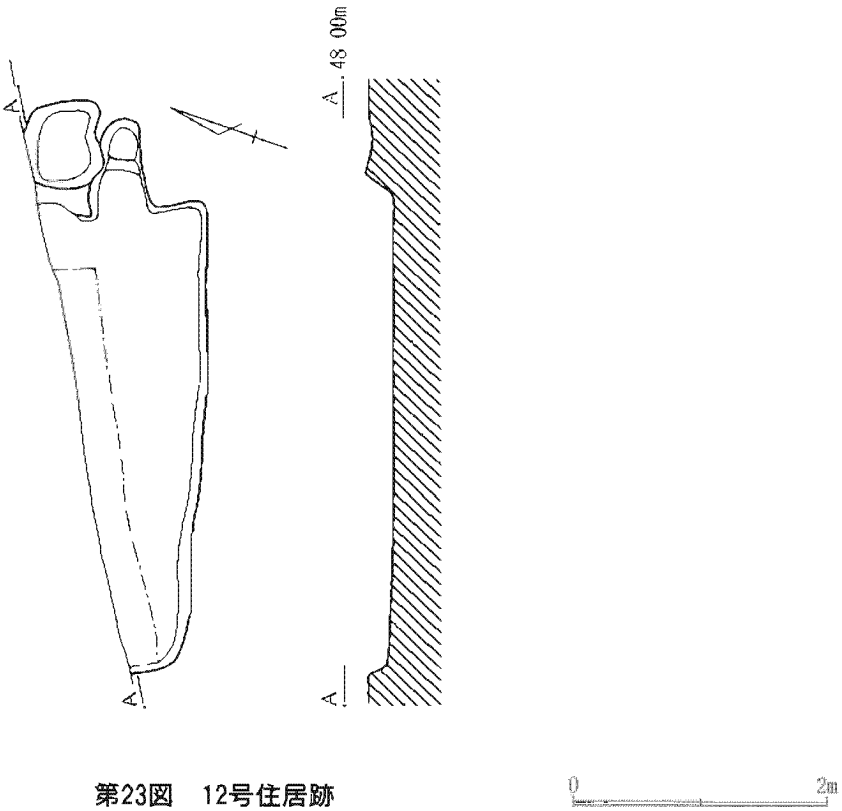
1　暗褐色土　焼土ブロック少量、炭化物（小）ブロック若干含む。ローム粒子、パミス少量含む。しまり、粘性やや有り。
2　暗茶褐色土　焼土粒子若干含む。ローム粒子少量含む。1層よりも褐色土多い。しまり、粘性やや有り。
3　暗黄褐色土　焼土（小）ブロック粒子を多く含む。ローム粒子多い。炭化物若干有り。しまり、粘性やや有り。
4　暗茶褐色土　ロームブロック多く含む。ベースは暗褐色土。しまり、粘性有り。



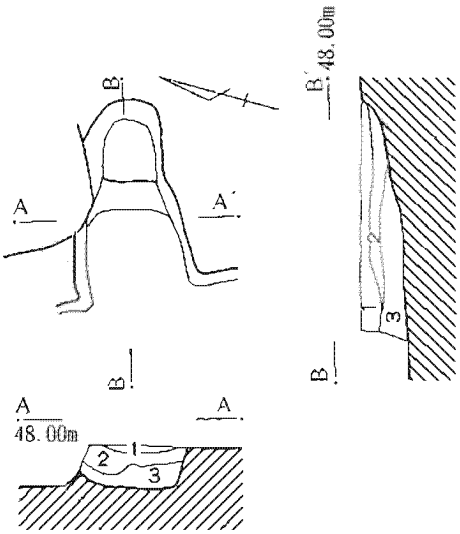
11号住居跡カマド土層説明

1　暗褐色土　黒色土と茶褐色土の混合層。焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子多量に含む。しまり、粘性有り。
2　黒褐色土　黒色土をベースに暗褐色土を混合。ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロックを少量含む。
3　黒褐色土　焼土ブロック、灰褐色粘土ブロック多量含む。
4　黄褐色土　ロームブロック主体とする。焼土ブロック少量含む。

第22図　11号住居跡カマド



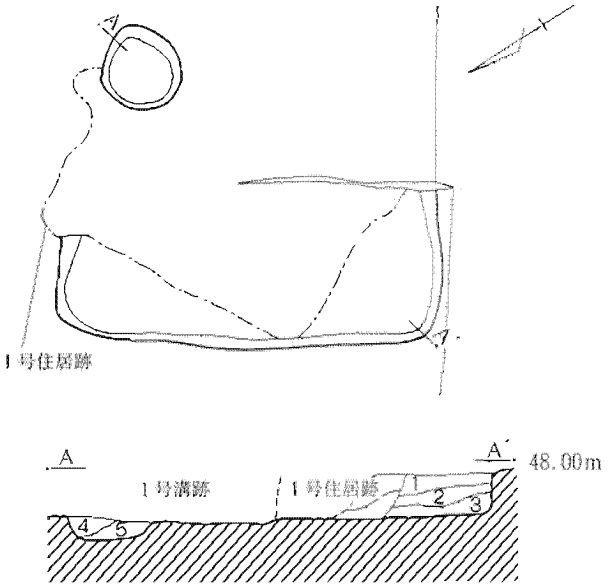
第23図　12号住居跡



12号住居跡カマド土層説明

1　暗褐色土　焼土ブロック・ロームブロック粒子を多量に含む。しまり、粘性有り。
2　黒褐色土　1層をベースに黒色土と炭化物を多く含む。
3　暗褐色土　明褐色土を多く含む。焼土細粒子、ローム粒子を少量含む。若干の炭化物有り。しまり、粘性やや有り。

第24図　12号住居跡カマド

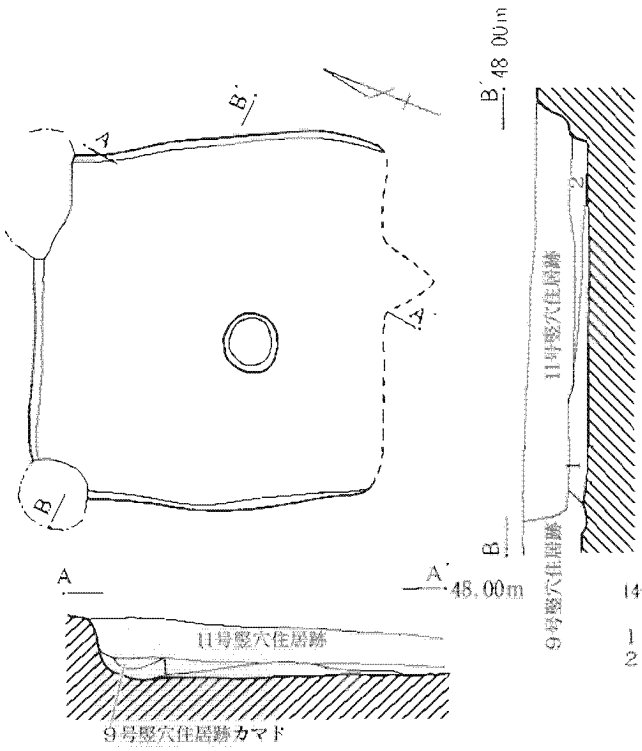


13号住居跡土層説明

1　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。
3　黒褐色土　ロームブロック若干含む。
4　暗茶褐色土　ローム粒子、焼土粒子若干含む。
5　黄褐色土　ロームブロック多量に含む。

0　2m

第25図　13号住居跡

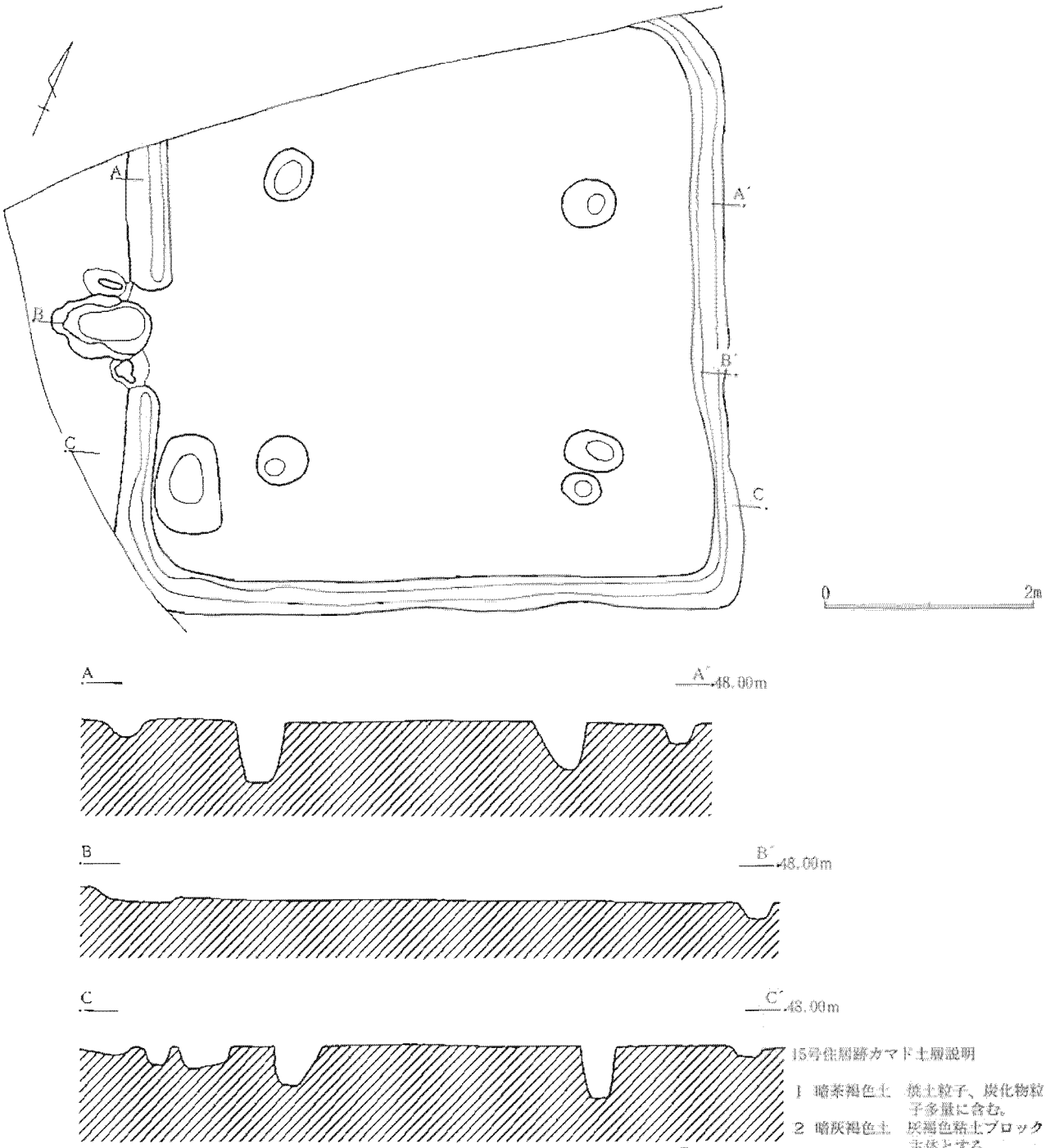


14号住居跡土層説明

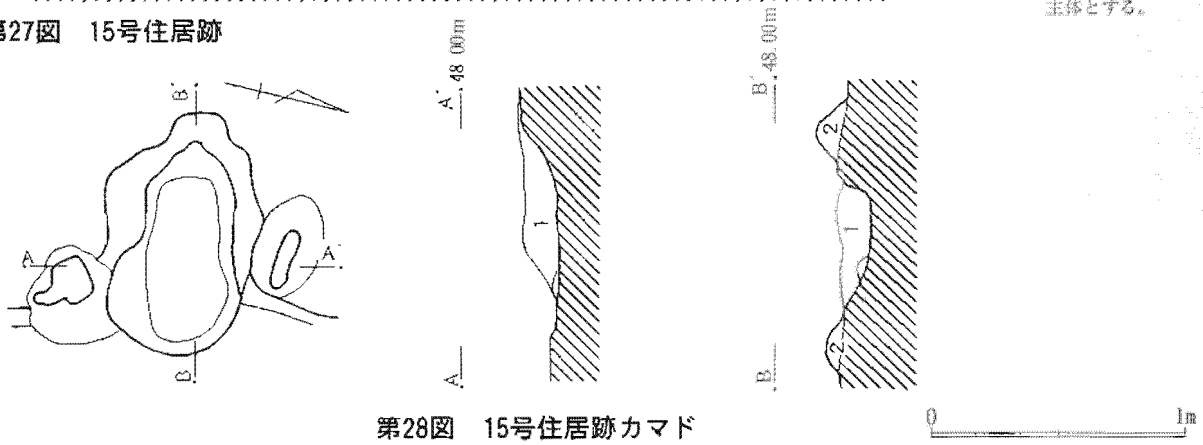
1　暗茶褐色土　粘土粒子を多く含む。しまり、粘性やや有り。
2　黒褐色土　茶褐色土混入。炭化物、焼土粒を少量含む。

0　2m

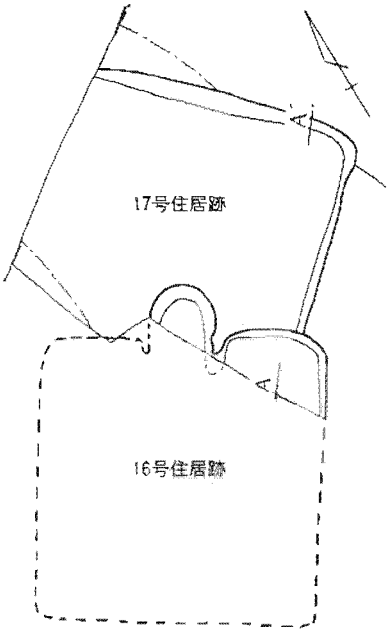
第26図　14号住居跡

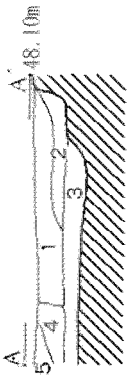


第27図　15号住居跡



第28図　15号住居跡カマド



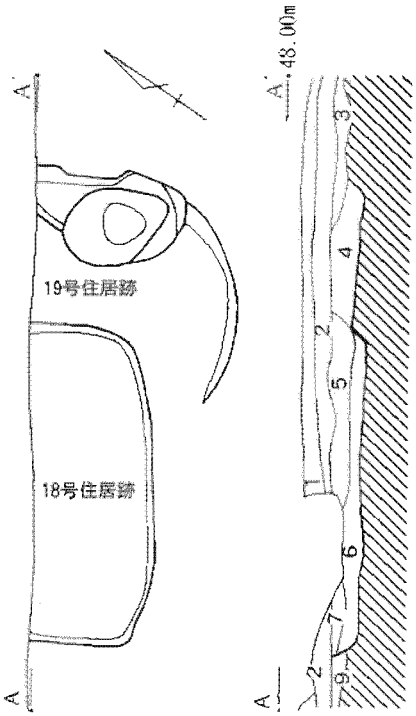


16・17号住居跡土層説明

1　暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。
2　暗黄褐色土　ロームブロック多量に含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロック多量に含む。(1号溝覆土)
4　黒褐色土　ローム粒、ロームブロック少量含む。焼土粒少量含む。
5　暗黄褐色土　ロームブロック若干含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。

0　2m

第29図　16・17号住居跡

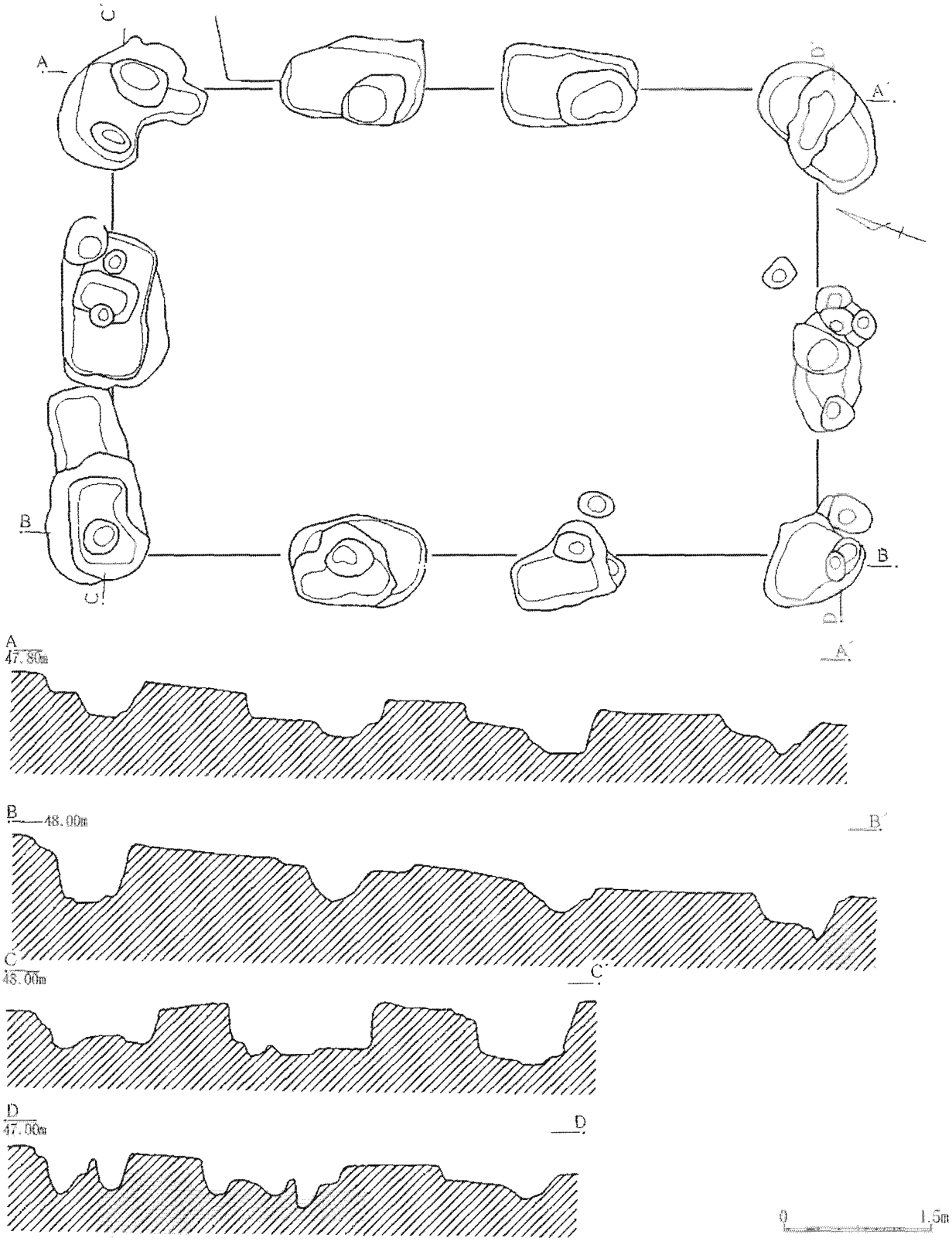


18号・19号住居跡土層説明

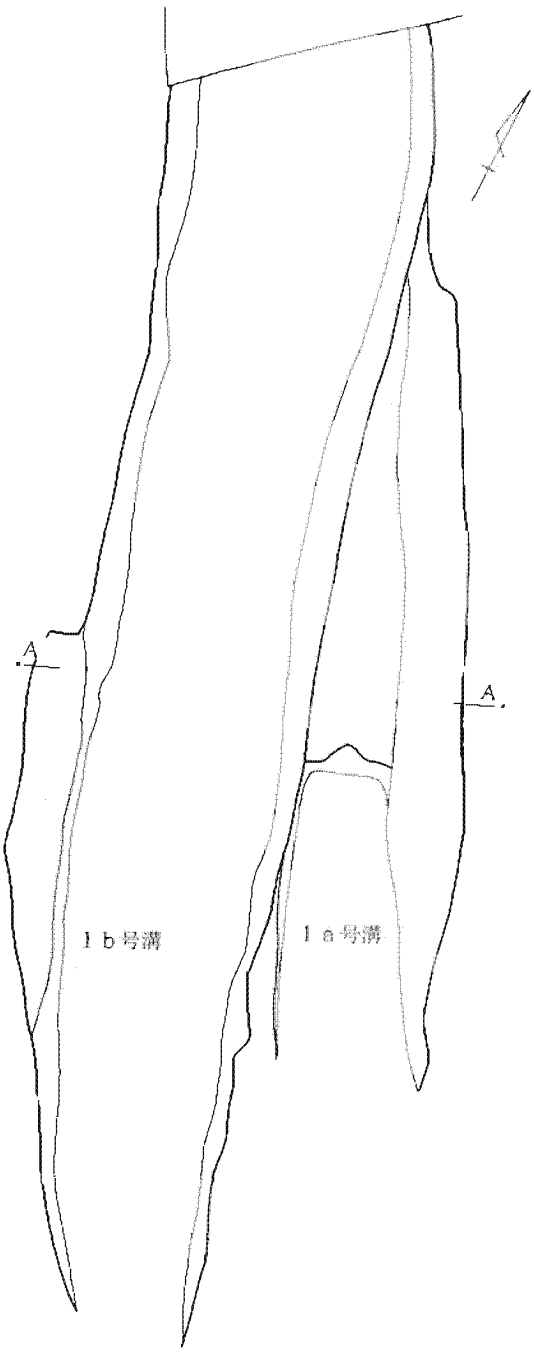
1　茶褐色土　ローム粒、焼土粒少量含む。パミス微量含む。
2　暗茶褐色土　焼土粒少量、ローム粒微量含む。
3　黒褐色土　焼土粒、ロームブロック少量含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロック多量含む。
5　暗茶褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量含む。
6　黒褐色土　ロームブロック少量含む。
7　暗茶褐色土　ローム粒子若干含む。
9　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。

0　2m

第30図　18・19号住居跡

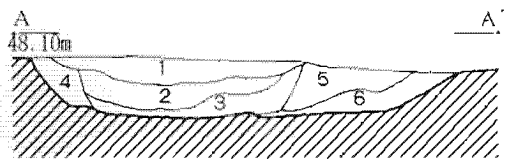


第31図　1号掘立柱建物跡



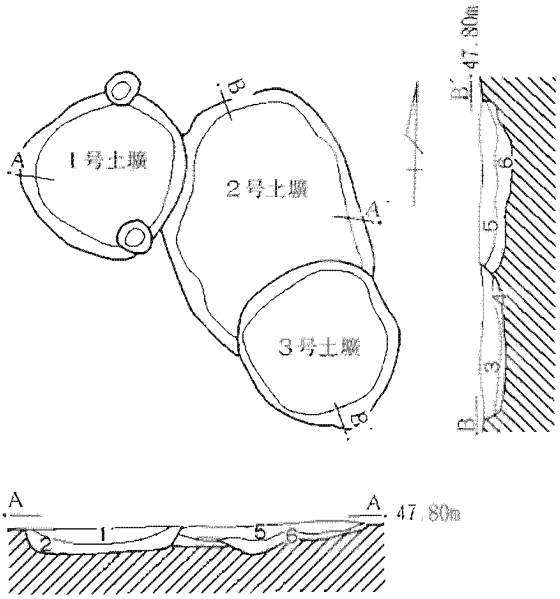
1 号溝跡土層説明

1	暗褐色土層	少量のパミス、焼土ブロック、ローム粒子含む。しまり有り。粘性少ない。
2	暗茶褐色土	暗褐色土をベースに茶褐色土と明褐色土を混入。ローム粒子、焼土粒子を少量含む，しまり有り。粘性少ない。
3	黒褐色土	焼土粒子、ローム細粒子を少量含む。炭化物若干有り。しまり、粘性少ない。
4	黒褐色土	ローム粒子、焼土粒子若干含む。少礫有り。しまり有り。粘性少ない。
5	暗黄褐色土	ロームブロック多量含む。やや粘性有り。
6	暗茶褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。

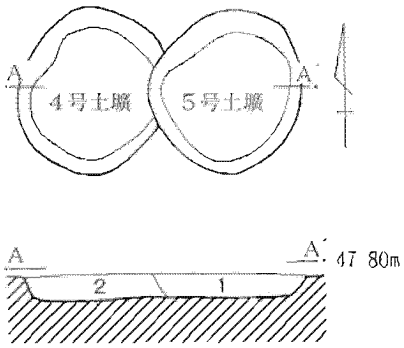


0　　2m

第32図　1号溝跡



第33図　1～3号土壙



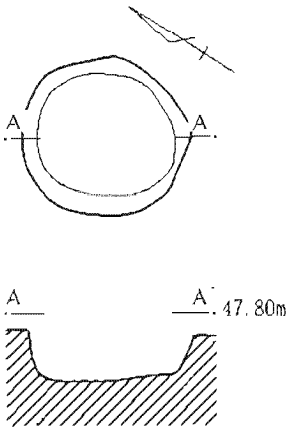
第34図　4～5号土壙

1～3号土壙土層説明

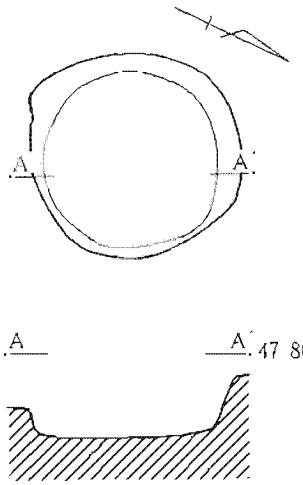
1	暗褐色土	ローム粒多量含む。炭化物若干含む。焼土粒子少量含む。しまり、粘性有り。
2	黒褐色土	ローム粒子少量含む。しまり、粘性有り。
3	暗黄褐色土	ロームブロック・粒子多量に含む。
4	暗茶褐色土	ロームブロック・粒子多量に含む。3層より明るい。
5	暗茶褐色土	ローム粒子、炭化物粒子少量含む。しまり、粘性有り。
6	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。焼土粒子若干含む。

4～5号土壙土層説明

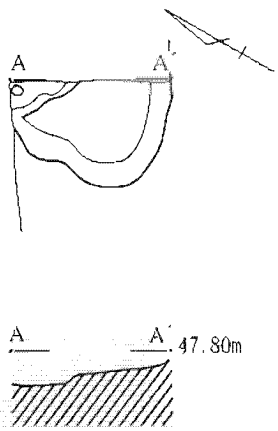
1	暗茶褐色土	ローム粒多量含む。ロームブロック少量含む。粘性有り。
2	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。



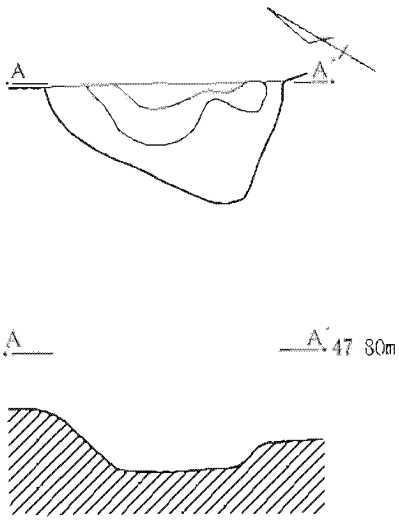
第35図　6号土壙



第36図　7号土壙

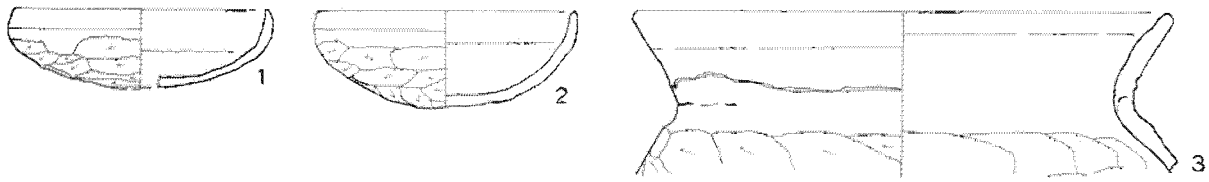


第37図　8号土壙

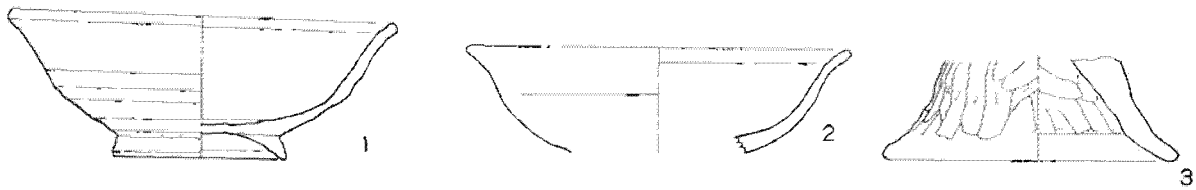


第38図　9号土壙

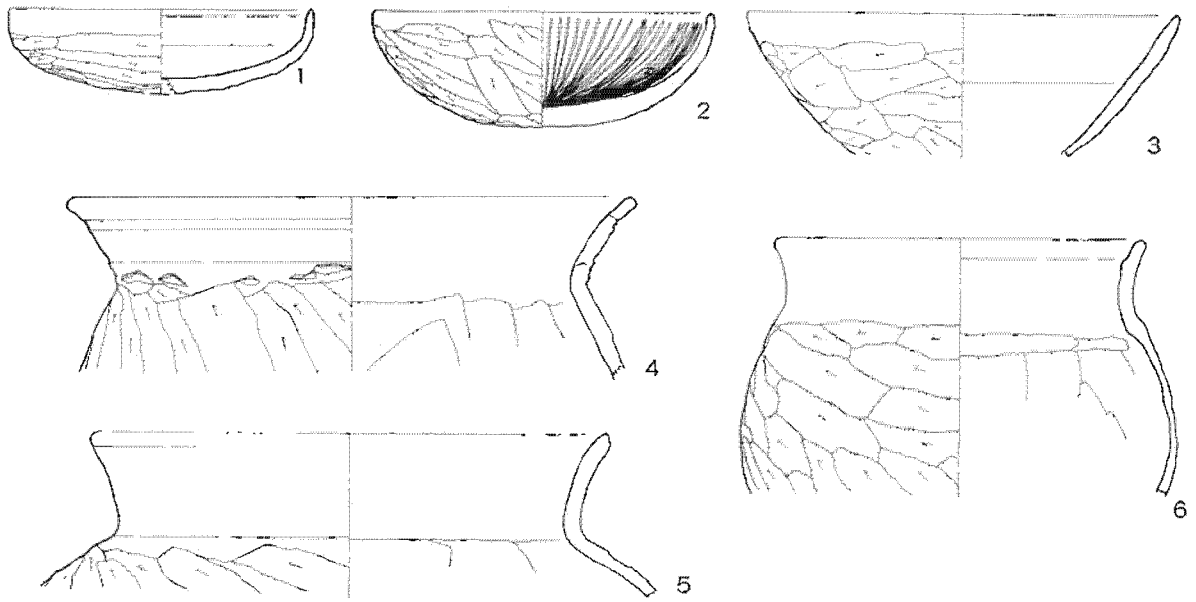
0　2m



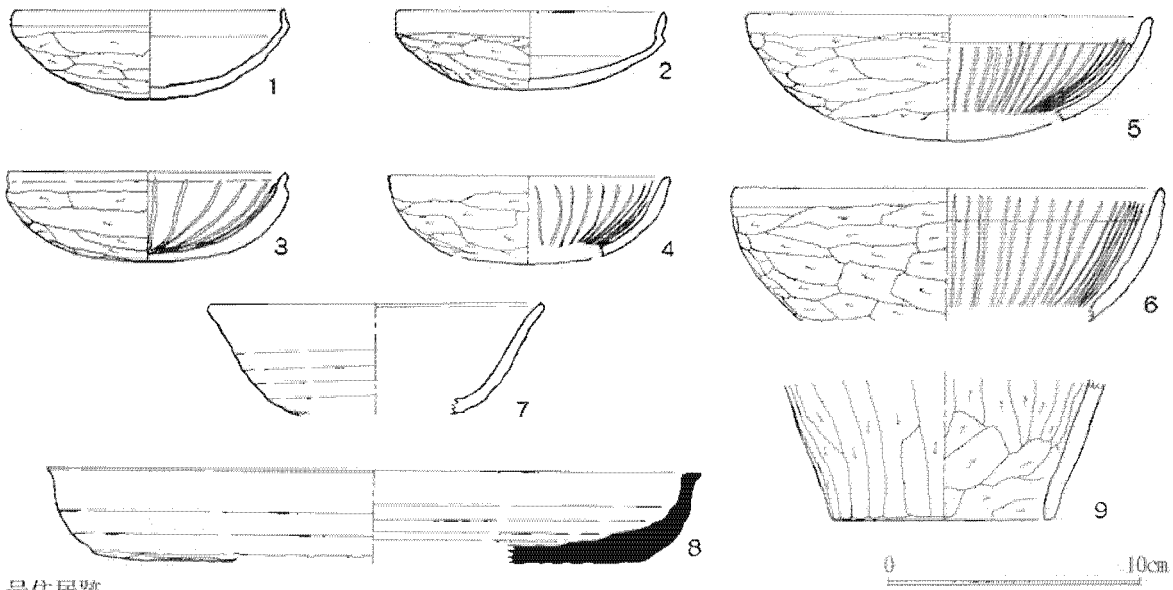
1号住居跡



2号住居跡

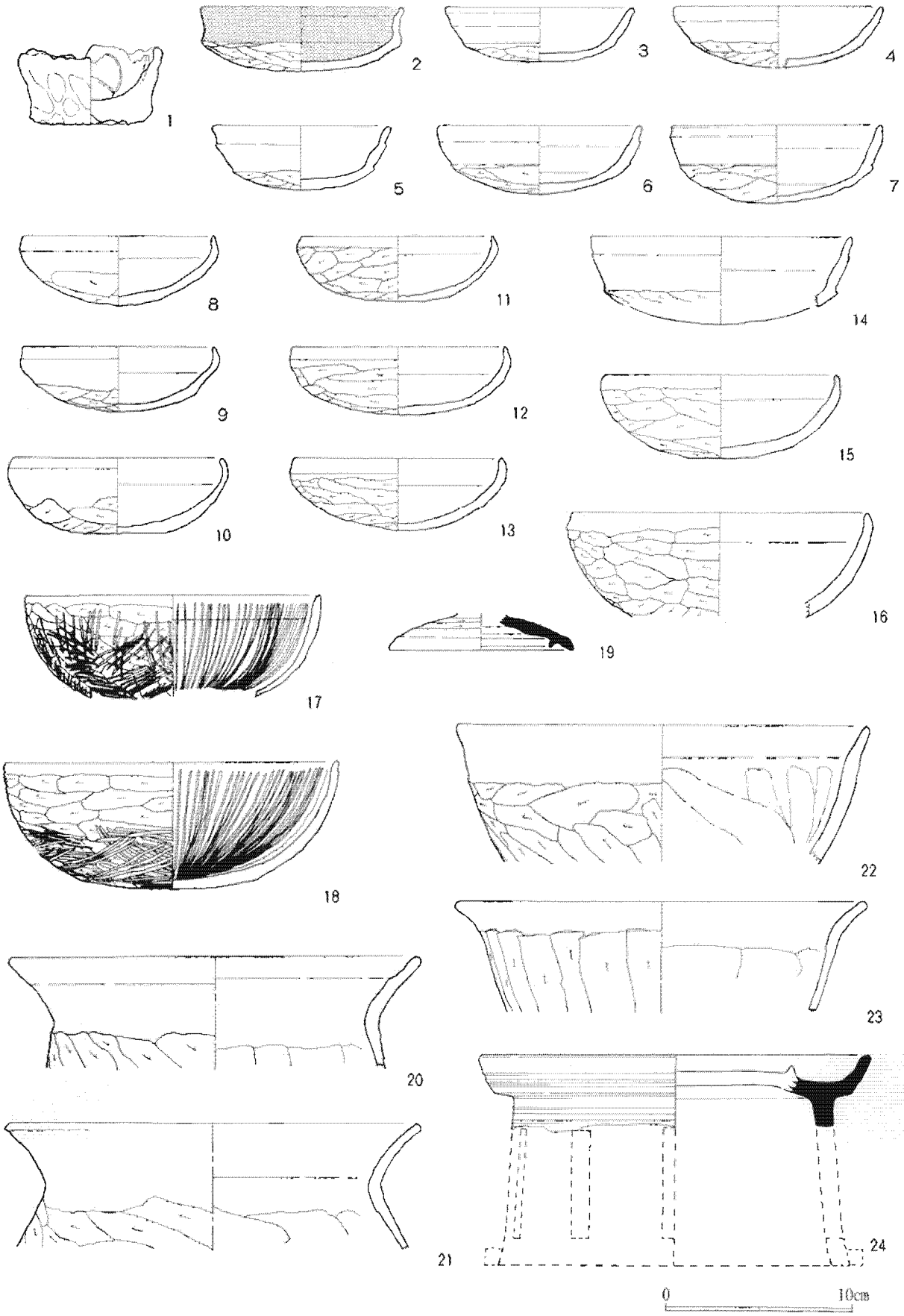


3号住居跡

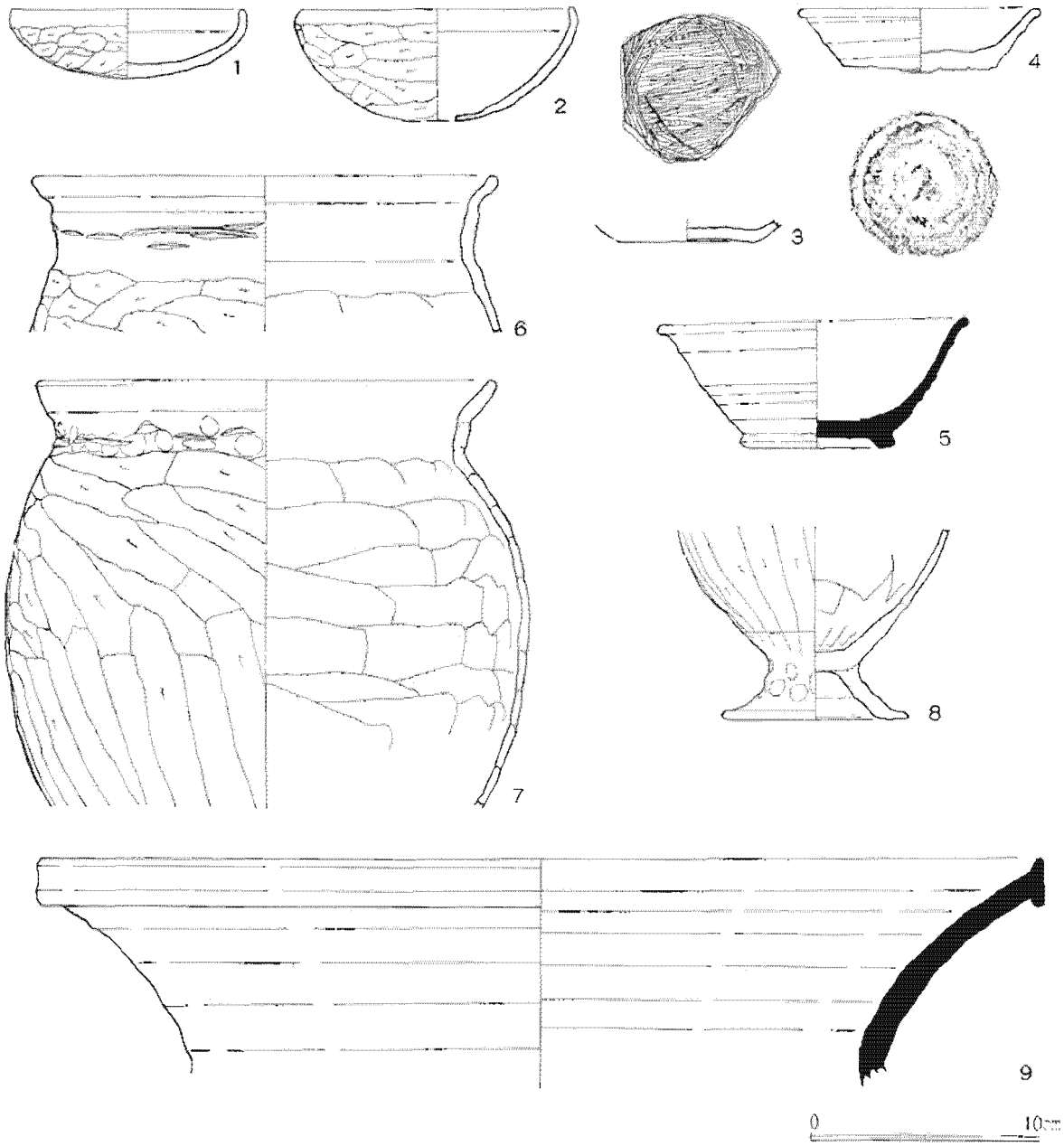


4号住居跡

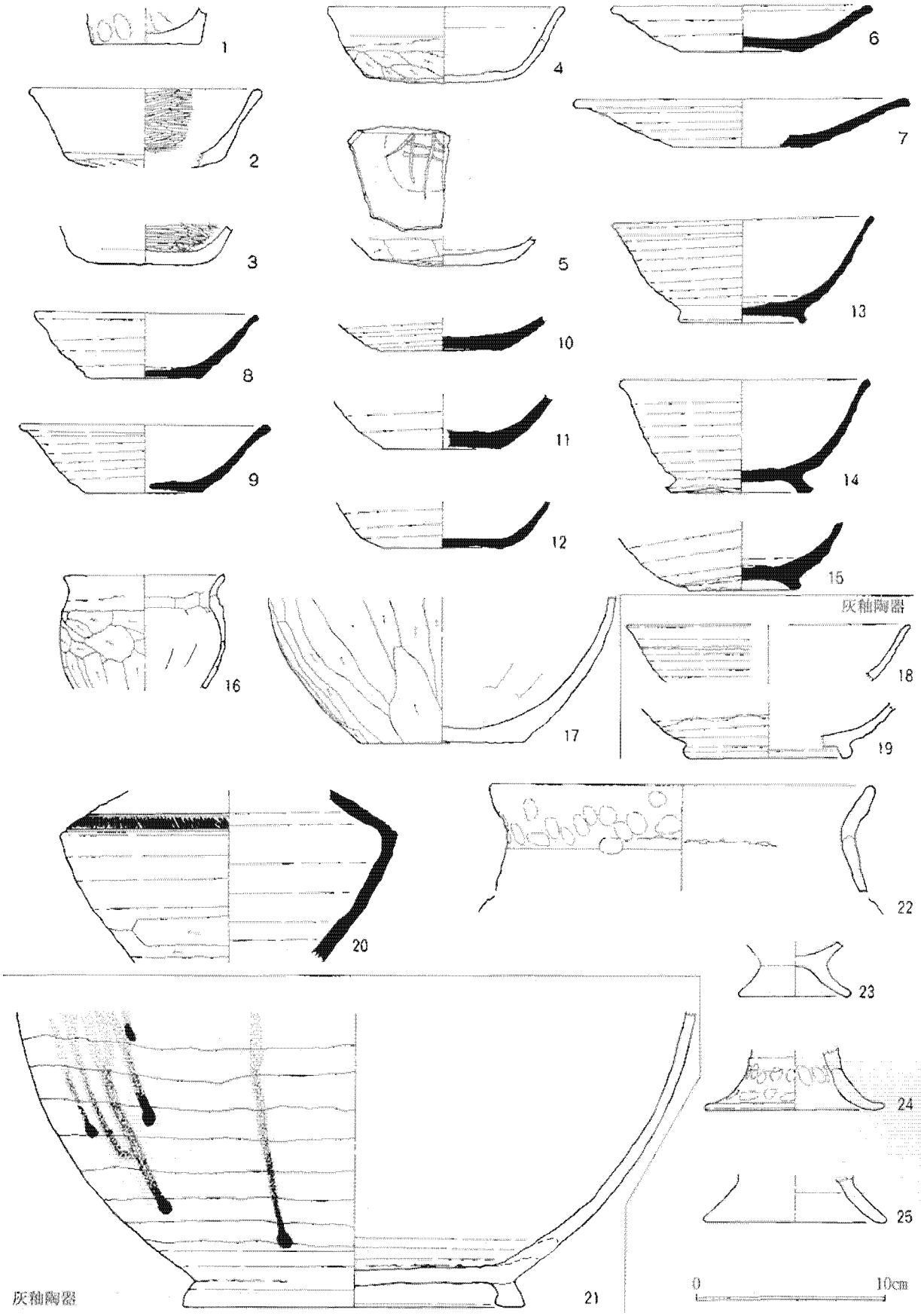
第39図　1～4号住居跡出土遺物



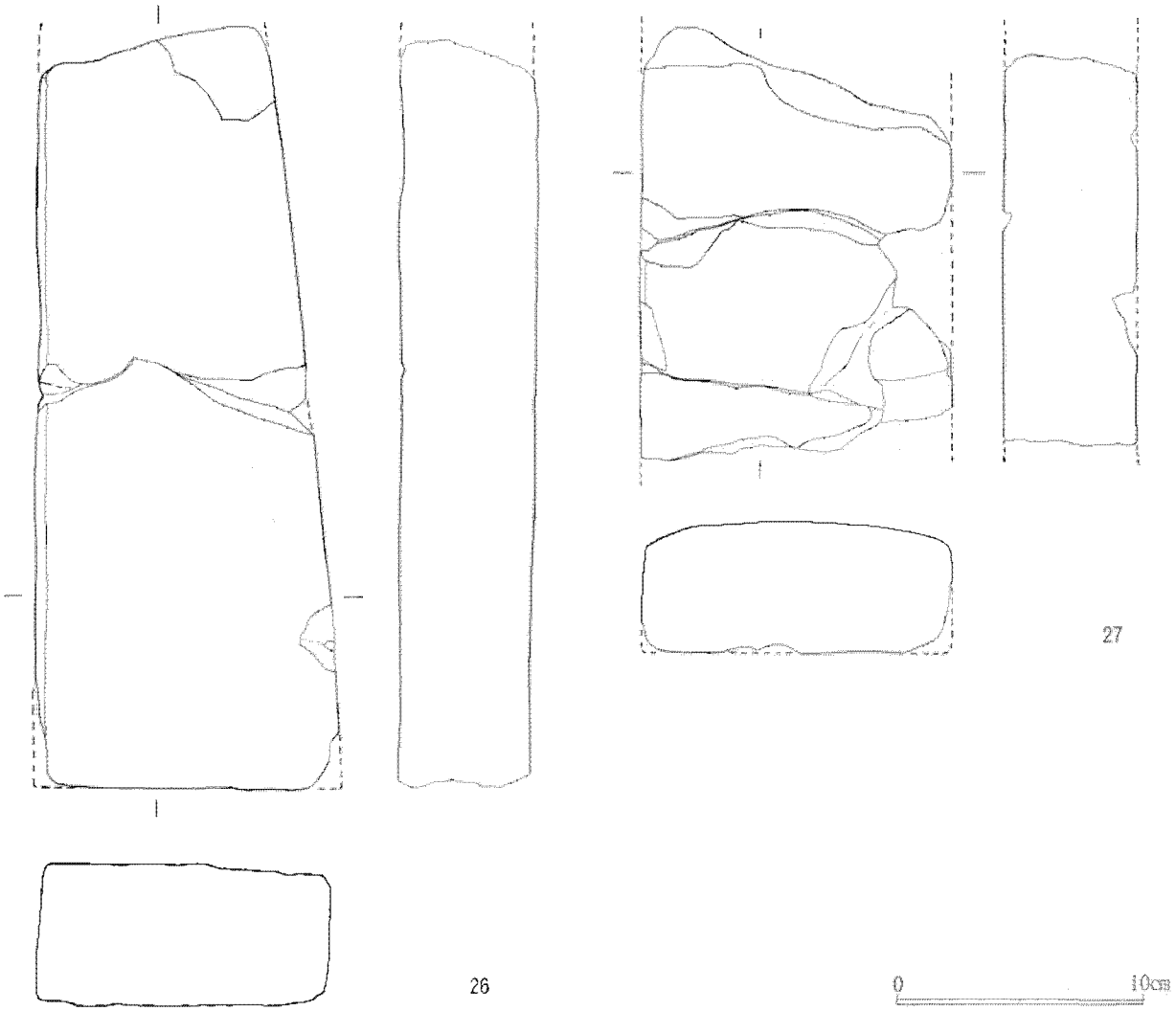
第40図　５号住居跡出土遺物



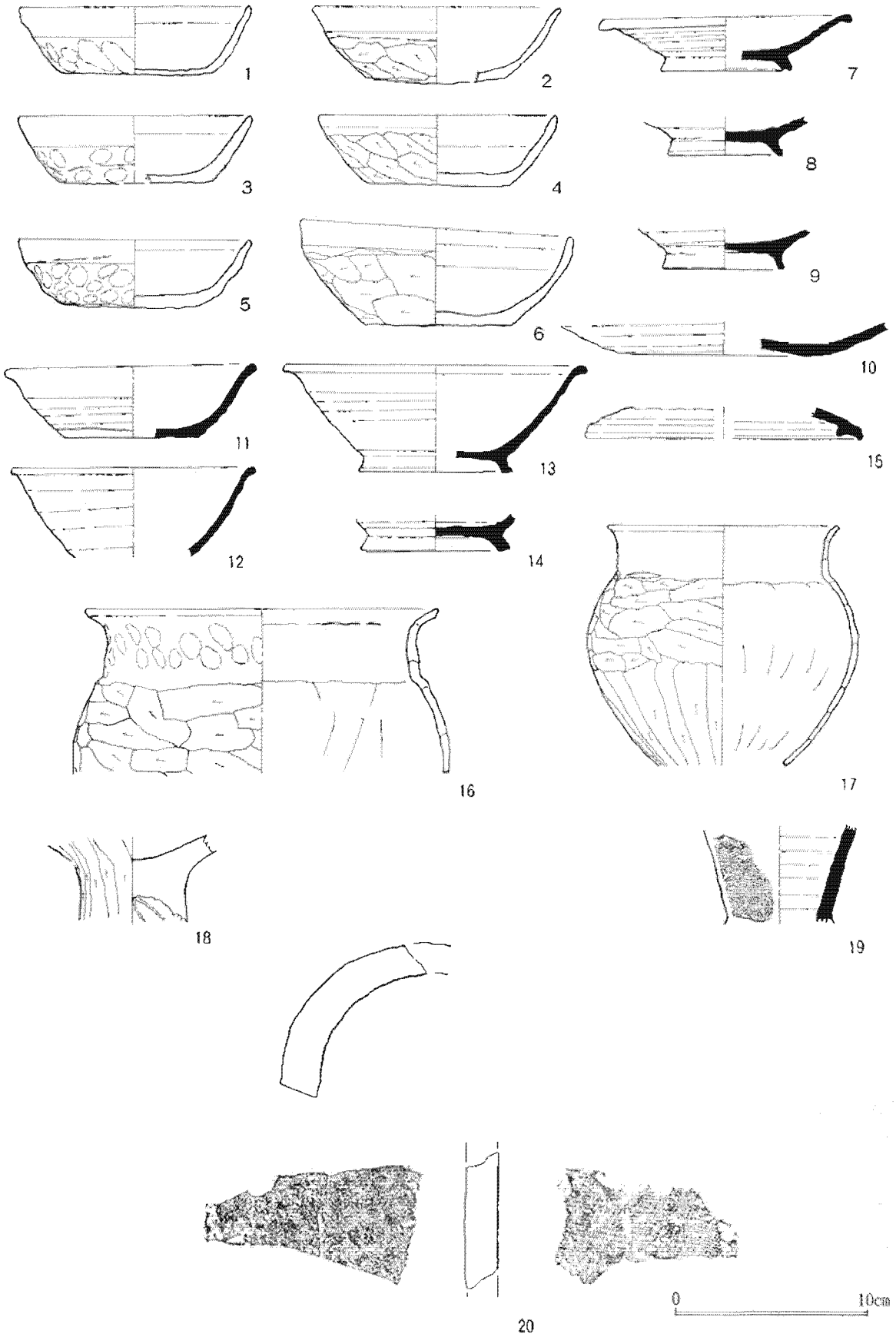
第41図　6号・7号住居跡出土遺物



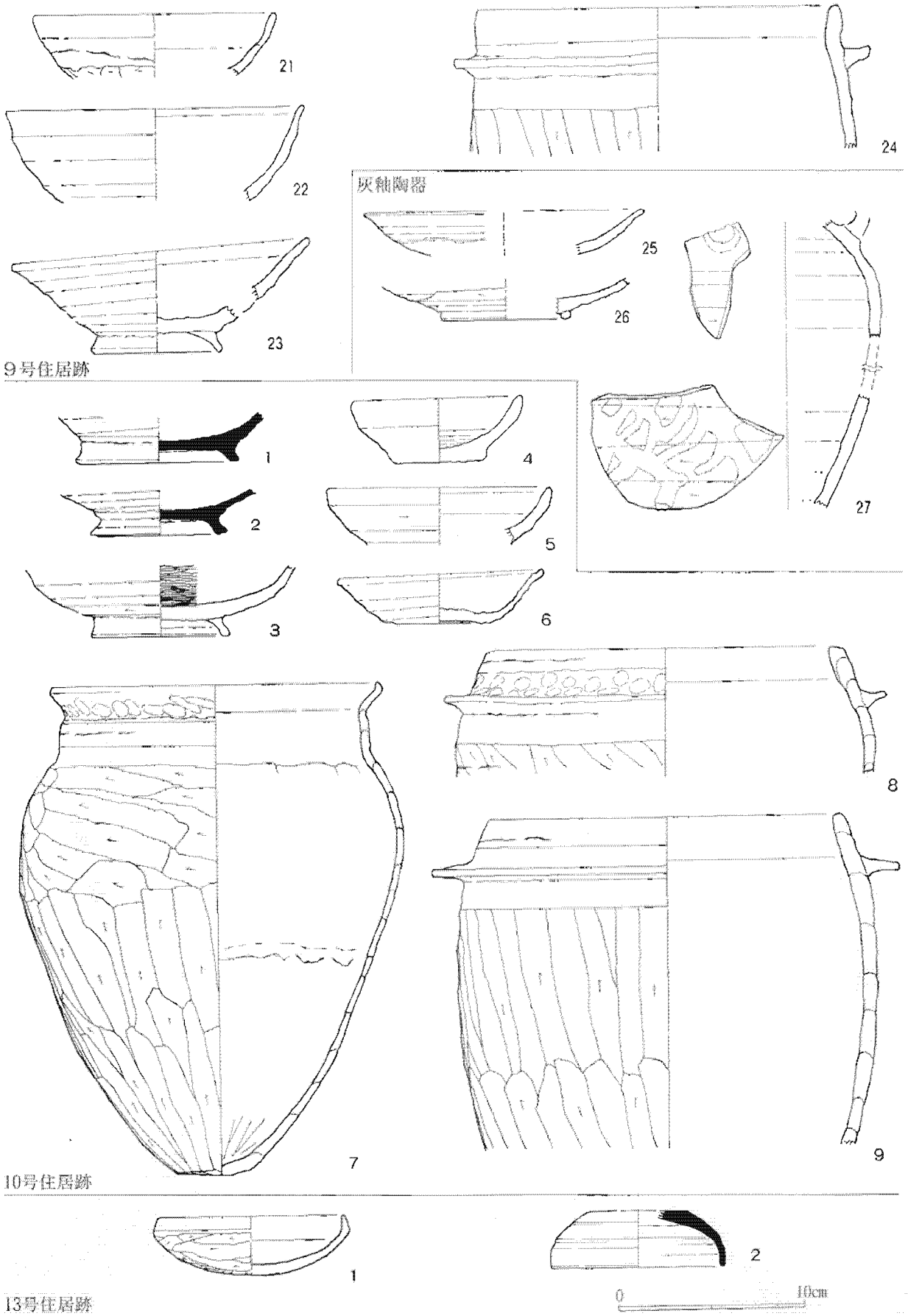
第42図　８号住居跡出土遺物



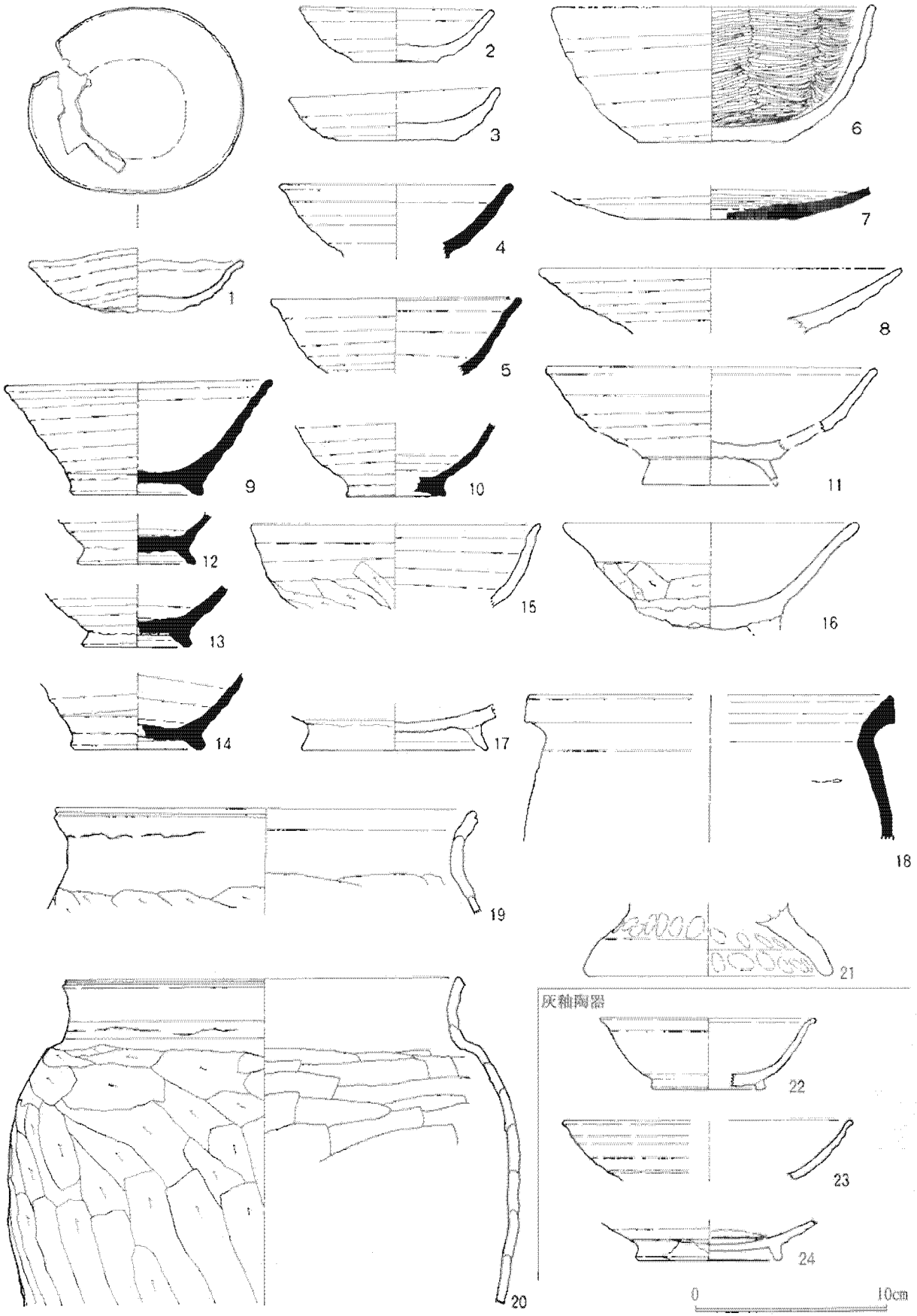
第43図　８号住居跡出土塼



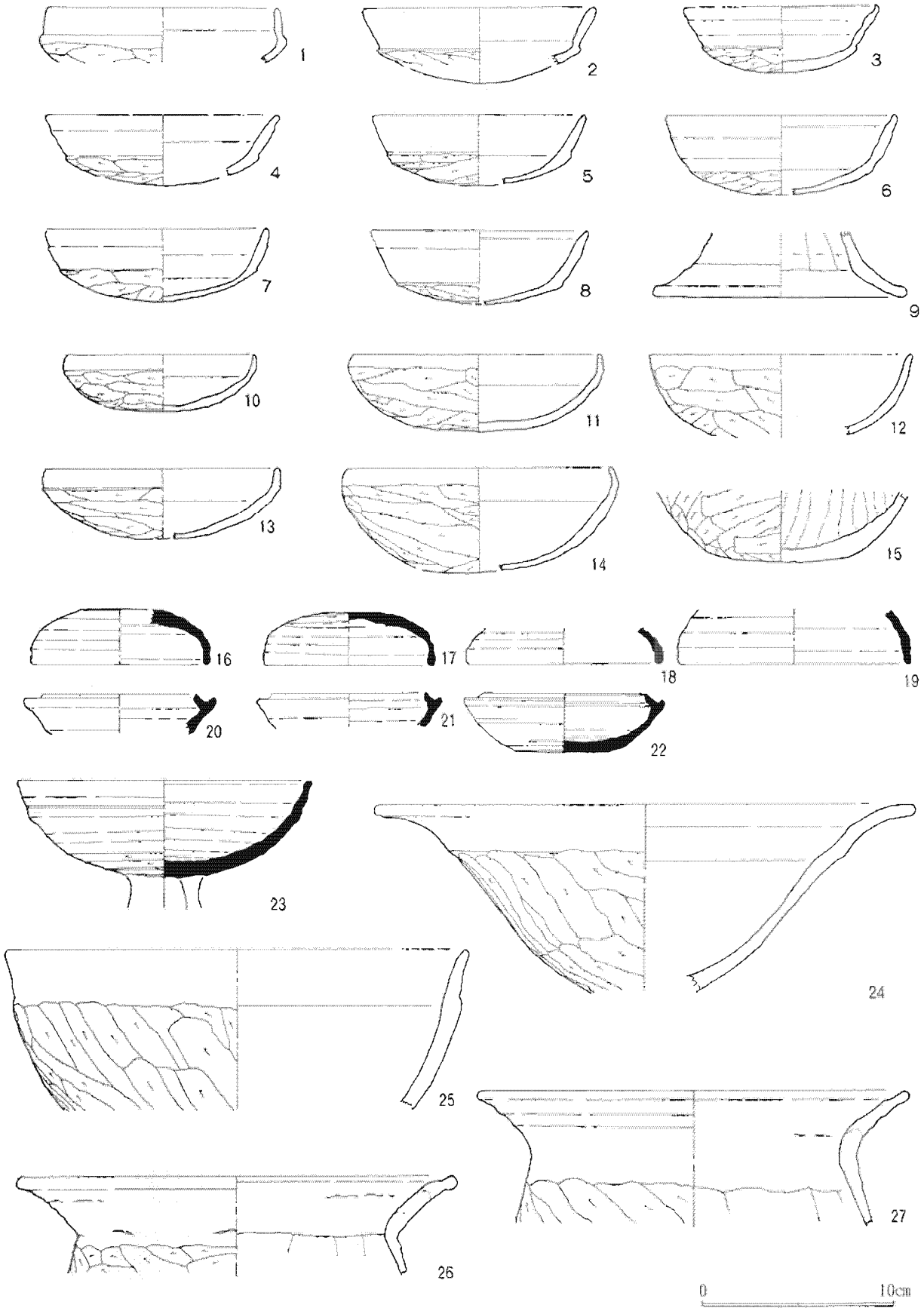
第44図　９号住居跡出土遺物



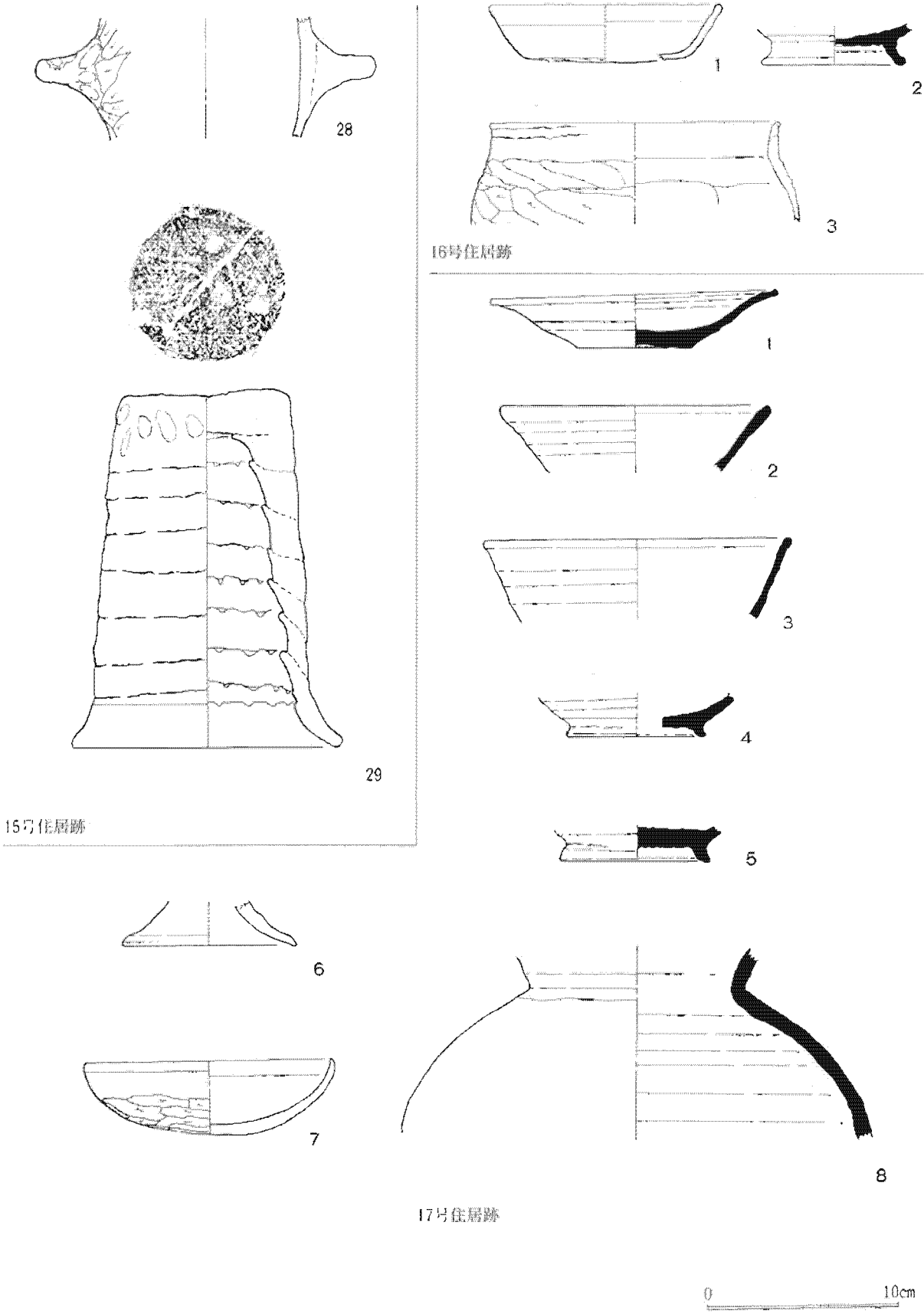
第45図　9号・10号・13号住居跡出土遺物



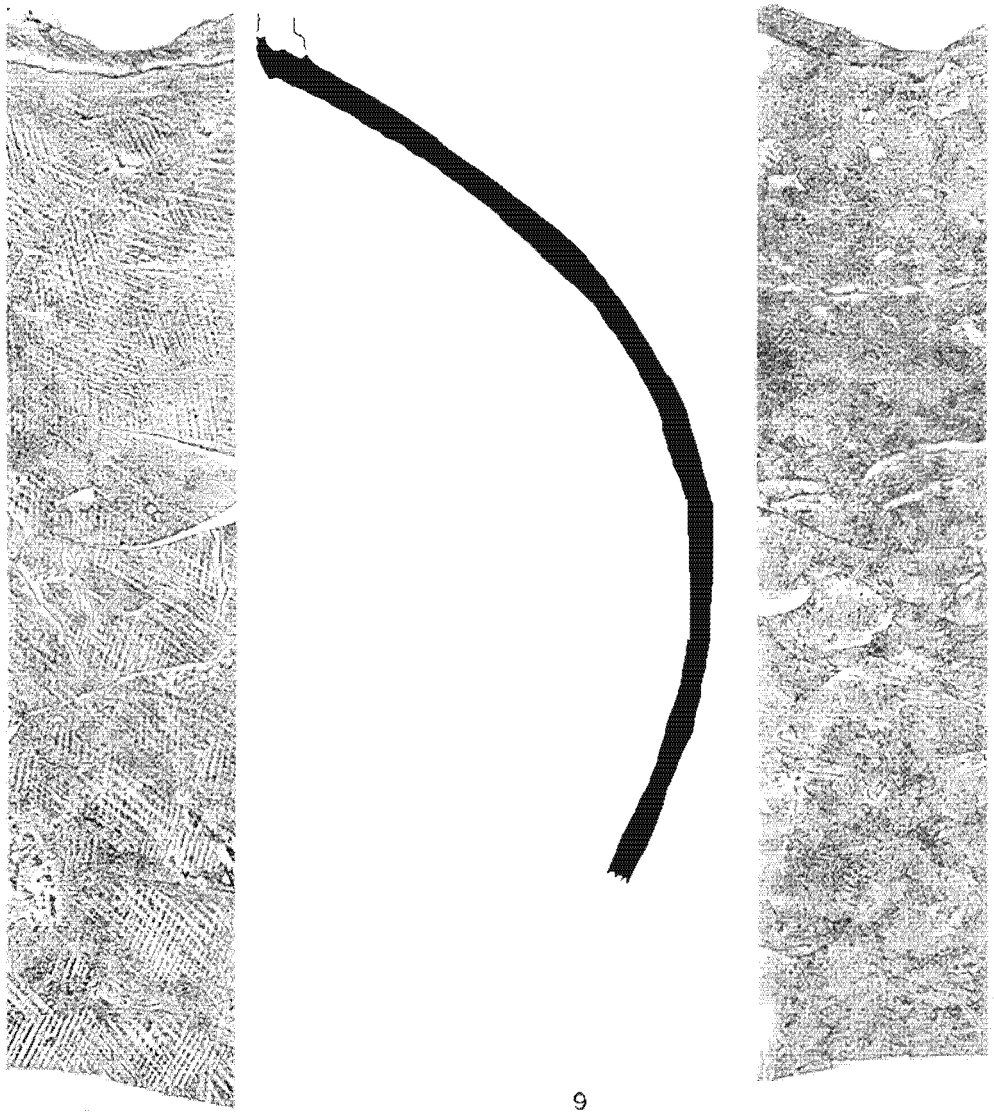
第46図　11号住居跡出土遺物



第47図　15号住居跡出土遺物



第48図　15・16・17号住居跡出土遺物

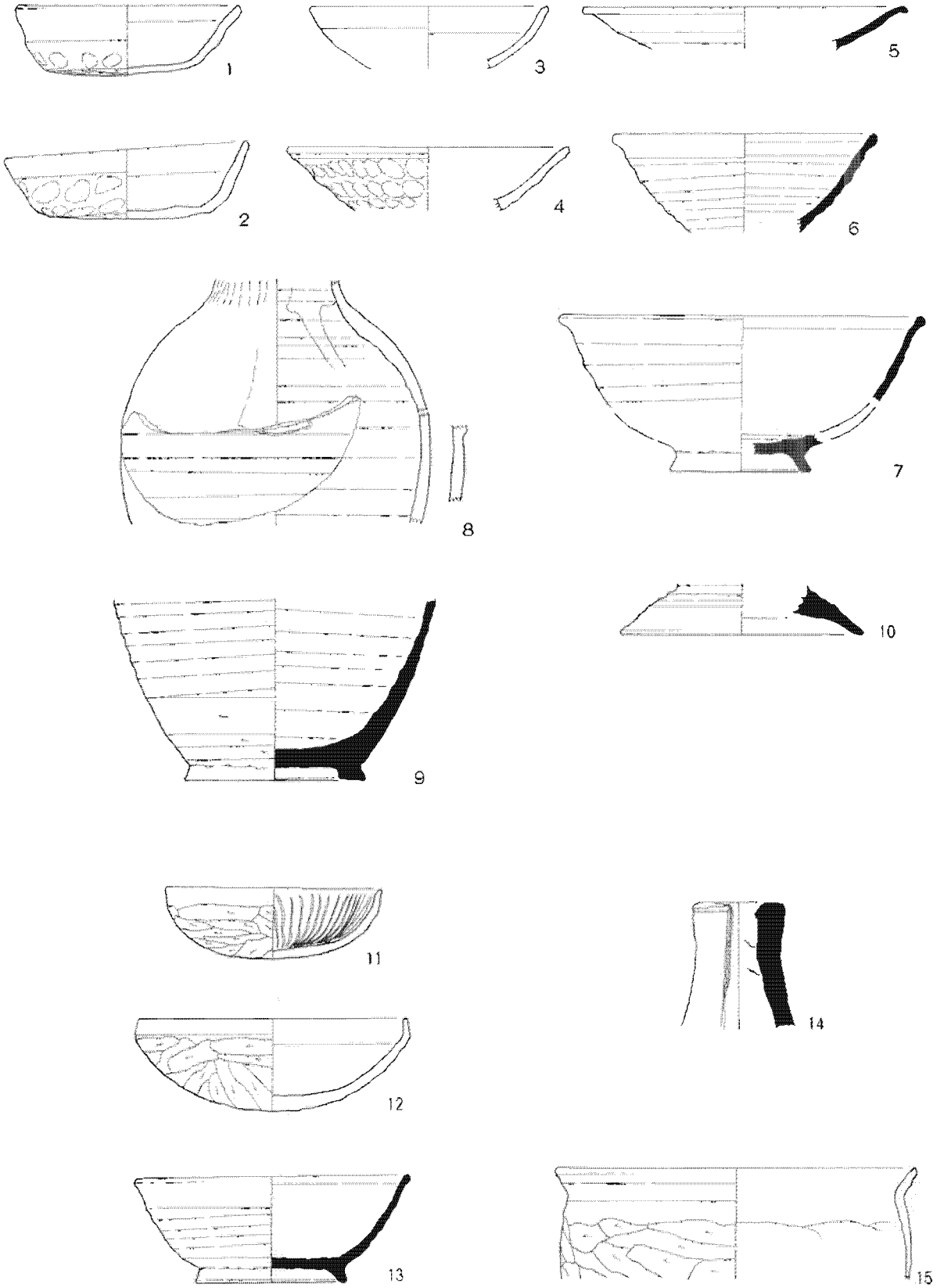


17号住居跡

19号住居跡

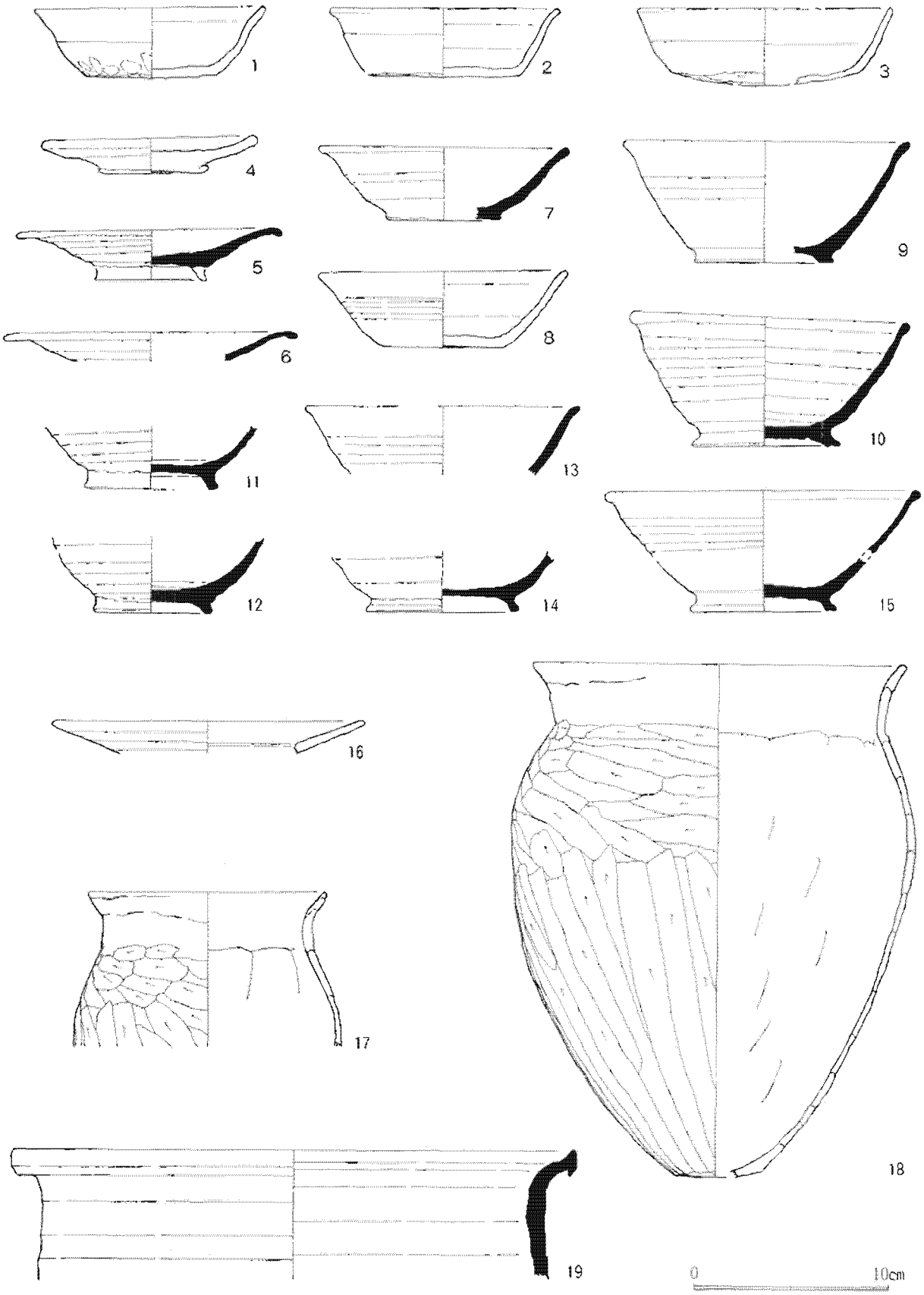
0　10cm

第49図 17・19号住居跡出土遺物

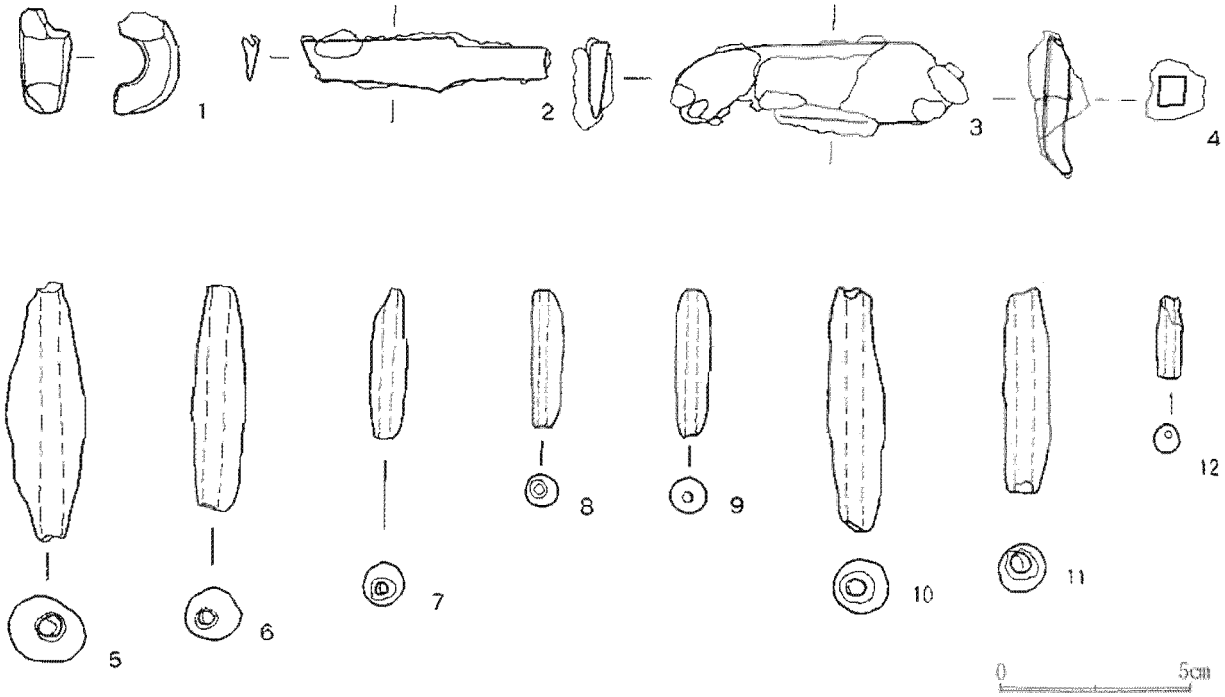


第50図　1号掘立柱建物跡出土遺物

0　10cm



第51図　1号溝跡出土遺物

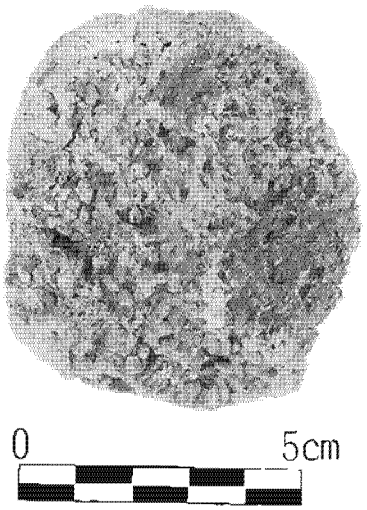


第52図　抉状耳飾・鉄製品・土錘

塚東遺跡グリッド出土炭化米

塚東遺跡２次調査では、Ｇ－４グリッドから炭化米が出土している。当遺物は、「おにぎり」状を呈している。大きさは、長軸7.1cm、短軸6.4cm、厚さ3.5cmである。重量は36.8gを測る。

出土地点は、２号住居跡南方の炭化物集中地点であり、第７図５層にあたる。炭化米の他、焼土、炭化材等も集中して検出されている。今回の報告では、この炭化米の詳細な分析ができなかったが、改めて検討する機会を持ちたい。



第53図　塚東遺跡グリッド出土炭化米

1号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(10.0)	3.3	—	淡橙褐色	良好	白色粒子、石英、黒色粒子	図示45%	
2	坏	10.2	3.9	—	茶褐色	普通	白色粒子、鉄分、石英	75%	
3	甕	21.0	《6.7》	—	淡褐色	良好	白色粒子、角閃石、鉄分	図示100%	

2号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	高台椀	(14.8)	5.9	6.8	赤褐色	普通	白色粒子、黒色粒子、石英	50%	ロクロ土師器
2	〃	(15.0)	4.3	—	橙灰色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示30%	〃
3	台付甕	—	《4.2》	10.6	黒褐色	普通	石英、片岩、白色粒	図示25%	

3号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(12.0)	(3.4)	—	橙褐色	良好	雲母、白色粒子、鉄分	35%	
2	坏	13.2	4.6	—	橙褐色	〃	白色粒子、雲母、鉄分	40%	放射状暗文
3	鉢	(17.0)	《5.7》	—	橙褐色	〃	黒色粒子、白色粒子、石英	図示20%	
4	甕	(22.0)	《7.4》	—	〃	〃	黒色粒子、石英、角閃石	図示20%	
5	甕	(20.2)	《7.5》	—	〃	〃	鉄分、石英、白色粒子	図示15%	
6	甕	(14.4)	《10.3》	—	暗褐色	普通	角閃石、雲母、鉄分	図示40%	

4号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	10.8	3.6	—	橙褐色	普通	雲母、黒色粒子、白色粒子	85%	
2	坏	10.5	3.2	—	茶褐色	良好	雲母、鉄分、黒色	75%	
3	坏	11.0	4.6	—	橙褐色	普通	角閃石、白色粒子、雲母	80%	放射状暗文
4	坏	(11.0)	《3.2》	—	橙褐色	良好	白色粒子、鉄分、角閃石	図示25%	〃
5	坏	(16.0)	《4.3》	—	淡褐色	〃	石英、白色粒子、鉄分	図示15%	〃
6	坏	(17.0)	《5.3》	—	茶褐色	〃	白色粒子、角閃石、鉄分	図示20%	〃
7	坏	(13.0)	《4.5》	—	赤褐色	普通	石英、白色粒子、鉄分	図示20%	ロクロ土師器
8	盤	(25.0)	3.7	—	明灰色	良好	白色粒、石英、片岩	図示15%	末野産
9	鉢	—	《5.7》	(8.0)	茶褐色	〃	白色粒、鉄分、石英	図示25%	

5号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	手づくね土器	7.4	5.7	4.4	淡褐色	良好	角閃石、石英、白色粒子	100%	
2	坏	(10.7)	3.5	—	赤灰色	〃	石英、白色粒子、鉄分	25%	比企型
3	坏	(5.0)	3.0	—	黒褐色	〃	白色粒子、雲母、鉄分	30%	
4	坏	(11.0)	3.3	—	淡褐色	普通	雲母、鉄分、白色粒子	40%	
5	坏	9.5	3.5	—	黒褐色	〃	鉄分、白色粒子、黒褐色	60%	
6	坏	10.8	3.8	—	茶褐色	〃	鉄分、雲母、白色粒子	50%	
7	坏	(11.2)	4.3	—	茶褐色	〃	鉄分、黒色粒子、白色粒子	50%	
8	坏	10.3	3.8	—	橙褐色	〃	白色粒子、雲母、鉄分	100%	
9	坏	10.4	3.6	—	明褐色	〃	白色粒子、雲母、鉄分	80%	
10	坏	(11.2)	4.2	—	橙褐色	〃	白色粒子、黒色粒子、石英	25%	
11	坏	(10.2)	3.6	—	橙褐色	〃	白色粒子、雲母、角閃石	20%	
12	坏	(11.4)	3.8	—	橙褐色	普通	白色粒子、石英、雲母	25%	
13	坏	(11.2)	4.0	—	橙褐色	〃	白色粒子、石英、角閃石	100%	
14	坏	14.0	3.8	—	茶褐色	良好	鉄分、白色粒子、石英	15%	
15	坏	12.4	3.6	—	淡褐色	〃	白色粒子、鉄分、雲母	25%	
16	坏	(15.8)	《5.7》	—	暗褐色	〃	雲母、白色粒子、角閃石	20%	
17	坏	(15.8)	《6.6》	—	橙褐色	〃	黒色粒子、石英、白色粒子	30%	放射状暗文
18	坏	17.8	7.0	—	淡褐色	〃	鉄分、黒色粒子、石英	30%	〃
19	蓋	—	《2.0》	(9.6)	明灰色	〃	黒色粒子、片岩、石英	図示15%	末野産
20	甕	(22.0)	《6.1》	—	淡褐色	〃	鉄分、白色粒子	図示20%	
21	甕	(22.0)	《6.9》	—	橙褐色	〃	白色粒子、鉄分、雲母	〃	
22	鉢	(22.0)	《7.5》	—	淡褐色	〃	黒色粒子、白色粒子、石英	図示20%	
23	〃	(22.0)	《6.1》	—	茶褐色	〃	石英、白色粒子、鉄分	〃	
No.	器種	外径	陸部径	器高	色調	焼成	胎土	残存率	備考
24	円面硯	20.9	(12.6)	《4.3》	灰色	普通	長石、片岩、砂粒	図示20%	末野産

6・7号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	10.2	3.1	—	淡褐色	良好	白色粒子、雲母、黒色粒子	30%	
2	坏	(11.8)	(5.0)	—	橙褐色	良好	白色粒子、鉄分、石英	図示15%	
3	坏	—	《1.0》	10.4	黒褐色	〃	鉄分、白色粒子	図示90%	ロクロ土師器・内面黒色処理
4	小皿	10.2	《2.9》	6.6	橙褐色	普通	鉄分、白色粒子、石英	図示90%	ロクロ土師器
5	高台椀	(13.2)	5.9	6.9	濃灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	30%	末野産
6	甕	(20.0)	《7.0》	—	茶褐色	普通	雲母、石英、鉄分、白色粒子	図示20%	
7	甕	20.0	《19.0》	—	淡褐色	〃	白色粒子、雲母、鉄分	図示40%	

6・7号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
8	台付甕	—	《8.6》	7.2	赤褐色	良好	白色粒子、石英、鉄分	図示 80%	
9	甕	(44.0)	《10.2》	—	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	東野産

8号住居跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	手づくね土器	—	《2.1》	5.6	淡褐色	良好	石英、鉄分、白色粒子	図示 50%	
2	坏	(12.0)	《4.3》	—	〃	良好	石英、鉄分、白色粒子	図示 10%	ロクロ土師器・内面黒色処理
3	坏	—	《2.2》	5.0	橙灰色	普通	鉄分、白色粒子、角閃石	図示 60%	〃
4	坏	12.4	4.1	7.9	橙褐色	良好	石英、雲母、白色粒子	図示 25%	
5	坏	—	《1.6》	(7.5)	淡褐色	良好	雲母、角閃石、白色粒子	図示 25%	刻書あり。
6	皿	(13.3)	2.5	6.4	淡灰色	良好	白色粒子、鉄分、石英	30%	東野産
7	〃	(17.2)	2.7	(7.2)	灰褐色	良好	石英、白色粒子	図示 10%	〃
8	坏	(11.7)	3.7	5.9	暗灰色	〃	石英、鉄分、白色粒子	30%	〃
9	坏	(13.0)	3.8	(6.0)	濃灰色	〃	石英、鉄分、白色粒子	25%	〃
10	椀	—	《1.8》	(6.4)	赤灰色	〃	鉄分、石英、白色粒子	図示 50%	〃
11	〃	—	《2.9》	(6.2)	灰褐色	普通	鉄分、白色粒子、雲母、石英	図示 45%	〃
12	〃	—	《2.6》	(6.2)	暗灰色	良好	鉄分、石英、白色粒子	図示 50%	〃
13	高台椀	13.5	5.8	6.4	暗灰色	良好	鉄分、石英、白色粒子	60%	〃
14	〃	(12.8)	6.2	7.4	淡灰色	良好	鉄分、白色粒子、石英	40%	〃
15	〃	—	《3.7》	5.6	淡灰色	良好	石英、白色粒子、雲母	図示 90%	〃
16	小型甕	8.4	《6.2》	—	暗褐色	普通	黒色粒子、石英、雲母	図示 45%	
17	甕	—	《7.9》	8.6	橙褐色	〃	石英、雲母、白色粒子	図示 60%	
18	椀	—	《3.1》	—	明灰色	〃	緻密	図示 10%	灰釉陶器
19	高台椀	—	《3.0》	(8.2)	灰白色	良好	鉄分、白色粒子	—	〃
20	長頸瓶		《9.4》	—	明灰色	〃	白色粒子、鉄分、石英	図示 20%	群馬産
21	短頸壺	—	《16.0》	(17.9)	明灰色	〃	緻密	図示 40%	灰釉陶器・広口長頸瓶の可能性あり。
22	甕	(20.0)	《5.8》	—	橙褐色	〃	雲母、鉄分、白色粒子、石英	図示 20%	
23	台付甕	—	《3.0》	5.6	淡褐色	〃	角閃石、白色粒子、鉄分	図示 80%	
24	台付甕	—	《3.3》	8.8	赤褐色	〃	白色粒子、鉄分、角閃石	図示 25%	
25	台付甕	—	《2.6》	(9.4)	茶褐色	普通	鉄分、白色粒子、黒色粒子	図示 25%	

8号住居跡出土塼観察表

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	材　質	備　考
26	塼	31.8	12.7	5.7	黄灰色	凝灰岩	風化著しく脆い
27	塼	18.0	12.9	5.5	黄灰色	〃	〃

9号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	坏	12.0	3.7	7.9	淡褐色	普通	白色粒子、石英、鉄分	70%	
2	坏	(12.8)	4.1	(7.2)	橙褐色	普通	白色粒子、石英、鉄分	図示 30%	
3	坏	(12.0)	3.6	(8.0)	茶褐色	良好	角閃石、石英、白色粒子	図示 25%	
4	坏	12.3	3.8	7.3	茶褐色	普通	雲母、白色粒子、黒色粒子	100%	
5	坏	12.0	3.7	7.5	茶褐色	普通	角閃石、石英、鉄分	80%	
6	坏	14.0	5.7	7.7	橙褐色	普通	石英、白色粒子、雲母	80%	
7	高台皿	(12.6)	3.0	(6.8)	淡灰色	良好	白色粒子、石英、片岩	図示 25%	東野産
8	高台皿	—	《2.1》	5.8	濃灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 80%	〃
9	高台皿	—	《2.2》	5.8	灰白色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 90%	〃
10	皿	—	《1.8》	(9.4)	灰褐色	良好	白色粒子、石英、片岩	図示 25%	〃
11	坏	(12.6)	4.0	7.0	橙灰色	普通	白色粒子、黒色粒子、片岩	図示 25%	〃
12	椀	(12.6)	《4.9》	—	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	〃
13	高台椀	(15.4)	(5.7)	(7.8)	暗灰色	普通	石英、白色粒子、片岩	図示 20%	〃
14	高台椀	—	《2.1》	5.8	明灰色	良好	白色粒子、片岩	図示 80%	〃
15	蓋	—	《1.7》		明灰色	良好	緻密	図示 10%	群馬産
16	甕	18.4	《8.8》	—	茶褐色	良好	黒色粒子、白色粒子、雲母	図示 60%	
17	台付甕	12.0	《12.9》	—	茶褐色	普通	白色粒子、石英、黒色粒子	図示 30%	
18	台付甕	—	《4.7》	—	橙褐色	普通	石英、白色粒子、角閃石	図示 80%	
19	長頸瓶	—	《5.3》	—	暗灰色	良好	白色粒、石英、片岩	図示 25%	東野産
20	丸瓦	—	—	—	橙灰色	良好	石英、角閃石	—	
21	坏	13.0	《3.5》	—	茶褐色	良好	雲母、白色粒子、黒色粒子	図示 25%	
22	椀	(16.0)	《5.2》	—	淡褐色	良好	角閃石、鉄分、白色粒子	図示 20%	ロクロ土師器
23	高台椀	(15.8)	(6.2)	6.8	橙褐色	普通	白色粒子、石英、鉄分	図示 40%	〃
24	羽釜	(19.4)	《7.9》	—	黒褐色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 20%	
25	高台皿	—	《2.4》	—	明灰色	良好	緻密	図示 10%	灰釉陶器
26	〃	—	《2.2》	(6.6)	明灰色	良好	緻密	図示 25%	灰釉陶器
27	双耳瓶？	—	—	—	明灰色	良好	緻密	—	灰釉陶器

10 号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	高台椀	—	《2.7》	8.2	濃灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 90%	末野産
2	高台皿	—	《2.6》	6.4	濃灰色	良好	白色粒、石英、片岩	図示 75%	〃
3	高台椀	—	《3.9》	7.2	灰褐色	普通	石英、鉄分、白色粒子、雲母	図示 70%	ロクロ土師器
4	小皿	8.9	3.6	5.0	淡褐色	普通	石英、白色粒、鉄分、角閃石	100%	〃
5	〃	(12.0)	《3.2》	—	淡褐色	普通	石英、白色粒、鉄分、角閃石	図示 45%	〃
6	〃	10.8	3.0	4.6	淡褐色	良好	鉄分、角閃石、石英	100%	〃
7	甕	17.2	26.9	4.0	淡褐色	普通	白色粒子、石英、雲母	75%	
8	羽釜	18.0	《7.0》	—	橙褐色	普通	鉄分、石英、白色粒子	25%	
9	羽釜	19.0	《18.2》	—	橙褐色	普通	石英、白色粒子、鉄分	10%	

11 号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	小皿	11.0	3.4	4.9	橙褐色	良好	鉄分、角閃石、雲母、石英	90%	ロクロ土師器
2	〃	(10.0)	3.0	4.4	橙褐色	良好	鉄分、石英、雲母、白色粒子	30%	〃
3	〃	(10.8)	2.9	6.2	橙灰色	良好	鉄分、石英、白色粒子	70%	〃
4	坏	(12.0)	《4.0》	(5.6)	灰白色	普通	石英、白色粒子、片岩	図示 20%	末野産
5	〃	(13.0)	《4.3》	—	暗灰色	普通	石英、白色粒子、片岩	図示 40%	〃
6	椀	16.6	7.3	8.0	淡褐色	良好	石英、角閃石、鉄分	図示 80%	内面黒色処理
7	皿	—	《1.8》	8.8	明灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	末野産
8	〃	(10.0)	《3.5》	—	橙褐色	良好	鉄分、白色粒子、黒色粒子	図示 10%	ロクロ土師器
9	高台椀	(13.8)	6.0	6.3	明灰色	悪	石英、白色粒子、片岩	図示 50%	末野系
10	〃	—	《3.9》	(5.0)	黄灰色	悪	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	〃
11	〃	(17.2)	(6.3)	(7.0)	橙褐色	悪	白色粒子、石英、片岩	25%	ロクロ土師器
12	〃	—	《2.8》	6.0	暗灰色	悪	石英、白色粒子、片岩	図示 90%	末野系
13	〃	—	《3.4》	5.3	淡灰色	悪	白色粒子、石英、片岩	図示 90%	〃
14	〃	—	《4.1》	6.4	灰白色	悪	白色粒子、片岩	図示 60%	〃
15	椀	(15.0)	《4.5》	—	灰白色	良好	白色粒子、鉄分、石英	図示 20%	ロクロ土師器
16	高台椀	(15.3)	《5.8》	—	赤褐色	普通	石英、白色粒子、鉄分	図示 25%	〃
17	〃	—	《2.5》	9.6	橙灰色	良好	石英、角閃石、白色粒子	図示 70%	〃
18	鉢	—	《7.8》	—	灰褐色	普通	石英、白色粒子、片岩	図示 10%	末野産
19	甕	(22.0)	《5.6》	—	赤褐色	普通	鉄分、石英、白色粒子	図示 20%	
20	甕	(20.6)	《14.0》	—	茶褐色	良好	白色粒子、石英、鉄分	図示 25%	
21	台付甕	—	《3.9》	(12.6)	赤褐色	良好	白色粒子、鉄分、石英	図示 50%	
22	高台椀	(11.2)	3.6	(5.6)	明灰色	良好	緻密	図示 25%	灰釉陶器
23	〃	—	《3.2》	—	明灰色	良好	緻密	図示 10%	〃
24	〃	—	《2.2》	(7.4)	明灰色	良好	緻密	図示 45%	〃

13 号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(10.0)	3.3	—	橙褐色	良好	白色粒子、黒色粒子、石英	20%	
2	蓋	(9.3)	(3.1)	—	灰色	良好	精良・堅緻	図示 20%	湖西産

15 号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(12.0)	《2.0》	—	淡褐色	良好	白色粒子、黒色粒子、石英	図示 20%	
2	坏	(12.0)	《3.1》	—	橙褐色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 20%	
3	坏	(10.0)	《3.6》	—	暗褐色	良好	鉄分、白色粒子、角閃石	図示 40%	
4	坏	(12.0)	《3.2》	—	黒褐色	良好	鉄分、白色粒子、角閃石	図示 20%	
5	坏	(11.0)	(3.8)	—	橙褐色	良好	白色粒子、黒色粒子、石英	図示 25%	
6	坏	(11.9)	(4.3)	—	橙褐色	良好	黒色粒子、白色粒子、石英	図示 40%	
7	坏	11.4	3.9	—	茶褐色	良好	鉄分、白色粒子、黒色粒子	図示 25%	
8	坏	(11.2)	(4.0)	—	暗褐色	良好	雲母、黒色粒子、白色粒子	図示 20%	
9	高坏	—	《3.5》	(12.8)	赤褐色	良好	白色粒子、角閃石、石英	図示 25%	
10	坏	(10.0)	3.1	—	橙褐色	良好	白色粒子、黒色粒子、雲母	図示 40%	
11	坏	13.0	4.1	—	橙褐色	普通	白色粒子、黒色粒子、石英	図示 50%	
12	坏	(13.6)	(4.3)	—	橙褐色	良好	白色粒子、鉄分、チャート	図示 20%	
13	坏	(12.2)	(3.8)	—	茶褐色	良好	白色粒子、鉄分、黒色粒子	図示 30%	
14	坏	13.8	(5.7)	—	橙褐色	良好	黒色粒子、白色粒子、石英	図示 50%	
15	甕	—	《3.9》	8.0	淡褐色	良好	鉄分、黒色粒子、白色粒子	図示 50%	
16	蓋	(9.0)	(3.0)	—	濃灰色	良好	精良・堅緻	図示 20%	湖西産
17	蓋	(8.6)	2.9	—	淡灰色	良好	精良・堅緻	図示 40%	〃
18	蓋	(5.0)	《1.9》	—	暗灰色	良好	精良・堅緻	図示 20%	〃
19	蓋	(12.0)	《3.0》	—	明灰色	普通	精良・堅緻	図示 20%	〃
20	坏	(8.0)	《2.1》	—	濃灰色	良好	精良・堅緻	図示 25%	〃
21	坏	(8.0)	《1.8》	—	明灰色	良好	精良・堅緻	図示 20%	湖西産
22	坏	(8.7)	3.1	—	明灰色	良好	精良・堅緻	60%	〃
23	高坏	(15.4)	《5.2》	—	淡灰色	良好	石英、黒色粒子・白色粒子	図示 20%	群馬産
24	鉢	(28.0)	《10.0》	—	淡褐色	良好	白色粒子、鉄分、黒色粒子	図示 50%	〃

15 号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
25	鉢	(24.0)	《8.6》	—	淡褐色	良好	鉄分、石英、雲母、黒色粒子	図示 20%	群馬産
26	甕	12.8	《5.3》	—	橙褐色	良好	石英、白色粒子、角閃石	図示 30%	
27	甕	12.2	《7.3》	—	橙褐色	良好	石英、角閃石、雲母、鉄分	図示 20%	
28	甑	—	《6.5》	—	茶褐色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 30%	
29	支脚	8.8	19.3	13.8	淡褐色	不良	白色粒子、石英、鉄分	100%	

16 号住居跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	坏	(12.0)	(3.1)	(8.6)	淡褐色	良好	白色粒子、雲母、角閃石	20%	
2	高台椀	—	《2.3》	7.2	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	60%	末野産
3	甕	15.0	《5.4》	—	茶褐色	良好	雲母、鉄分、石英、白色粒子	図示 30%	

17 号住居跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	皿	(14.8)	3.1	5.8	明灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 30%	末野産
2	椀	(14.0)	《3.6》	—	黄灰色	良好	白色粒子、片岩	図示 20%	〃
3	椀	(16.0)	《4.4》	—	明灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 15%	〃
4	高台椀	—	《2.4》	(7.0)	橙灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	〃
5	高台椀	—	《2.0》	7.2	灰褐色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 100%	〃
6	台付甕	—	《2.4》	(9.0)	赤褐色	良好	白色粒子、石英、鉄分	図示 25%	
7	坏	13.4	4.0	—	橙褐色	良好	雲母、石英、白色粒子	図示 25%	
8	甕		《10.3》	—	黄灰色	普通	白色粒、片岩	図示 30%	末野産
9	甕	—	《40.0》	—	濃灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 20%	〃

19 号住居跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	坏	(14.0)	(4.5)	—	赤褐色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 15%	
2	台付甕	—	《1.7》	—	橙褐色	普通	石英、白色粒子、雲母	図示 80%	
3	皿	(18.0)	(4.4)	—	茶褐色	良好	白色粒子、石英、鉄分	図示 10%	

1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	坏	11.0	3.6	7.8	橙褐色	不良	鉄分、白色粒子、雲母	30%	
2	坏	12.0	3.9	8.0	淡褐色	普通	白色粒子、鉄分、石英	55%	
3	坏	(11.8)	《3.2》	—	橙褐色	良好	白色粒子、角閃石、石英	25%	
4	坏	(14.0)	《3.3》	—	赤褐色	良好	白色粒子、雲母、石英	図示 20%	
5	皿	(16.0)	《2.2》	—	明灰色	普通	石英、白色粒子、鉄分	図示 15%	末野産
6	椀	13.0	《5.1》	—	淡灰色	良好	鉄分、石英、白色粒子	図示 15%	〃
7	高台椀	(18.0)	(8.0)	(6.8)	暗灰色	良好	石英、鉄分、白色粒子	図示 25%	〃
8	手付瓶	—	《12.7》	—	明灰色	良好	黒色粒子	図示 15%	緑釉陶器
9	長頸瓶	—	《9.3》	8.8	明灰色	良好	白色粒子、石英	図示 25%	群馬産
10	〃　高台部	—	《2.6》	(12.0)	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	図示 25%	末野産
11	坏	10.6	3.7	—	橙褐色	良好	鉄分、白色粒子、石英	100%	放射状暗文
12	坏	(13.4)	4.8	—	橙褐色	良好	石英、白色粒子、雲母	50%	
13	高台椀	(13.5)	5.5	(7.4)	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	25%	末野産
14	高坏	—	《6.5》	—	暗灰色	良好	石英、白色粒子、片岩	30%	〃
15	甕	(18.4)	《5.7》	—	赤褐色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 20%	

1 号溝跡出土遺物観察表

No.	器　種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備　考
1	坏	(11.6)	3.8	(6.7)	橙褐色	良好	白色粒子、鉄分、雲母	図示 25%	
2	坏	(11.6)	3.7	(8.0)	橙褐色	良好	雲母、白色粒子、角閃石	図示 25%	
3	坏	(13.0)	(4.1)	(9.7)	赤褐色	良好	鉄分、雲母、白色粒	図示 70%	
4	皿	10.8	2.0	5.7	橙褐色	良好	鉄分、石英、白色粒子	図示 70%	ロクロ土師器
5	高台皿	(13.0)	《2.1》	—	淡灰色	良好	鉄分、白色粒子、石英	図示 30%	末野産
6	皿	(14.0)	《1.5》	—	暗灰色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 30%	〃
7	坏	(12.6)	4.0	5.7	濃灰色	良好	石英、鉄分、白色粒子	図示 20%	〃
8	坏	(12.6)	4.2	6.2	橙灰色	普通	石英、白色粒子、鉄分	図示 50%	ロクロ土師器
9	高台椀	(14.5)	6.4	(7.0)	淡灰色	良好	石英、鉄分、雲母、白色粒子	図示 20%	末野産
10	高台椀	14.0	6.2	7.4	明灰色	良好	鉄分、白色粒子、石英	図示 75%	〃
11	高台椀	—	《3.4》	6.2	淡灰色	良好	鉄分、白色粒子、石英	図示 50%	〃
12	高台椀	—	《4.0》	5.6	明灰色	良好	白色粒子、鉄分、石英	図示 90%	〃
13	椀	(14.0)	《3.7》	—	灰褐色	良好	白色粒子、鉄分、石英	図示 20%	〃
14	高台椀	—	《3.3》	7.4	淡灰色	良好	白色粒子、石英、鉄分	図示 50%	末野産
15	高台椀	(15.8)	(6.4)	7.4	明灰色	良好	石英、白色粒子、鉄分	図示 40%	〃
16	皿	(16.0)	《1.7》	—	明灰色	良好	鉄分、白色粒子	図示 15%	灰釉陶器
17	甕	(12.2)	《7.2》	—	黒褐色	普通	白色粒子、角閃石、鉄分	図示 25%	
18	甕	19.2	(27.2)	(5.1)	赤褐色	普通	石英、白色粒子、角閃石	図示 60%	
19	鉢	(29.0)	《6.8》	—	濃灰色	良好	白色粒子、石英、片岩	図示 10%	末野産

石製品観察表

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
1	抉状耳飾	(2.9)	3.1	1.5	7.5	滑石製	(縄文時代) 1号溝出土

鉄製品観察表

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
2	刀子	(6.7)	1.6	0.5	9.9	
3	鏃	(7.9)	2.7	1.1	26.5	
4	釘	(3.9)	1.7	—	5.5	

土製品観察表

No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	色調 (cm)	胎土	残存率	備考
5	土錘	6.9	2.1	淡褐色	鉄分、白色粒子、角閃石、石英	100%	8号住出土
6	土錘	6.0	1.5	淡褐色	白色粒子、角閃石、石英、鉄分	100%	〃
7	土錘	4.1	1.1	茶褐色	白色粒子、石英、鉄分	90%	〃
8	土錘	3.8	0.9	黒褐色	白色粒子、鉄分	100%	14号住出土
9	土錘	4.1	1.0	淡褐色	石英、鉄分、白色粒子	100%	〃
10	土錘	7.5	1.5	灰褐色	雲母、鉄分、白色粒子、黒色粒子	90%	15号住出土
11	土錘	5.5	1.3	灰褐色	角閃石、白色粒子、黒色粒子、鉄分	90%	13号住出土
12	土錘	2.3	0.8	茶褐色	白色粒子、鉄分、石英	50%	17号住出土

Ⅳ まとめ

1．塚東遺跡出土の土器・陶器について

塚東遺跡からは、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡等から豊富な土器・陶器類が出土した。遺構の切り合いが激しく、明らかに時期の異なる遺物が混入している場合もあることから、年代把握が難しい遺構もあった。

この中で、15号住居跡出土遺物は、塚東遺跡の成立を考える上で良好な資料となり得るであろう。当住居跡からは、土師器、須恵器が豊富に出土している。土師器坏は、大別すれば、古墳時代からの流れを汲む鬼高系土器第（47図No.1～8）と、7世紀中頃以降、激増する北武蔵型坏（47図No.10～14・No.12を除く）、その他（No.12）で構成されている。このような構成は、熊野遺跡成立期の指標として報告した熊野131次1号住居跡のものに近いと考えられる。

これらと共伴すると思われる坏H蓋・坏身（No.16～22）は、すべて湖西産の可能性が高い。

当遺跡周辺に大量に須恵器を供給した末野窯跡群の坏H→坏Gの変換は急激であり、ある時期以降、坏Hの焼成は、例外的なケースを除きほとんど行われなくなるが、消費地では依然として坏Hの需要があったと考えられる。熊野遺跡・塚東遺跡周辺では、湖西産の坏Hが、焼成量の少ない末野産坏Hの代用品として使用されていた可能性が高い。

塚東遺跡では、末野産坏G蓋・坏身が検出されていないが、土師器坏の状況を見る限り、末野窯跡群では坏G蓋・坏身の生産は開始されていたと考えられる。塚東遺跡15号住居跡での欠落は、偶発的なものであるのか、特殊な事情によるものであるかは不明である。いずれにしても、湖西産須恵器坏H蓋・坏身のまとまった出土は、今回の調査での大きな成果と言えるであろう。

一方、塚東遺跡では、9世紀以降の土器・陶器についても豊富に出土している。この中で8号住居跡出土土器は、他遺構からの混入と推定される遺物もあるが、須恵器坏・皿・椀の状況を見る限り9世紀後半に位置づけられる。

11号住居跡出土遺物はロクロ土師器、内面黒色土器、焼きの甘い須恵器坏がある。これらの状況は、やや時間差を有する可能性があるが、10世紀前半から中頃にかけての段階が想定される。須恵器坏の系譜を引くと推定されるロクロ土師器（第46図No.1）の出現時期を考えるにあたり、重要な資料となる。

施釉陶器で注目されるのは、8号住居跡出土遺物（第42図No.21）である。広口の長頸瓶又は短頸壺と考えられるが、これほどの大型品は当遺跡周辺では希少な事例と言うことができる。1号掘立柱建物跡出土の緑釉手付瓶も破片資料であるが、同様に希少な遺物である。これらの出土遺物から、郡家が衰退に向かう9世紀後半から10世紀にかけても当遺跡周辺では、希少品を入手可能な有力層の存在を推定することが可能であろう。

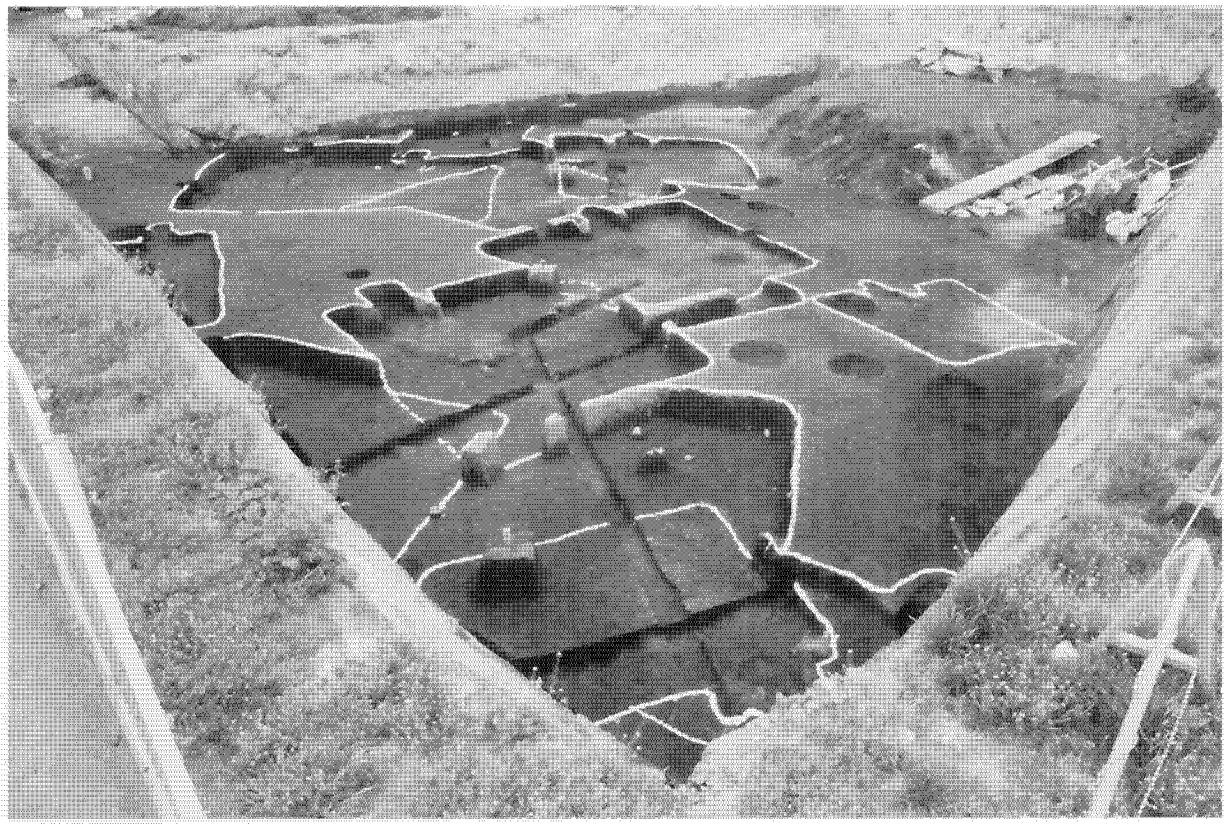
報告書抄録

ふりがな	つかつがしいせき
書　名	塚東遺跡Ⅱ
副書名	
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	第86集
編著者名	鳥羽政之
編集機関	深谷市教育委員会
所在地	〒366-0823　深谷市本住町17番地３　℡048(572)9581
発行日	平成19年３月28日

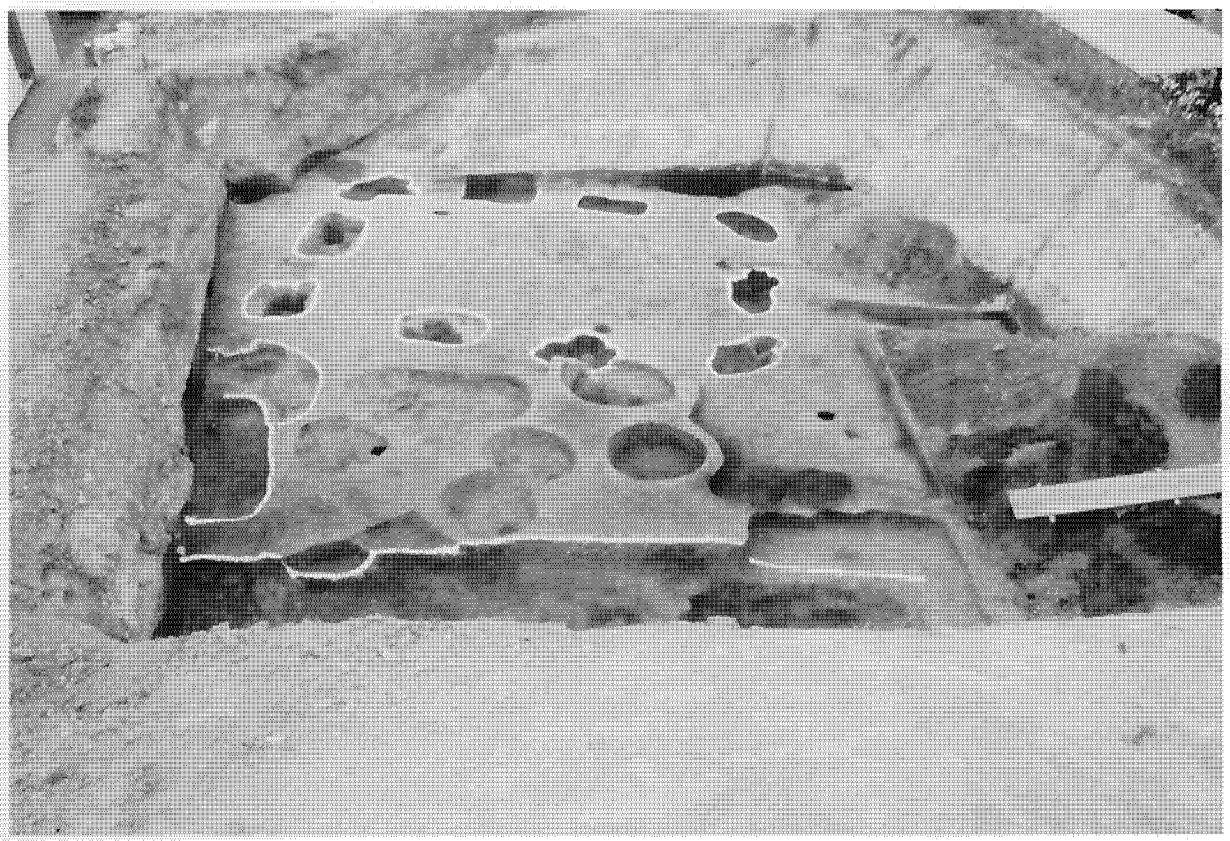
所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
塚東遺跡（つかつがしいせき）	埼玉県深谷市（さいたまけんふかやし）岡（おか）162番地１	11218	144	36° 12′ 24″	139° 14′ 27″	平成８年４月10日から 平成８年６月14日まで	816㎡	倉庫・事務所建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	飛鳥～平安時代	竪穴住居跡　19軒 掘立柱建物跡　１棟 溝跡　１条 土壙　９基	土師器 須恵器 ロクロ土師器 灰釉陶器 緑釉陶器	15号住居跡より湖西産須恵器坏日蓋・坏身が出土している。７世紀後半段階の資料として重要である。 ９世紀後半～10世紀にかけての土器・陶器類も豊富に出土している。８号住居跡出土灰釉陶器の大型品や１号掘立柱建物跡出土の緑釉手付瓶は注目に値する。

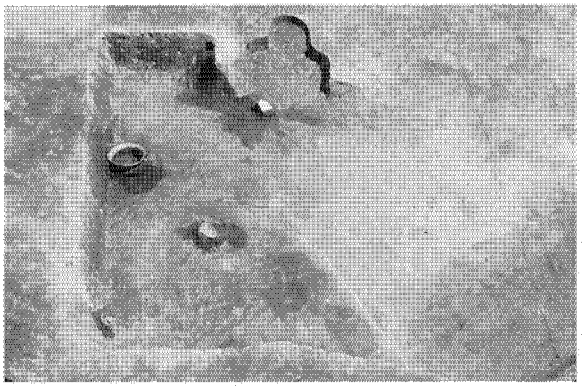
写 真 図 版

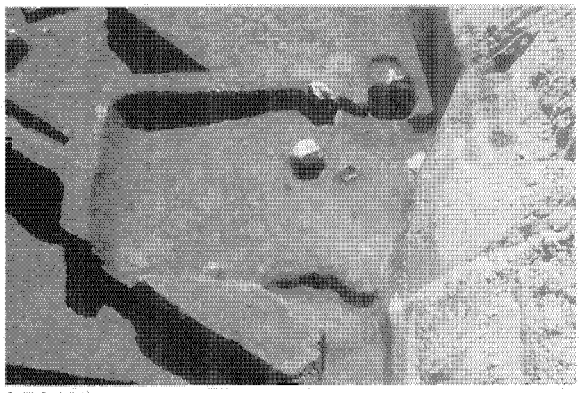


調査区西部の遺構群

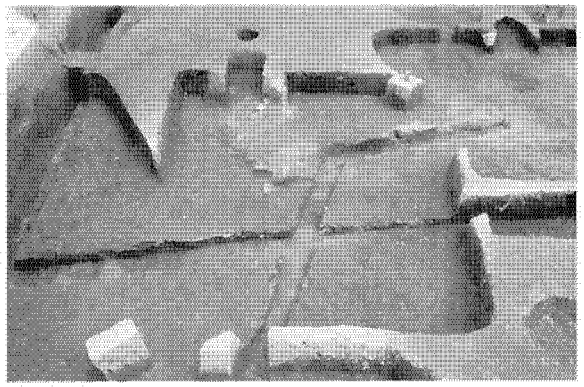


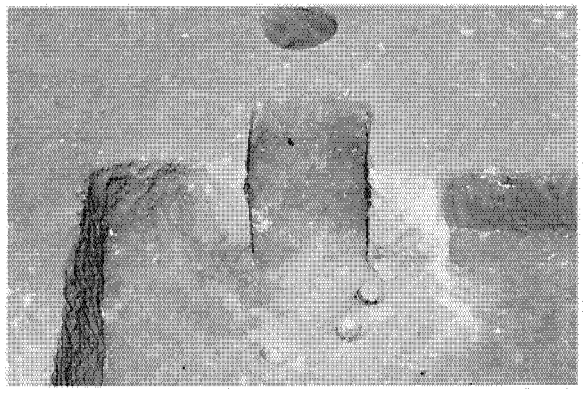
調査区東部の遺構群

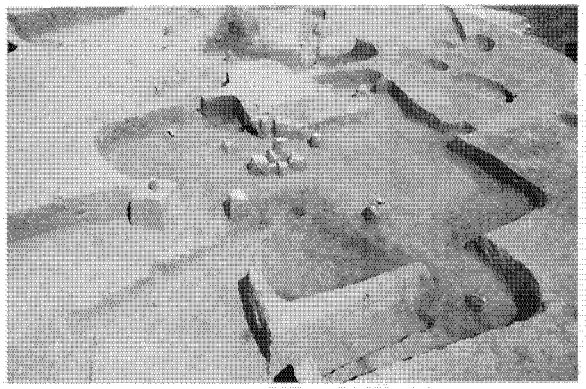

１号住居跡

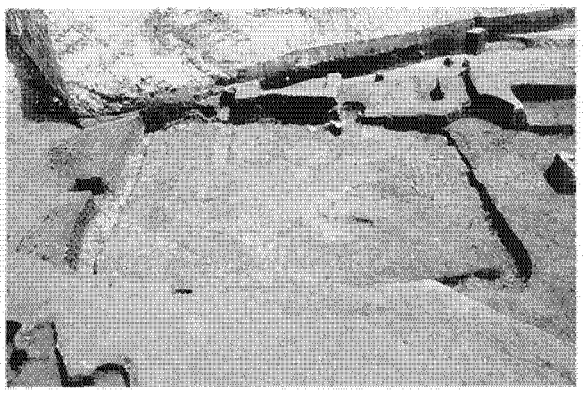

２号住居跡

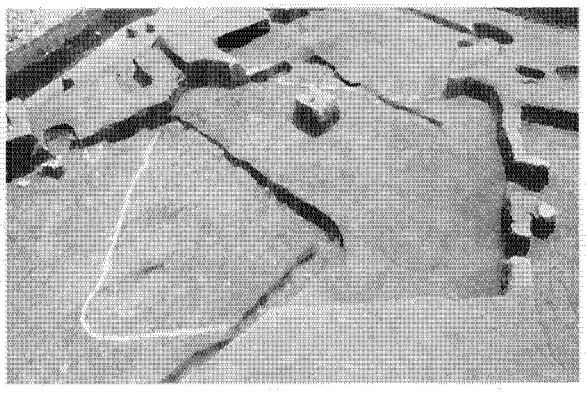
４号住居跡

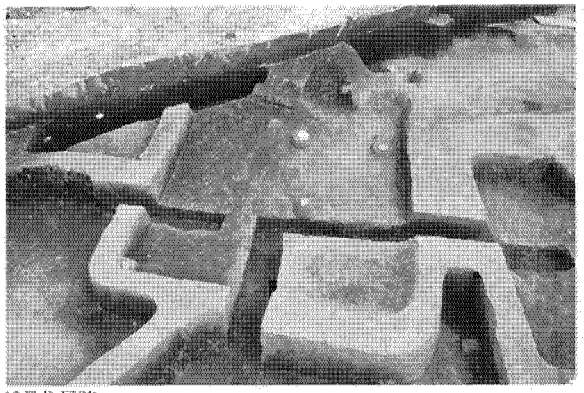

５号住居跡

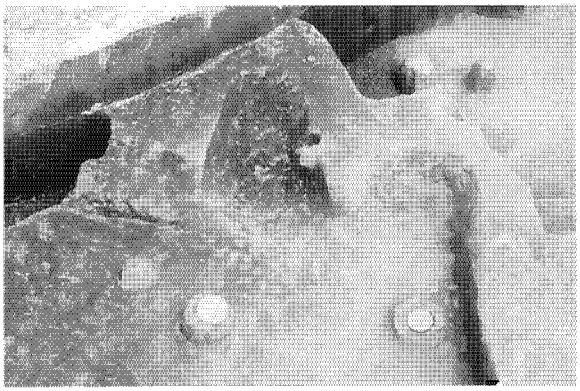

５号住居跡カマド

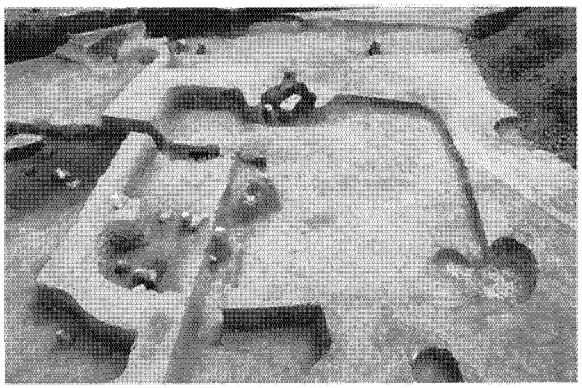

７号住居跡

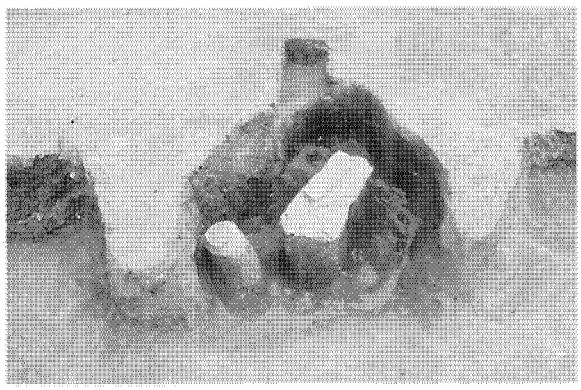

８号住居跡

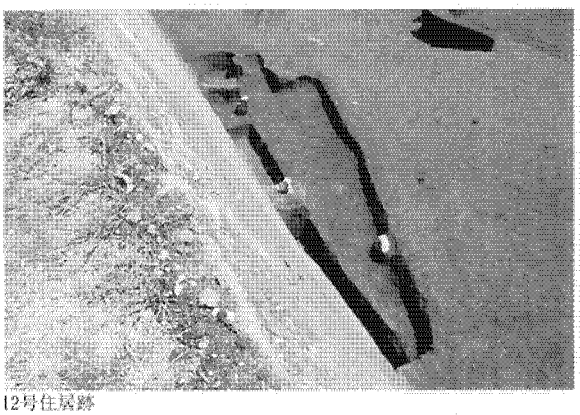

９号住居跡

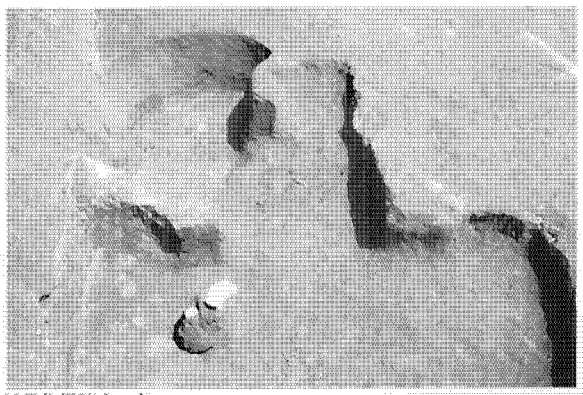

10号住居跡

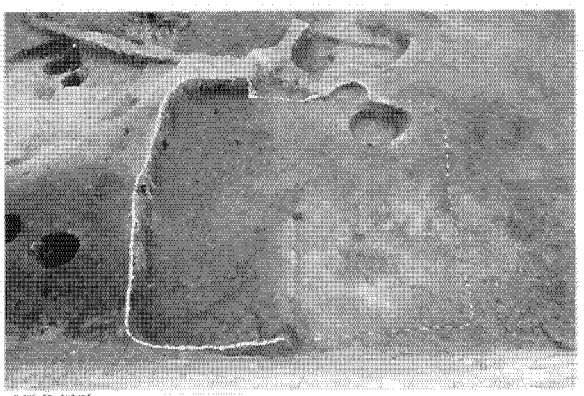

10号住居跡カマド

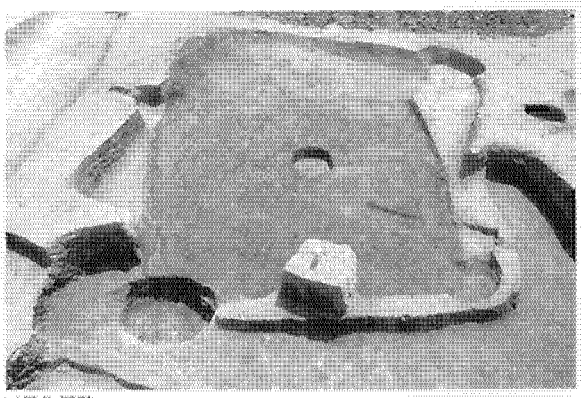

11号住居跡

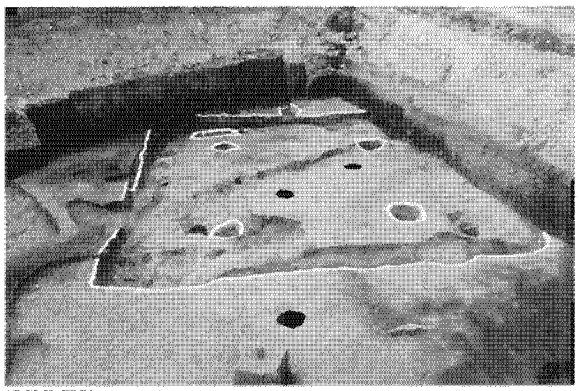

11号住居跡カマド

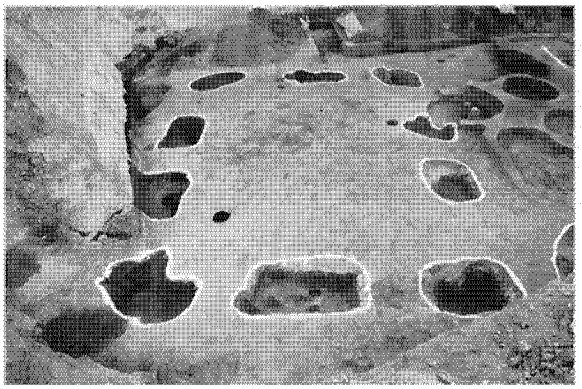

12号住居跡

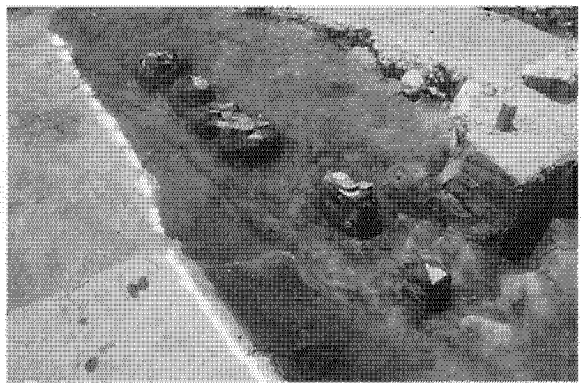

12号住居跡カマド

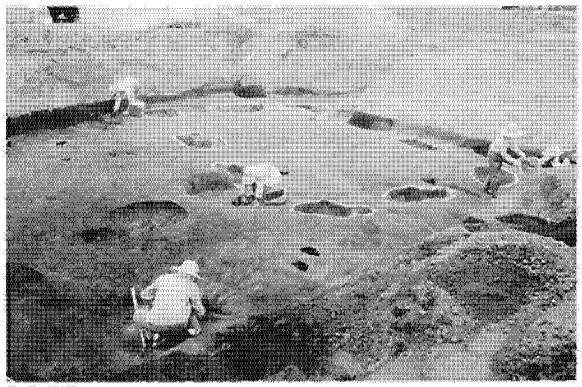

13号住居跡

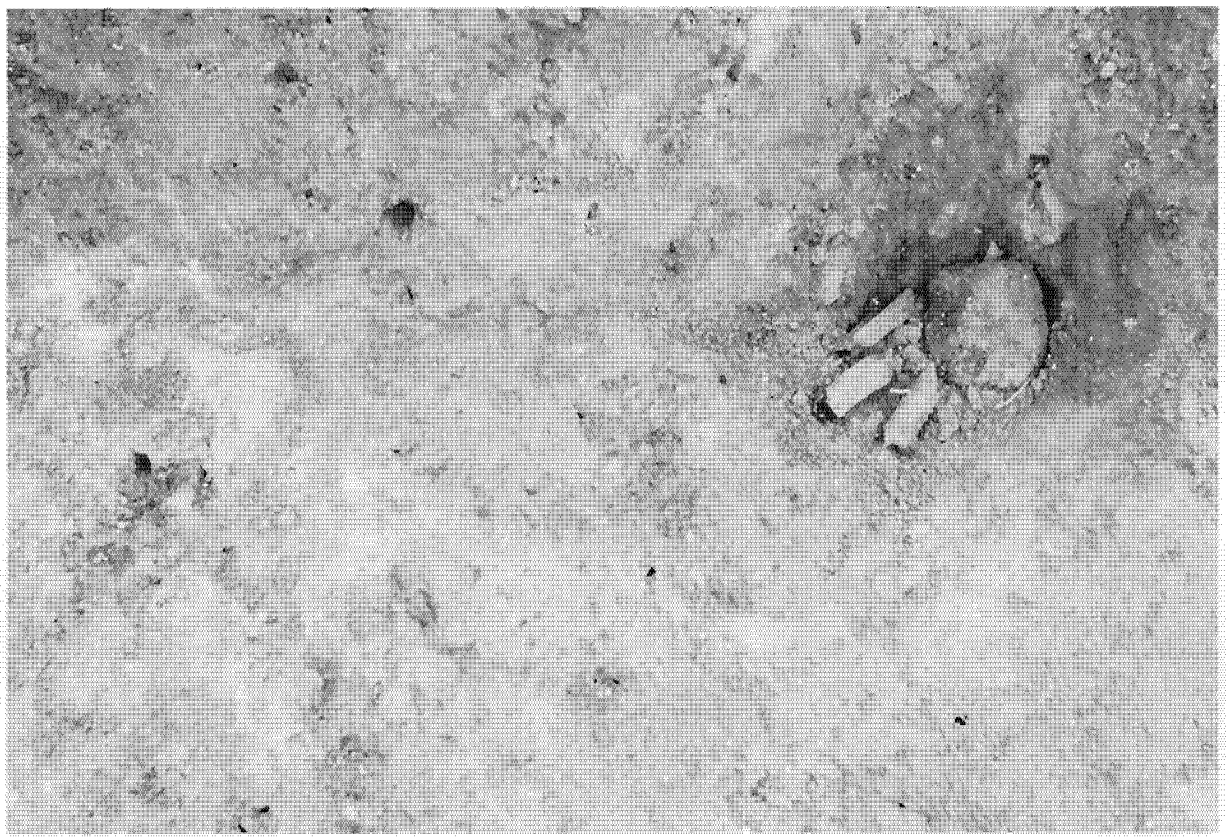

14号住居跡

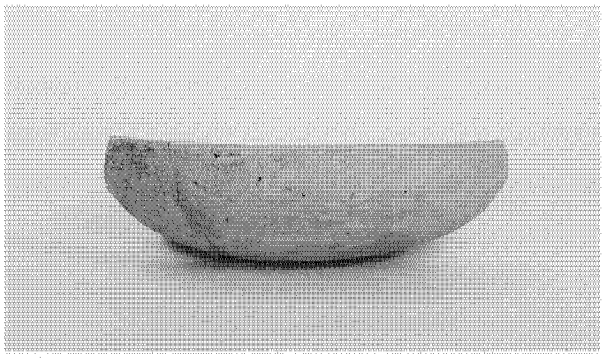

15号住居跡

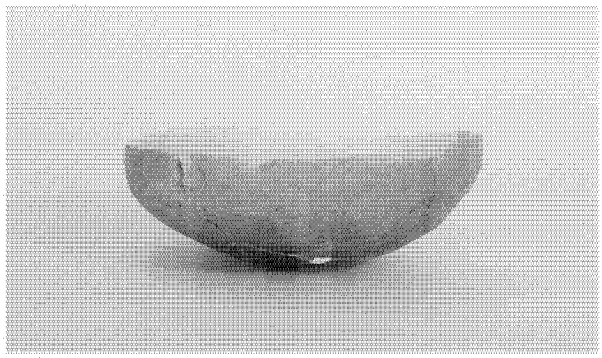

１号掘立柱建物跡


１号溝跡

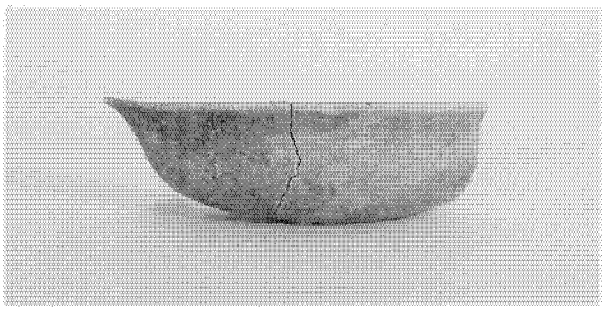

作業風景

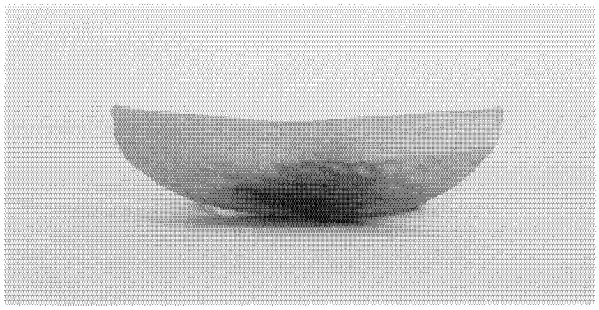

炭化米出土状況

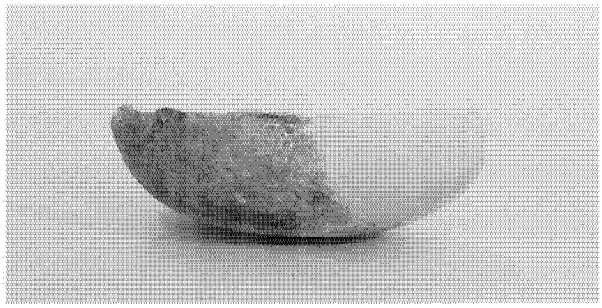

１号住居跡No.１

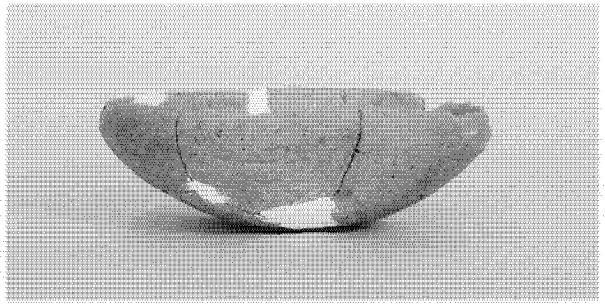

１号住居跡No.２

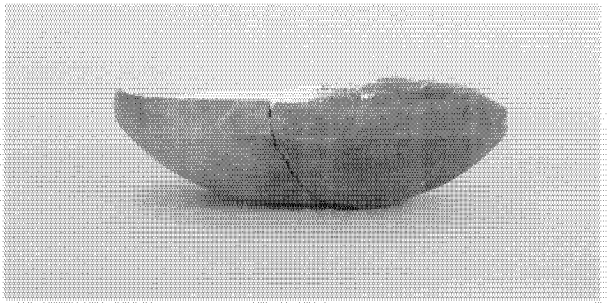
２号住居跡No.１

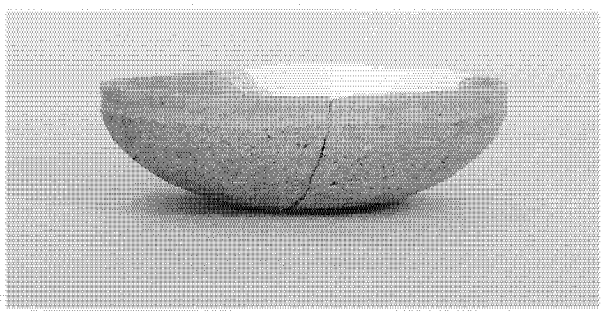

２号住居跡No.２

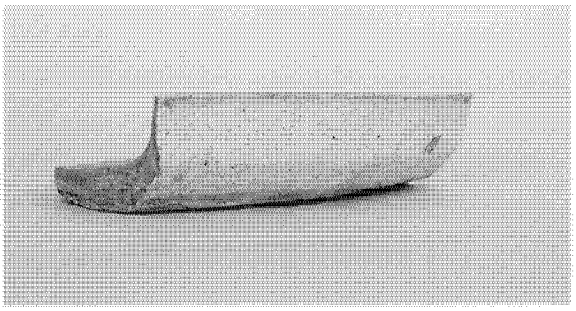

３号住居跡No.１

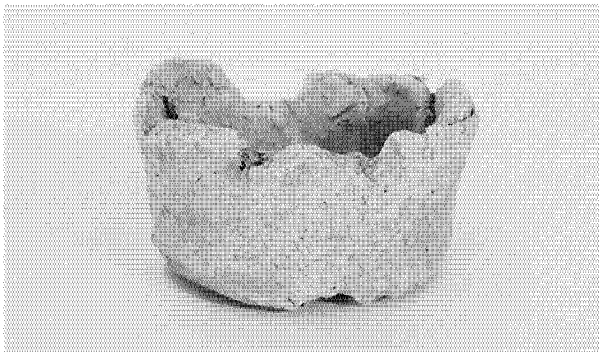

３号住居跡No.２

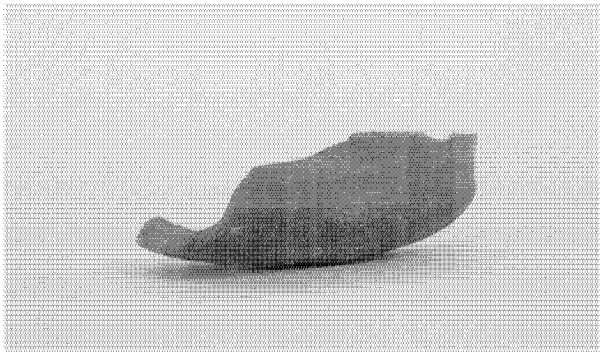

４号住居跡No.１

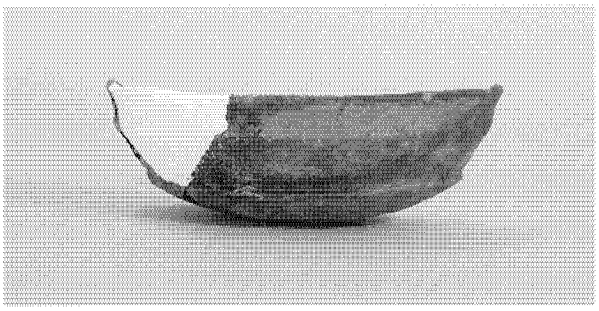

４号住居跡No.２

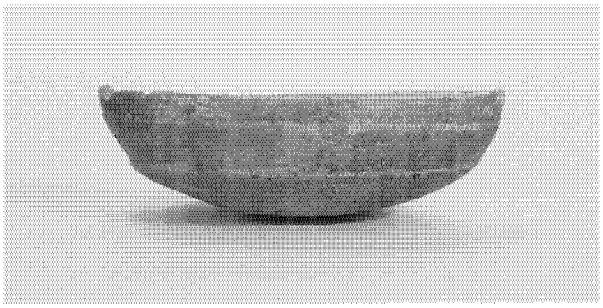

４号住居跡No.３

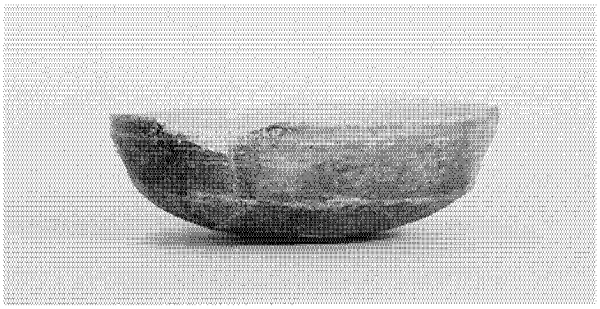

４号住居跡No.８

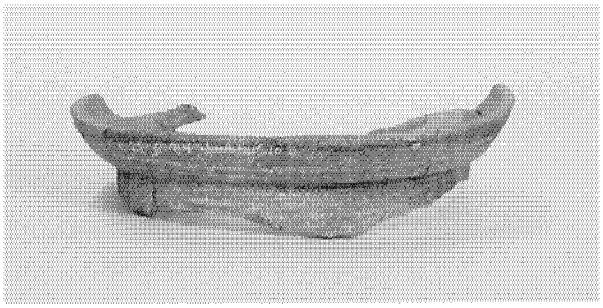

５号住居跡No.１

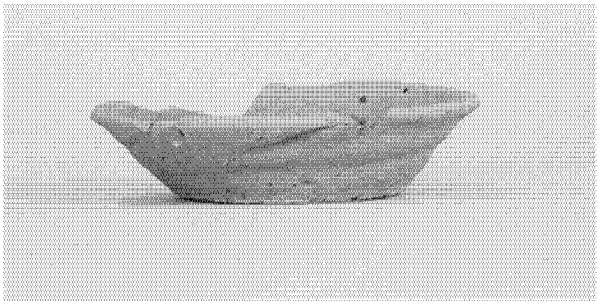

５号住居跡No.２

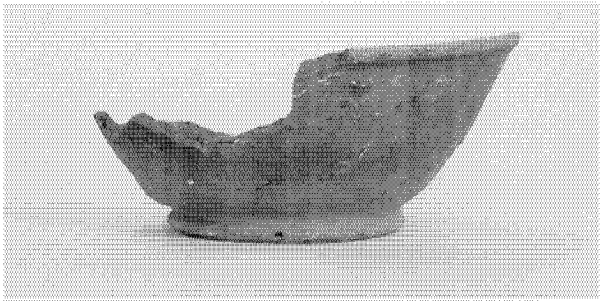

５号住居跡No.５

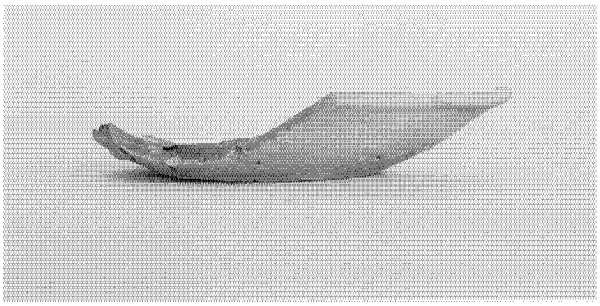

５号住居跡No.６

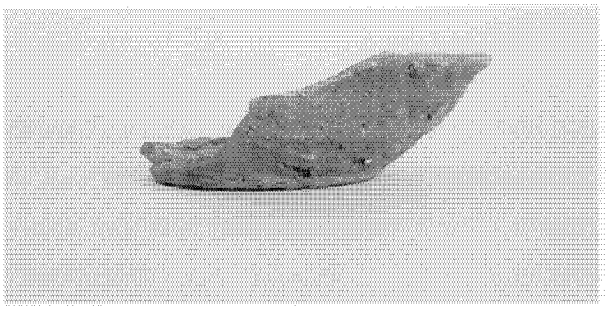

５号住居跡No.７

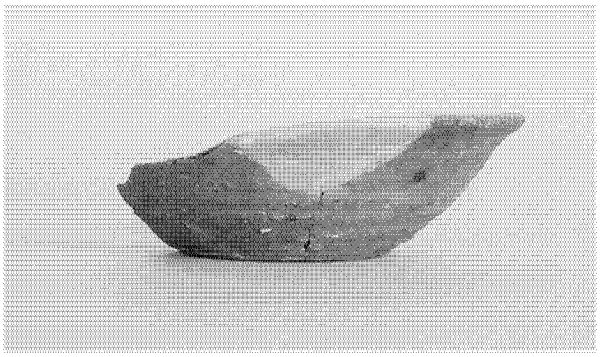

５号住居跡No.24


６・７号住居跡No.４

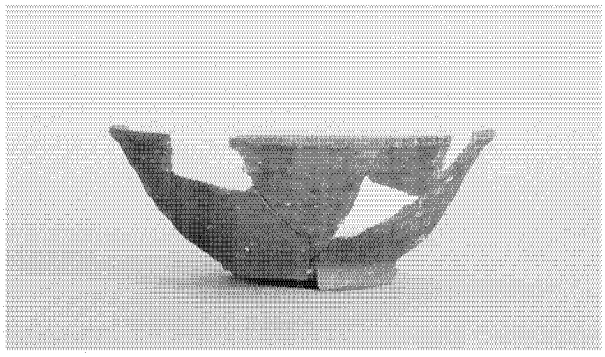

６・７号住居跡No.５


８号住居跡No.６

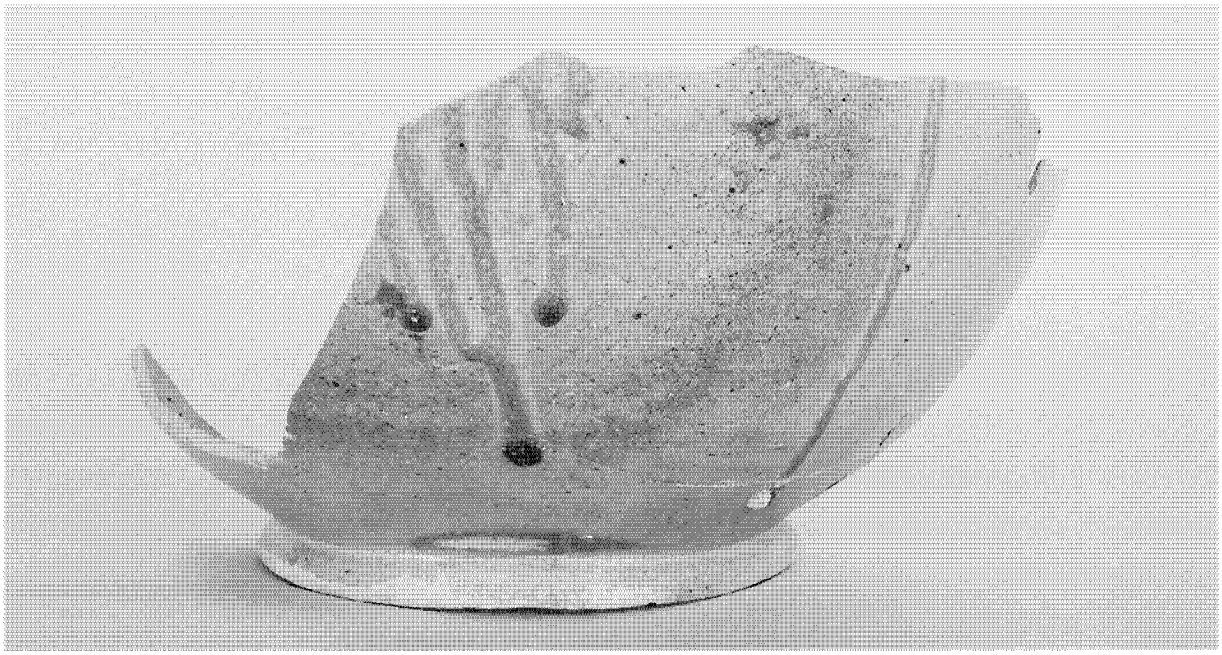

８号住居跡No.８



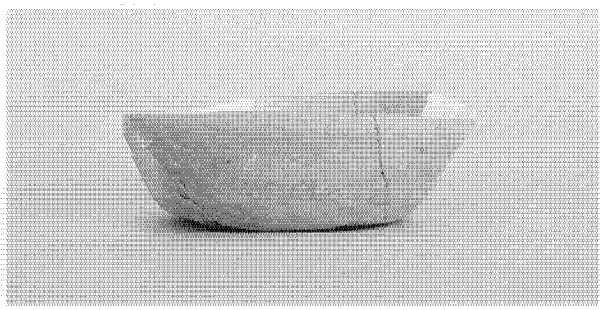
８号住居跡No.９



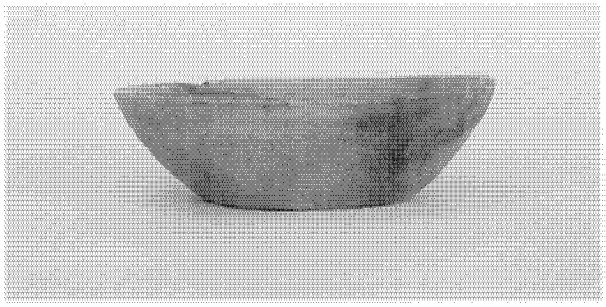
８号住居跡No.13



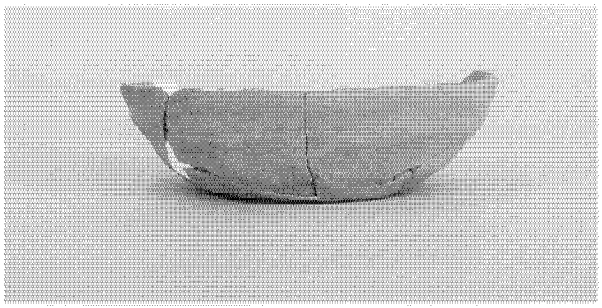
８号住居跡No.21



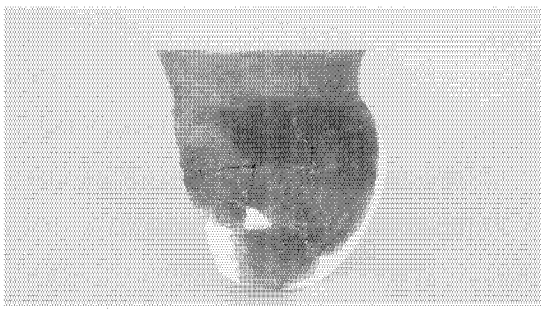
９号住居跡No.１



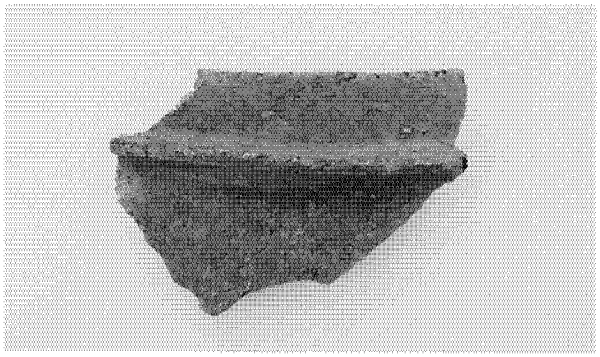
９号住居跡No.４



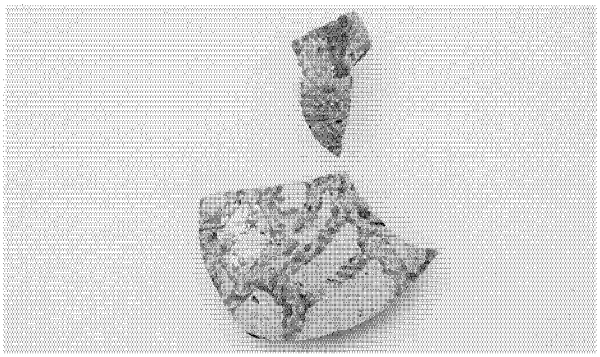
９号住居跡No.５



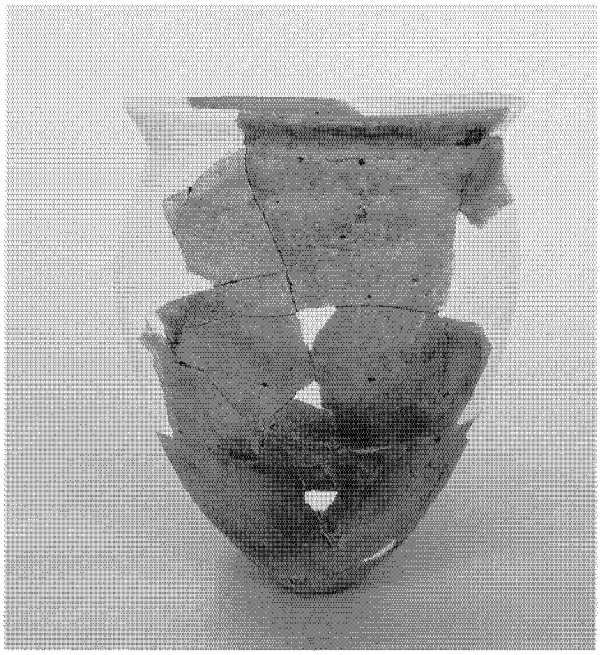
９号住居跡No.17



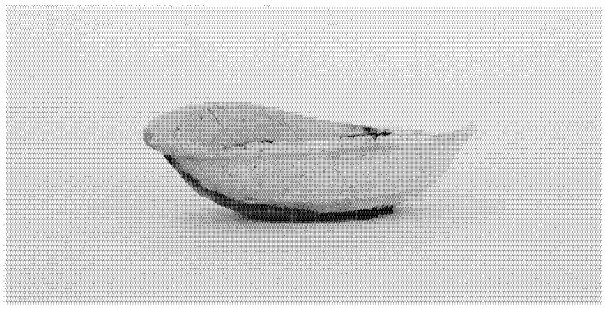
９号住居跡No.24



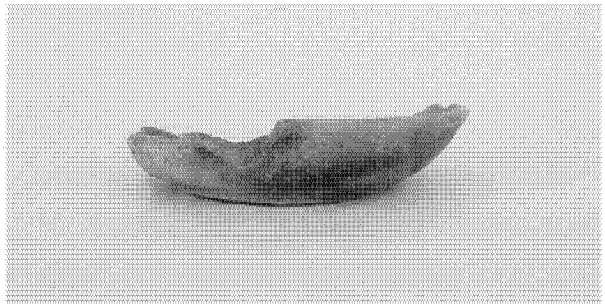
９号住居跡No.27



10号住居跡No.7

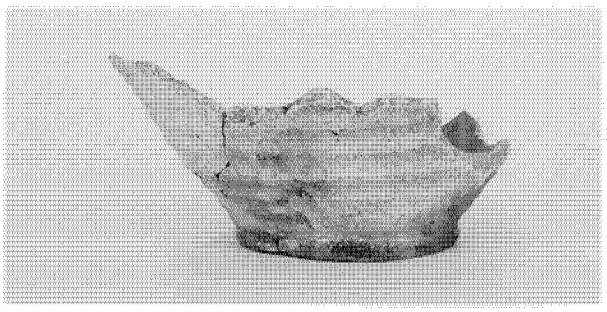


11号住居跡No.1

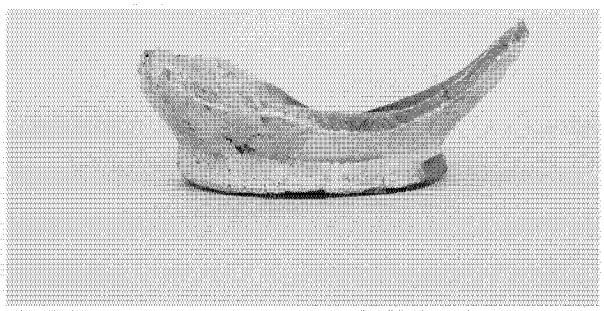


11号住居跡No.3

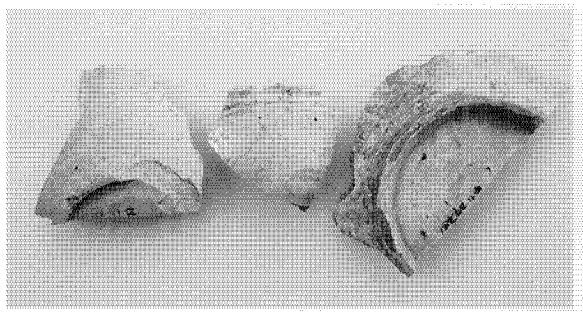
11号住居跡No.6



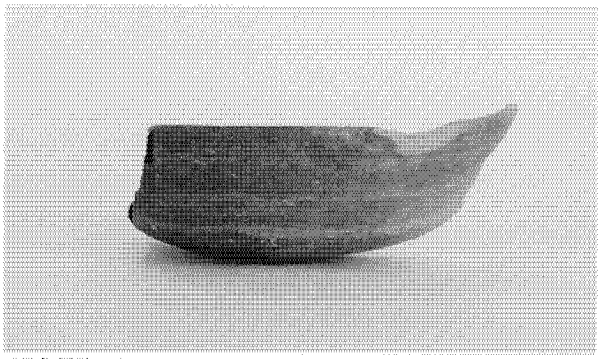
11号住居跡No.9

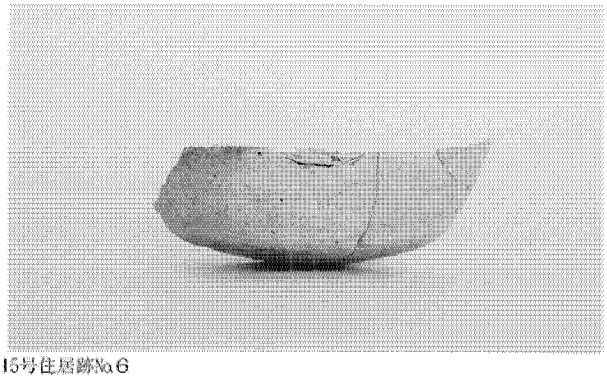


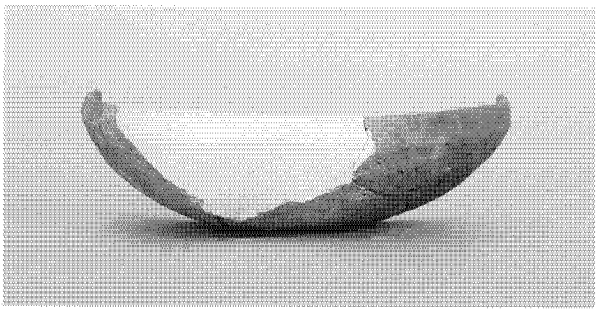
11号住居跡No.14

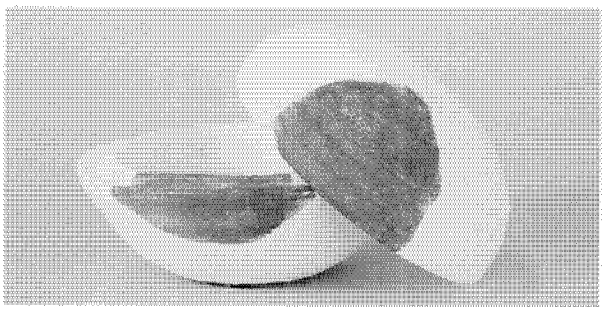


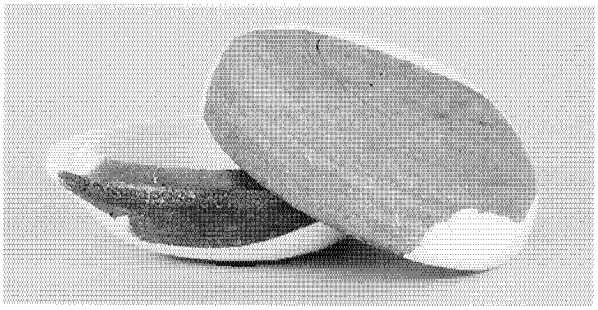
11号住居跡No.22～24

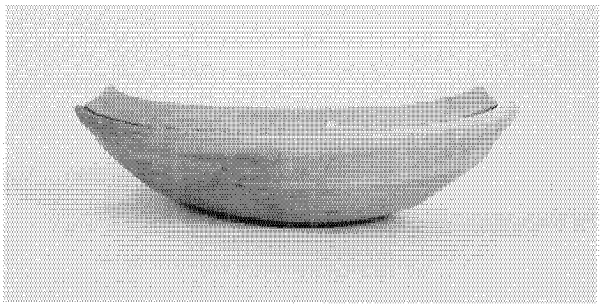

15号住居跡No.3

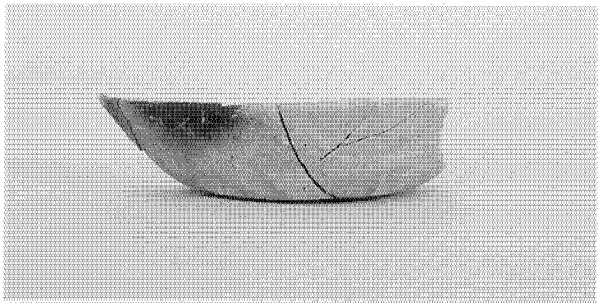

15号住居跡No.6

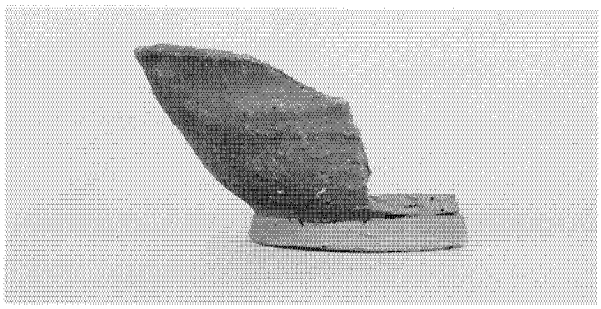

15号住居跡No.11

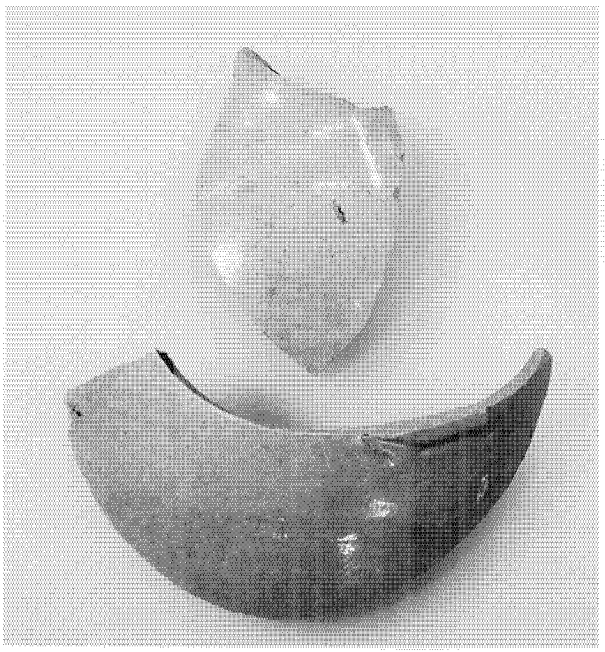

15号住居跡No.16・20

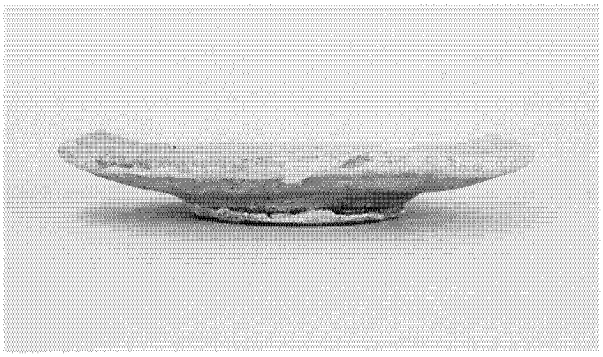

15号住居跡17・21


15号住居跡No.22

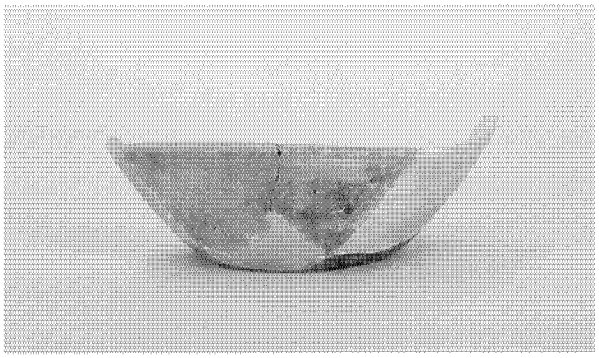

1号掘立柱建物跡No.2


1号掘立柱建物跡No.13

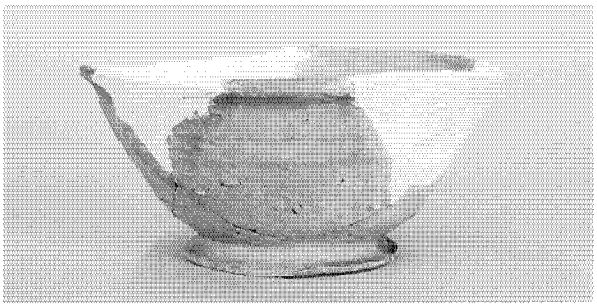

1号掘立柱建物跡No.8



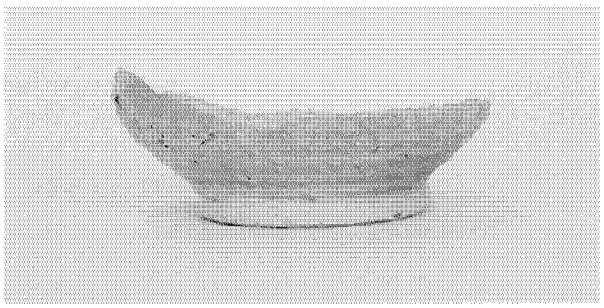
1号溝No.4



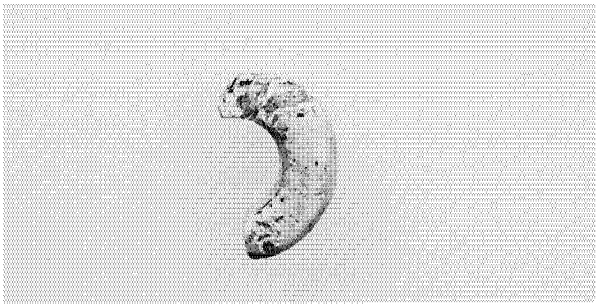
1号溝No.8



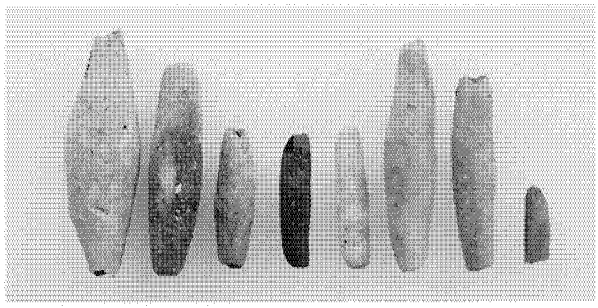
1号溝No.10



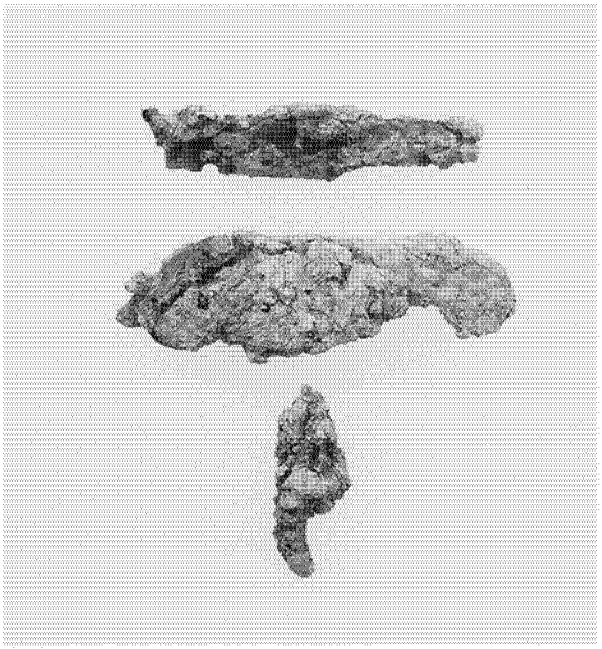
1号溝No.12



塚東遺跡出土抉状耳飾



塚東遺跡出土土錘



塚東遺跡出土鉄製品

塚東遺跡II

2007年3月28日
編集発行　深谷市教育委員会
埼玉県深谷市本住町17-3